

当別町人口ビジョン改訂版に関するアンケート調査結果

令和 8 年 2 月

当 別 町

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査期間	1
(5) 回収状況	2
(6) アンケート調査票	3
2. アンケート調査結果	14
(1) 町民アンケート調査	14
(2) 高校生アンケート調査	38
(3) 中学生アンケート調査	52
(4) 事業者アンケート調査	69

1. 調査概要

(1) 調査の目的

人口ビジョンの見直しと次期総合計画策定に向けて、町民、事業者および中学生・高校生の皆様からご意見を伺い、参考とするための基礎資料として、町民アンケート調査、事業者アンケート調査、高校生アンケート調査および中学生アンケート調査を実施しました。

(2) 調査対象

各調査の調査対象は以下の通りです。

【町民アンケート調査】

- ・当別町在住の18歳以上の町民のうち、無作為に抽出した1,100人の町民

【事業者アンケート調査】

- ・当別町商工会に所属する事業者のうち、無作為に抽出した100社の事業者

【高校生アンケート調査】

- ・当別町在住の高校生世代の町民のうち、無作為に抽出した317人の町民

【中学生アンケート調査】

- ・当別町立とうべつ学園後期課程(144人)および西当別中学校(116人)に在籍する計260人の生徒

(3) 調査方法

各調査の調査方法は以下の通りです。

【町民および事業者アンケート調査】

- ・郵送による配布、郵送回収またはWeb回答

【高校生アンケート調査】

- ・郵送による配布、Web回答

【中学生アンケート調査】

- ・各学校での実施、Web回答

(4) 調査期間

令和7年9月13日～令和7年9月28日

(5) 回収状況

アンケートの配布数・回収数・回収率は以下のとおりです。

表 アンケート配布数・回収数・回収率

配布先	回収方法	配布数	回収数			回収率		
			WEB	郵送	回収数	WEB	郵送	全体
町民	WEB/郵送	1,100	149	217	366	13.5%	19.7%	33.3%
高校生	WEBのみ	317	91	-	91	28.7%	-	28.7%
中学生	WEBのみ	260	218	-	218	83.8%	-	83.8%
事業者	WEB/郵送	100	15	37	52	15.0%	37.0%	52.0%

問3 転居（引っ越し）について

問3-1 いつから当別町にお住まいですか？
（1つ選択）

1. 生まれつきたときからずっと当別町に住んでいる
2. 当別町出身で戻ってきた → () 年前に
3. 町外から転入してきた → () 年前に

問3-2 <問3-1で、2または3と回答した方にお聞きします>
当別町に住むことになったきっかけは何ですか？（あてはまるもの全て）

1. ご自身または家族の「就学」のため
2. ご自身または家族の「就職・転職」のため
3. ご自身または家族の「転勤」のため
4. ご自身または家族の「結婚・引越」のため
5. 結婚・離婚・同居など家族の理由
6. 住宅取得のため
7. 生活利便性を求めて（子育て、医療、買い物、交通利便など）
8. 良好な自然環境を求めて（気候、景観、農業、緑地など）
9. その他 ()

問3-3 今後とも当別町に住み続けたいと思いませんか？（1つ選択）

1. 当別町に住み続けたい
2. 当別町に住み続けたいが、町外へ転出すると思う
3. 町外へ転出したい
→ 具体的な希望先がある場合は市町村名を記入（市・町・村）
4. わからない

問3-4 <問3-3で、2または3と回答した方にお聞きします>
町外へ転出する理由（または転出した理由）は何ですか？（あてはまるもの全て）

1. ご自身または家族の「就学」のため
2. ご自身または家族の「就職・転職」のため
3. ご自身または家族の「転勤」のため
4. ご自身または家族の「結婚・引越」のため
5. 結婚・離婚・同居など家族の理由
6. 住宅取得のため
7. 生活利便性を求めて（子育て、医療、買い物、交通利便など）
8. 良好な自然環境を求めて（気候、景観、農業、緑地など）
9. その他 ()

問3-5 <全ての方にお聞きします>

町内で同居していたご家族が町外へ転出されたことがありますか。（ない場合は記入しない）

ご家族の続柄	転出先（自治体名）	転出した理由（問3-4の選択理由を参考に回答ください）
()	()	()
()	()	()
()	()	()

問4 当別町での暮らしについて

問4-1 あなたは当別町での暮らしについて、どのように感じていますか。
（分野ごとに評価 A～E の1つ○）

分野	評価				
	A. あてはまる	B. ややあてはまる	C. どちらとも言えない	D. あまりあてはまらない	E. 全くあてはまらない
① 医療機関が充実している	A	B	C	D	E
② 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	A	B	C	D	E
③ 日常の買い物に不便がない	A	B	C	D	E
④ 飲食を楽しめる場所が充実している	A	B	C	D	E
⑤ 適度な費用で住居が確保できる	A	B	C	D	E
⑥ 公共交通機関で、好きな所に好きなところへ移動ができる	A	B	C	D	E
⑦ 短い時間を過ごせる緑地施設がある	A	B	C	D	E
⑧ 子育て支援・補助が手厚い	A	B	C	D	E
⑨ 子どもたちがいきいきと暮らせる	A	B	C	D	E
⑩ 教育環境（小中学校）が整っている	A	B	C	D	E
⑪ 公共施設は使い勝手がよく便利である	A	B	C	D	E
⑫ 行動サービスのデジタル化が進んでいる	A	B	C	D	E
⑬ 自働できる自然環境がある	A	B	C	D	E
⑭ 防犯対策（交番・楯盾・防犯カメラ・住民の京守り等）が整っており、治安がよい	A	B	C	D	E
⑮ 挨拶や一言が整頓されて、安心である	A	B	C	D	E

問4-2 総合的に当別町の暮らしにどの程度満足していますか。
「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点として
点数をつけてください。（ ）点

() 点

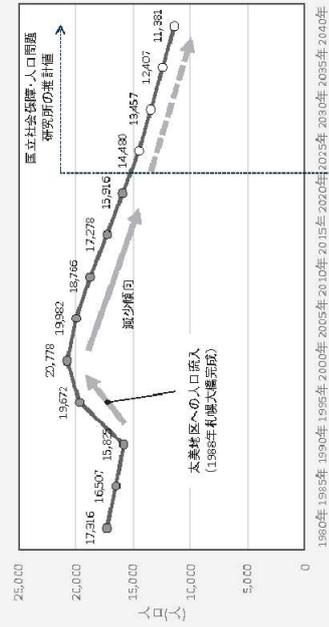
問5 まちづくりの取り組み

問5-1 下記の取り組みについて、暮らしの満足度を上げるうえで重要だと思えますか。(分野ごとに評価 A～E または ? の1つ)

取り組み	対策の重要度				
	重要	やや重要	どちらでもない	やや不要	不要
取り組み					
企業誘致の推進による雇用の確保	A	B	C	D	E
観光の充実による人を呼び込む施策の推進	A	B	C	D	E
後任促進施策による人口増加の促進	A	B	C	D	E
障がい者雇用の充実による冬期間の雇用の確保	A	B	C	D	E
地元農産物のブランド化、6次産業化の促進	A	B	C	D	E
町内消費喚起施策の推進による商工業の活性化	A	B	C	D	E
中心市街地の賑わいの創出	A	B	C	D	E
小中一貫教育による特色ある教育の充実	A	B	C	D	E
子育て時期に合わせた支援制度の拡充・創設	A	B	C	D	E
子ども達が遊べる公園の整備・充実	A	B	C	D	E
再生可能エネルギーによる地域循環型社会の構築	A	B	C	D	E
多様な福祉の担い手との協働による共生型福祉社会の推進	A	B	C	D	E
二一ノズの変化にあわせて公共施設の改良や統廃合	A	B	C	D	E
利便性の高い交通網(道路・鉄道・バス等)の形成	A	B	C	D	E
北海道医療大学移転後の新たなまちづくりの推進	A	B	C	D	E

問6 将来人口について

町の人口の推移と将来予測
 5年毎に実施される国勢調査の結果をみると、当町の人口は1990年(平成2年)から人口が急増し、2000年(平成12年)には2万人を超えました。人口増加の背景には1988年(昭和63年)の札幌大博覧会後、太宰地区の開発によって人口流入が進んだことが考えられます。2000年以降、人口は減少傾向となり、2020年(令和2年)には15,916人となりました。国立社会政策・人口問題研究所の将来推計によると、人口減少は今後も続き、2030年(令和12年)は約1万3千人、2040年(令和22年)は約1万1千人になると推計されています。



問6-1 当町の人口が減少していくという見通しを変え、今後、町としてどのような対策を行うべきと考えますか。
 あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 出産・子育ての支援策に重点を書くべき
2. 未来を担う子どもを育成する教育施策に重点を書くべき
3. 働き手を呼び込むような産業対策に重点を書くべき
4. 都会などからの移住者を呼び込むような移住対策に重点を書くべき
5. 高齢になっても安心して暮らせるように高齢者対策に重点を書くべき
6. 税収が減っても行政サービスが縮減しないように行財政運営に重点を書くべき
7. 人口が減少しても住居サービスの向上に重点を書くべき
8. その他の対策

問7 「子育て支援施設」について

問7-1 子育て支援として考えられる施設には以下のようなものがあります。
このうち町が積極的に取り組むべきだと考える施設を選んでください。

(あてはまるもの全て、選抜以外の施設アイディアは「その他」に記入)

1. 親子のふれあいの場(子育て支援センター)の更なる充実
2. 公園など野外の活動場所の充実
3. 児童館の整備
4. 屋内遊戯施設の整備
5. こどもの体験機会(こども向けイベント)の提供
6. 子育てがしやすい賃貸住宅など居住環境の整備
7. 困った時(不定期)にこどもを預けられるサービスの拡充
8. こどもの発達や障がいの相談体制や支援の拡充
9. 小中一貫教育や転入ある学校教育の更なる推進
10. 医療体制の充実
11. その他()

問7-2 子育て支援について、ご意見があればお書き下さい。

問8 「北海道医療大学の移転」について

問8-1 北海道医療大学が当別町から移転することで、どのような影響を受けると思われますか？
ご自身への影響について、それぞれ選択肢から選んでください。

想定される影響	選択肢		
① まちの雰囲気が薄れ、まちづくりの面で影響を受ける。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
② 健康クリニック等が利用できなくなるため、医療面で影響を受ける。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
③ 大学関係者や学生が引っ越すため、生活面で影響を受ける。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
④ 学生など公共交通の利用者数が減るため、交通面で影響を受ける。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
⑤ 学生や大学と関係した業務を行っているため、仕事面で影響を受ける。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
⑥ 今後の生活において、大きな影響を受ける。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない

問8-2 上記の内容を踏まえ、北海道医療大学が当別町から移転することについて、ご自身の考えを、それぞれ選択肢から選んでください。

設問	選択肢		
① 若い世代の町民から移転後のまちづくりを考える動きが広がるなど、前向きに捉えている。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
② 移転後の跡地活用によっては、新たなまちづくりへのチャンスと捉えている。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
③ 町内に居住する学生がいなくなることで活気がなくなり、町が静まる。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
④ 大学の移転をきっかけに、暮らしの周辺し(居住地や就業先など)を検討する。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない

問8-3 当別青年会議所を中心とした町内の青年団体が連携し、北海道医療大学を会場として
8月10日～12日に開催された「Tobetsu Mtrial Fes (とうべつミライフェス)」について
お伺いします。

設問	選択肢		
① Tobetsu Mtrial Fes (とうべつミライフェス)が開催されたことを知っていますか？	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
② 今後も継続して開催され、これからのまちづくりについて考えるきっかけになることに期待しますか？	1. はい	2. いいえ	3. 分からない

問8-4 北海道医療大学の移転について、ご意見があればお書き下さい。

問9 ご意見

当別町について日頃感じていることや、これからのまちづくりに向けての意見や提案など、自由にお書き下さい。(自由回答)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

② 高校生アンケート調査票

当別町の人口ピロジションに関する高校生アンケート調査

町では、急速に進む少子高齢化に的確に対応し、人口減少に歯止めをかけるため、当別町をより住みやすい町にするための取組を進めたいと考えています。

そのためには、当別町に在住のみなさんが、町に対してどのような意見を持っているのか、どのような進学・就職の希望を持っているのかがとても重要になります。

今後、みなさんが大人になり、社会に出て、いろいろな分野で活躍されると思いますが、当別町の将来を担うみなさんの意見や希望を聞かせてください。

なお、この調査は無記名で行い、回答はすべてコンピュータで統計的に処理し、それぞれ個別の内容を公表することはありません。アンケートの回答結果は、次の総合計画の策定に向けた基礎資料とするほか、今後のまちづくりにも活用しますので、ぜひアンケート調査にご協力ください。

◆ 紙の調査票の代わりに、右のQRコードからWEB回答もできます。

◆ ご回答は、内のあてはまる番号を○で囲むか、内に語句、数字等を入力して下さい。

◆ 番号を囲む際には、(1つ選択) (あてはまるものを全て) など、選択数を指定しています。



問1 あなたの自給のことについて

問1-1 あなたの性別および学年 (各1つ選択)

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

1. 男 2. 女

問1-2 住所 (1つ選択)

1. 本町市街地 (幸町、幸町、石川町、白旗町、北条町、五ノ木町、元町、新白旗、栄町、下川町、八軒町、梅戸町、若葉、新町、栗田、柳田、新田)

2. 太美市街地 (太美中町、太美南町、太美北町、太美スターライト、太美駅、太美西、太美東)

3. 本町地区郊外 (井原町、箕原町、みどり野、青田、中川原、金沢、津島、刈野、磯田町、) 下石原、川下左衛門、上石原)

4. 太美地区郊外 (御宇隊、当別本、ビトエ、高岡)

5. スウェーデンヒルズ

問1-3 家族人数

ご自身を含めて () 人家族

問1-4 同居している家族の続柄を選んで下さい。(あてはまるものを全て)

1. 親 2. 祖父母

3. 兄弟姉妹(小学生以下) 4. 兄弟姉妹(中学生以上)

5. その他 ()

問1-5 生居形態 (1つ選択)

1. 戸建ての持ち家 2. 分譲マンション

3. 戸建ての民間借家 4. 民間賃貸アパート・マンション

5. 公営住宅 6. 社宅・官舎・寮

7. その他 ()

問1-6 いつから当別町にお住まいですか? (1つ選択)

1. 生まれたときからずっと当別町に住んでいる

2. 町外から転入してきた () 年前に

問2 「高校卒業後の進路」について

問2-1 高校卒業後の進路は? (未定でも大まかな希望で記入してください)

1. 大学・専門学校等へ進学する ()

2. 就職する ()

3. その他 ()

進学先・就職先のある市町村名 ()

問2-2 <問2-1で1と回答した方にお尋ねします>

進学先を運ぶポイントは何ですか。(あてはまるものを全て)

1. 自分の学力に合う

2. 学びたい学科がある

3. 校風が良い

4. やりやすい活動がある

5. 評判が良い

6. 就職に有利

7. 学費が安い

8. 自宅から通学できる

9. 寮や下宿がある

10. 親戚・兄弟の家から通学できる

11. 学校周辺の環境が良い

12. 学校が所在するまちに住みたい

13. 兄弟や知人等が通っている(いた)

14. その他 ()

問3 「北海道医療大学の移転」について

問3-1 北海道医療大学が2028年に当別町から北広島市へ移転します。移転することで、あなたの進路に影響はありますか。(現時点の大まかな予想でかまいません)。(1つ選択)

1. 北海道医療大学に進学したいと思っていたが、移転したため進学先希望を変更する

2. 北海道医療大学に進学したいと思っており、移転しても進学先希望に変更はない

3. もともと北海道医療大学に進学するつもりはなく、影響はない

4. わからない

5. その他 ()

問3-2 <問3-1で、1もしくは2と回答した方にお尋ねします>

進路変更もしくは大学の移転に伴い、住む予定の場所に変更はしますか。(1つ選択)

1. 当別町に住み続ける予定であったが、他市町村で一人暮らしをする

2. 移転しなくても他市町村で一人暮らしをする予定であったため、変更はない

3. 移転しても当別町に住み続ける

4. わからない

5. その他 ()

問3-3 当別青年会議所を中心とした町内の青年団体が連携し、北海道医療大学を会場として8月10日～12日に開催されたTobetsu Mirai Fee（とうべつミライフェス）についてお伺いします。

設問	選択肢
①Tobetsu Mirai Fee（とうべつミライフェス）が開催されたことを知っていますか。	1. はい 2. いいえ 3. 分からない
②今後も継続して開催され、これからのまちづくりについて考える場となることに期待しますか？	1. はい 2. いいえ 3. 分からない

問3-4 北海道医療大学の移転について、ご意見があればお書きください。

問4 「就職」について

問4-1 将来どんな職業に就きたいと思っていますか。最も就きたい職業を一つだけ答えてください。

具体的な職業名記入（ _____ ）

その職業が該当する項目を下から選んで下さい。（1つ選択）

1. 弁護士、裁判官、検察官
2. 医者、歯科医、薬剤師
3. 看護師、介護福祉士
4. 獣医、動物飼育、ペットショップ、トリマー
5. 警察官、消防士、自衛官
6. 幼稚園・保育園の先生（保育士）
7. 教師
8. 大学教授、科学者
9. パイロット、客室乗務員
10. コンピュータ関係（ソフト開発など）
11. 建築士、設計士
12. ニック、調理師、栄養士
13. 理髪師、美容師
14. 翻訳、翻訳家
15. 会社経営者、起業家
16. 会社員
17. 公務員
18. 農家、林業
19. 漁師
20. 商店主など自営業者
21. パン屋、ケーキ屋、花屋
22. 自動車整備士、自動車・電單車などの運転士
23. 店員、販売員
24. スポーツ選手
25. 俳優、タレント、歌手
26. 画家、デザイナー、写真家
27. 音楽家、作曲家
28. 作家、アニメ作家、まんが家、映画監督
29. 新聞記者、テレビ・マスコミ
30. インフルエンサー（YouTuberなど）
31. どれに当てはまるの分からない

問4-2 どこで就職したいと思いますか。（1つ選択）

1. 当別町内
2. 北海道内 → (市町村名: _____)
3. 北海道外 → (都府県名: _____)

問4-3 就職後も当別町に住んでいたいと思いますか。（1つ選択）

1. 当別町に住んでほしい
2. 当別町に住んでほしいけれど、問4-1の職業や4-2の勤務地では難しい
3. 町外に住んでほしい

問4-4 就職後「当別町に住んでほしい理由(問4-3で1.または2.を選択した場合)」または「町外に住みたい理由(問4-3で3.を選択した場合)」は何ですか。（あてはまるもの全て）

- 【町外に住みたい理由】
1. 通勤の利便性を求めて
 2. 買い物や通学などの利便性を求めて
 3. 医療や福祉サービスの利便性を求めて
 4. 子育てや冬の寒さの負担軽減を求めて
 5. 一人暮らしをしたいから
 6. その他（ _____ ）
- 【当別町に住んでほしい理由】
1. 家族と一緒に生活したいから
 2. 住み慣れた町だから
 3. 友人がいるから
 4. 日常生活が便利だから
 5. 生活条件が良いから
 6. その他（ _____ ）

問4-5 仕事や就職に対するあなたの考え方に最も近いものはどれですか。（1つ選択）

1. 収入さえあればよい
2. 楽しく働きたい
3. 自分の夢のために働きたい
4. 個人の生活と仕事を両立させたい
5. プライドのもてる仕事をしたい
6. 人のためになる仕事をしたい
7. 出世したい
8. 社会に貢献したい

問5 ご意見

当別町について日頃感じていることや、これからのまちづくりに向けての意見や提案など、自由にお書き下さい。（自由回答）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

③ 中学生アンケート調査票

当別町の人口ビジョンに関する中学生アンケート調査

町では、急速に進む高齢化の抑制と人口減少の防止を図るため、当別町をより住みやすい町にするための取組を進めたいと考えています。

そのためには、当別町に住まいの中学生のみなさんが、町に対してどのような意見を持っているか、どのような進学・就職の希望を持っているかについても重要になります。

今後、みなさんが大人になり、社会に出て、いろいろな分野で活躍されると思いますが、当別町の将来を担うみなさんの素直な意見を聞かせてください。

なお、この調査は無記名で行い、回答はすべてコンピュータで統計的に処理し、それぞれ個別の内容を公表することは決まっています。アンケートの回答結果は次の総合計画の策定に向けた基礎資料とするほか、今後のまちづくりにも活用しますので、ぜひアンケート調査にご協力ください。



◆ 紙の調査票の代わりに、右のQRコードからWEB回答もできます。

◆ ご回答は、町の郵便番号を○で囲むか、内に居住、数字等を記入して下さい。

◆ 番号を選択時では、(1つ選択)。(あてはまるもの全て)、など、選択数を指定しています。

問1 あなたの性別および学年

問1-1 あなたの性別および学年 (各1つ選択)

1. 1年生 2. 2年生 3. 3年生

1. 男 2. 女

問1-2 住んでいる場所は次の1～5のどれにあてはまりますか？ (1つ選択)

1. 本町戸街地 (本町、赤井、和町、万代町、白旗町、北後町、三谷町、西町、芝町、善吉町、赤野、下川、六軒町、榎町、宮原、神町、兼町、新町、東町)

2. 太美戸街地 (太美の中、太美南、太美北、太美7カライト、太美東、太美西、太美南)

3. 本町地区郊外 (本町西、本町東、本町北、本町南、中山、金山、栗原、川原、新田、川で谷、川で谷、川で谷、上谷)

4. 太美地区郊外 (御子内、当別南、ピトエ、森岡)

5. スウニーアンビルズ

問1-3 家族人数

ご自身を含めて () 人家族

問1-4 同居している家族を教えてください。

(あてはまるもの全て)

1. 親 2. 祖父母

3. 兄弟姉妹(小学生以下) 4. 兄弟姉妹(中学生以上)

5. その他 ()

問1-5 いつから当別町に住んでいますか？

(1つ選択)

1. 生まれたときからずっと当別町に住んでいる

2. 町外から引っ越してきた () 年前に

問2 「中学校卒業後の進路」について

問2-1 中学校卒業後の進路は？ (未定でも大まかな希望で記入してください)

1. 高校へ進学する

2. 就職する

3. その他 ()

中学校卒業後の進学、就職希望地は、次のうちどこですか？ (当別町、札幌市、札幌市以外の道内、道外)

問2-2 <問2-1で1と回答した方にご尋ねします>

進学先を選ぶポイントは何ですか。(あてはまるもの全て)

1. 自分の学力に合う

2. 学費を伴はせる

3. 学びたい学科がある

4. 校風が良い

5. やりたい部活動がある

6. 評判が良い

7. 就職に有利

8. 学費が安い

9. 通学時間が比較的短い

10. 自宅から通学できる

11. 親や下宿がある

12. 朝晩・兄弟の家から通学できる

13. 学校周辺の環境が良い

4. 兄弟や知人等が通っている (いた)

15. その他 ()

問3 「高校卒業後の進路」について

問3-1 <問2-1で1と回答した方にご尋ねします>

高校卒業後の進路は？ (未定でも大まかな希望で記入してください)

1. 大学・専門学校等へ進学する

2. 就職する

3. その他 ()

高校卒業後の進学、就職希望地は、次のうちどこですか？ (当別町、札幌市、札幌市以外の道内、道外)

問3-2 <問3-1で1と回答した方にご尋ねします>

進学先を選ぶポイントは何ですか。(あてはまるもの全て)

1. 自分の学力に合う

2. 学びたい学科がある

3. 校風が良い

4. やりたい部活動がある

5. 評判が良い

6. 就職に有利

7. 学費が安い

8. 自宅から通学できる

9. 親や下宿がある

10. 朝晩・兄弟の家から通学できる

11. 学校周辺の環境が良い

12. 学校が所任するまちに住みたい

13. 兄弟や知人等が通っている (いた)

14. その他 ()

問4 「北海道医療大学の移転」について

問4-1 北海道医療大学が2028年(令和10年)に当別町から北広島市へ移転します。移転することで、あなたの進路に影響はありますか。(回答時点の大きな予想でかまいません。)(1つ選択)

1. 北海道医療大学に進学したいと願っていたが、移転したため進学先希望を変更する
2. 北海道医療大学に進学したいと思っており、移転しても進学先希望に変更はない
3. ちごも北海道医療大学に進学するつもりはなく、影響はない
4. わからない
5. その他 ()

問4-2 8月10日～12日に北海道医療大学で開催されたTobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)についてお聞きします。

設問	選択肢		
①Tobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)が開催されたことを知っていますか。	1. はい	2. いいえ	3. 分からない
②来年以降もTobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)が開催され、これからの当別町について考える景となることに期待しますか？	1. はい	2. いいえ	3. 分からない

問4-3 北海道医療大学の移転について、ご意見があればお書きください。

問5 「就職」について

問5-1 将来どんな職業に就きたいと思っていますか。最も就きたい職業を一つだけ答えてください。

具体的な職業名を記入 ()

問5-2 どこで就職したいと思えますか。(1つ選択)

1. 当別町内 → (市町村名:)
2. 北海道内 → (北海道名:)
3. 北海道外 → (都府県名:)

問5-3 就職後も当別町に住んでいたいと思えますか。(1つ選択)

1. 当別町に住んでいたい
2. 当別町に住んでほしいけれど、問5-1の職業や5-2の勤務地では難しい
3. 町外に住んで働きたい

問5-4 就職後「当別町に住んでほしい理由(問5-3で1,または2を選んだ方)」または「町外に住みたい理由(問5-3で3を選んだ方)」は可ですか。(あてはまるもの全て)

<p>【当別町に住んでほしい理由】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族と一緒に生活したいから 2. 生み慣れた町だから 3. 友人がいるから 4. 日常生活が便利だから 5. 生活条件が良いから 6. その他 () 	<p>【町外に住みたい理由】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 通勤の利便性を求めて 2. 高い物や娯楽などの利便性を求めて 3. 医療や福祉サービスの利便性を求めて 4. 積雪や冬の寒さの負担軽減を求めて 5. 一人暮らしをしたいから 6. その他 ()
---	--

問5-5 仕事や就職に対するあなたの考え方に最も近いものはどれですか。(1つ選択)

1. 収入さえあればよい
2. 楽しく働きたい
3. 自分の夢のために働きたい
4. 個人の生活と仕事を両立させたい
5. プライドのもてる(誇りのある)仕事をしたい
6. 人のためになる仕事をしたい
7. 出世したい
8. 社会に貢献したい

問6. ご意見

当別町について日頃感じていることや、これからのまちづくりに向けての意見や提案など、自由にお書き下さい。(自由回答)

質問は以上です。ご協力有り難うございました。

当別町の人口ビジョンに関する 事業者アンケート調査

町内事業者の皆様には、日頃から町政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
本町では平成27年（2015年）に『当別町人口ビジョン』を策定し、急速な少子高齢化の進展に拍車を加え、人口の減少に歯止めをかけるべく、定住対策や子育て支援など多岐にわたる取り組みに取り組んでまいりました。策定から約10年が経過しましたが、全国的にも少子高齢化と人口減少の傾向は強まっております。さらに、北海道医療大学が令和10年（2028年）4月に当別町からキャンパスを移転することで、多くの学生や関係者が町内を去ることが予想されています。
以上のことから、人口ビジョンを早急すべく、次の総合計画の策定に向けた基礎資料とするほか、今後のまちづくりを活用するため、町内の皆様のご意見を聴かせていただくべく、アンケート調査を行う次第です。お忙しいところ恐縮ですが、調査にご協力ください。調査にご協力ください。

令和7年9月 当別町立国語立国語課

回答方法

- ◆ 紙の調査票の代わりに、右のQRコードからWEB回答もできます。
- ◆ ご回答は、内のあてはまる番号・記号を○で囲むか、内に語句、数字等を記入して下さい。
- ◆ 番号選択の質問では、を選択し、は必ず記入して下さい。選択の数を指定しています。
- ◆ ご回答くださったアンケート票は、同封の返信用封筒に入れて、令和7年9月28日（日）までご返願ください。切手は不要です。



[アンケートに関するお問い合わせ]

当別町立国語課 担当：高田
電話 0133-23-2393 Fax 0133-23-3206

町1 ご回答者について

法人名または番号	
ご回答者 氏名前	
ご所属・役職	
電話番号	
E-mail	

町2 貴社経営の概要について

町2-1 事業所区分
 1. 本社・本部・本店 2. 支社・支店・支店
 3. その他 ()

町2-2 組織形態
 1. 個人 2. 株式会社
 3. 有限会社 4. 合同・合資・合名会社
 5. その他 ()

町2-3 主な事業内容
 ()
 記載例) 菓子の製造と販売

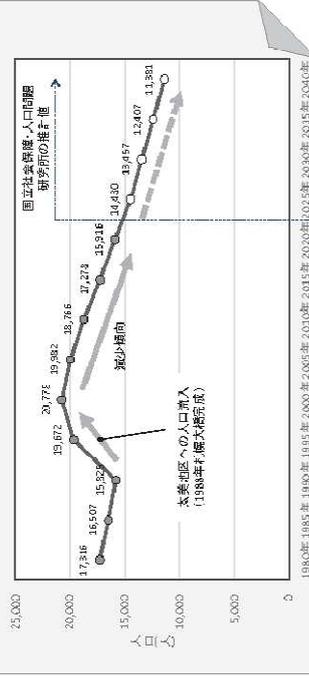
町2-4 従業員数
 ()人
 注) 当該町内に専従の事業所がある場合は、合計人数を記入

町2-5 従業員の町内居住割合
 ()%
 注) おおよその割合で結構です

町3 将来人口ビジョンと当別町のまちづくり

町の人口の推移と将来予測

5年毎に実施される国勢調査の結果をみると、当別町の人口は1990年（平成2年）から人口が急増し、2000年（平成12年）には2万人を越えました。人口増加の背景には1988年（昭和63年）の札幌大層完成後、本町地区の開発によって人口流入が進んだことが考えられます。2000年以降、人口は減少傾向となり、2020年（令和2年）には15,916人となりました。独立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、人口減少は今後も続き、2030年（令和12年）は約1万3千人、2040年（令和22年）は約1万1千人になると推計されています。



1990年・1995年・2000年・2005年・2010年・2015年・2020年・2025年・2030年・2035年・2040年

問 3-1 当別町の人口が減少していくという見通しを受け、今後、町としてどのような対策を行うべきと考えますか。
あなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

1. 出産・子育ての支援策に重点を置くべき
2. 未来を担う子どもを育成する教育施策に重点を置くべき
3. 働き手を呼び込むような産業対策に重点を置くべき
4. 都会などからの移住者を呼び込むような移住対策に重点を置くべき
5. 高齢になっても安心して暮らせるように高齢者対策に重点を置くべき
6. 税収が減っても行政サービスが破綻しないよう行政政策策に重点を置くべき
7. 人口が減っても住民サービスの向上に重点を置くべき
8. その他の対策（ ）

問 4 「北海道医療大学の移転」について

問 4-1 貴事業所では、現在、北海道医療大学の取引はありますか？

1. 取引がある
売上における北海道医療大学の割合
おおよそ（ ）%
2. 取引はない（問 4-2へ）

問 4-2 貴事業所では、現在、北海道医療大学の学生*や関係者を対象としたサービス・飲食・物販・不動産（学生用アパート）等を提供していますか？

1. 提供している
売上における学生や関係者の割合
*医療大学の学生には普通科学生と専門学生をまきも
として同様。
おおよそ（ ）%
2. 提供していない（問 4-4へ）

問 4-3 医療大との取引がある、または学生等へサービス提供している事業所への設問です
大学移転による影響に、どう対処しようとお考えですか。（あてはまるもの全てに○）

1. 当別町内で、医療大や学生に代わる職舎を開拓する
2. 当別町外で、医療大や学生に代わる職舎を開拓する
3. 移転先でも医療大との取引を継続する
4. 事業規模の縮小やコスト削減を行う
5. 対応を検討中で、まだ分からない
6. その他（ ）

問 4-4 貴事業所では、現在、北海道医療大学の学生をアルバイトで雇用していますか？

1. 雇用している
アルバイトスタッフ（ ）人のうち 北海道医療大学の学生は（ ）人
2. 雇用していない（問 4-6へ）

問 4-5 医療大の学生を雇用している事業所への設問です
大学移転による影響に、どう対処しようとお考えですか。（あてはまるもの全てに○）

1. 当別町内で、医療大の学生に代わるスタッフを雇用する
2. 当別町外で、医療大の学生に代わるスタッフを雇用する
3. 事業規模の縮小やコスト削減を行う
4. 対応を検討中で、まだ分からない
5. その他（ ）

問 4-6 北海道医療大学の移転について、ご意見があればお書きください。

（自由回答）

問 5 ご意見

当別町について目録されていることや、これからのまちづくりに向けての意見や提案など、自由にお書き下さい。（自由回答）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

2. アンケート調査結果

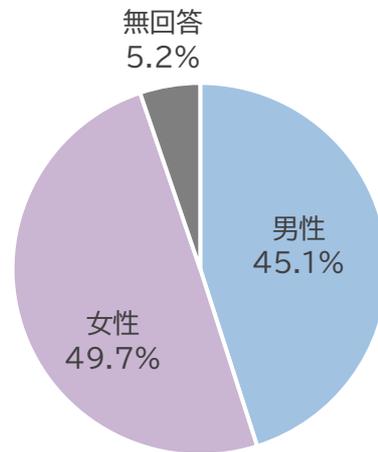
(1) 町民アンケート調査

① 回答者属性

i) 性別

回答者の性別は、「男性」が45.1%、「女性」が49.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
男性	165	45.1%
女性	182	49.7%
無回答	19	5.2%
合計	366	100.0%

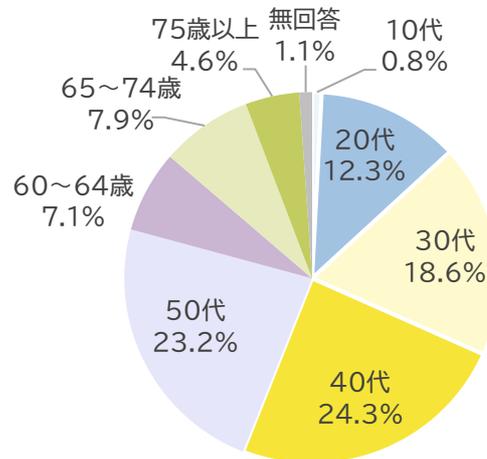


N=366

ii) 年齢

回答者の年齢は、「40代」が24.3%と最も多く、次いで「50代」が23.2%となっています。

選択肢	回答数	割合
10代	3	0.8%
20代	45	12.3%
30代	68	18.6%
40代	89	24.3%
50代	85	23.2%
60~64歳	26	7.1%
65~74歳	29	7.9%
75歳以上	17	4.6%
無回答	4	1.1%
合計	366	100.0%

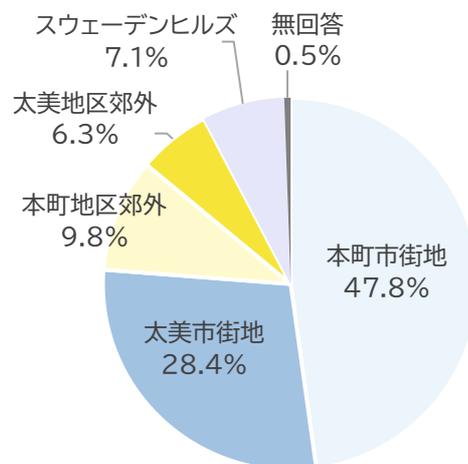


N=366

iii)住所

住所は、「本町市街地」が47.8%と最も多く、次いで「太美市街地」が28.4%となっています。

選択肢	回答数	割合
本町市街地	175	47.8%
太美市街地	104	28.4%
本町地区郊外	36	9.8%
太美地区郊外	23	6.3%
スウェーデンヒルズ	26	7.1%
無回答	2	0.5%
合計	366	100.0%



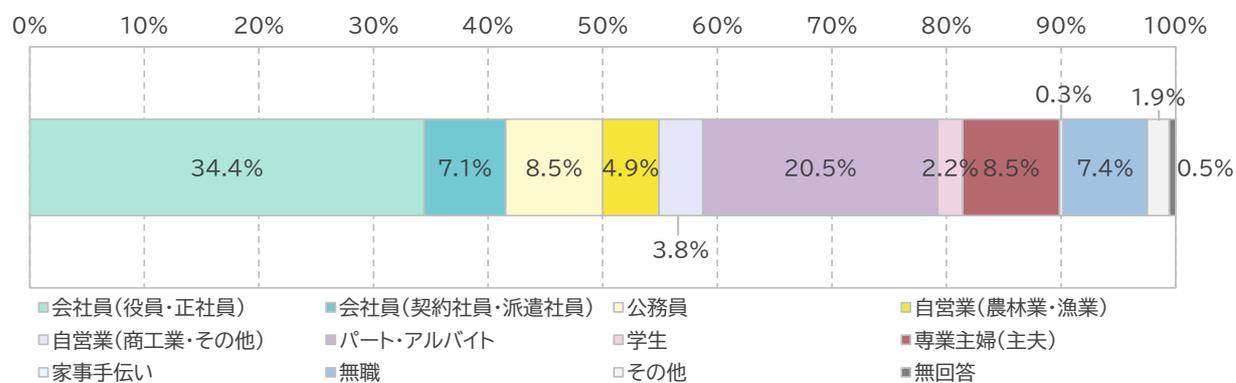
N=366

iv)職業

職業は、「会社員（役員・正社員）」が 34.4%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 20.5%となっています。

「その他」の内容としては、団体職員や研究関係といった回答がありました。

選択肢	回答数	割合
会社員(役員・正社員)	126	34.4%
会社員(契約社員・派遣社員)	26	7.1%
公務員	31	8.5%
自営業(農林業・漁業)	18	4.9%
自営業(商工業・その他)	14	3.8%
パート・アルバイト	75	20.5%
学生	8	2.2%
専業主婦(主夫)	31	8.5%
家事手伝い	1	0.3%
無職	27	7.4%
その他	7	1.9%
無回答	2	0.5%
合計	366	100.0%



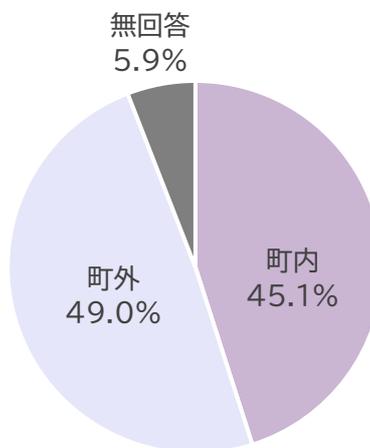
N=366

v)通勤・通学先

※就業または就学している回答者のみ回答

回答者の通勤・通学先は、「町内」が45.1%、「町外」が49.0%となっています。

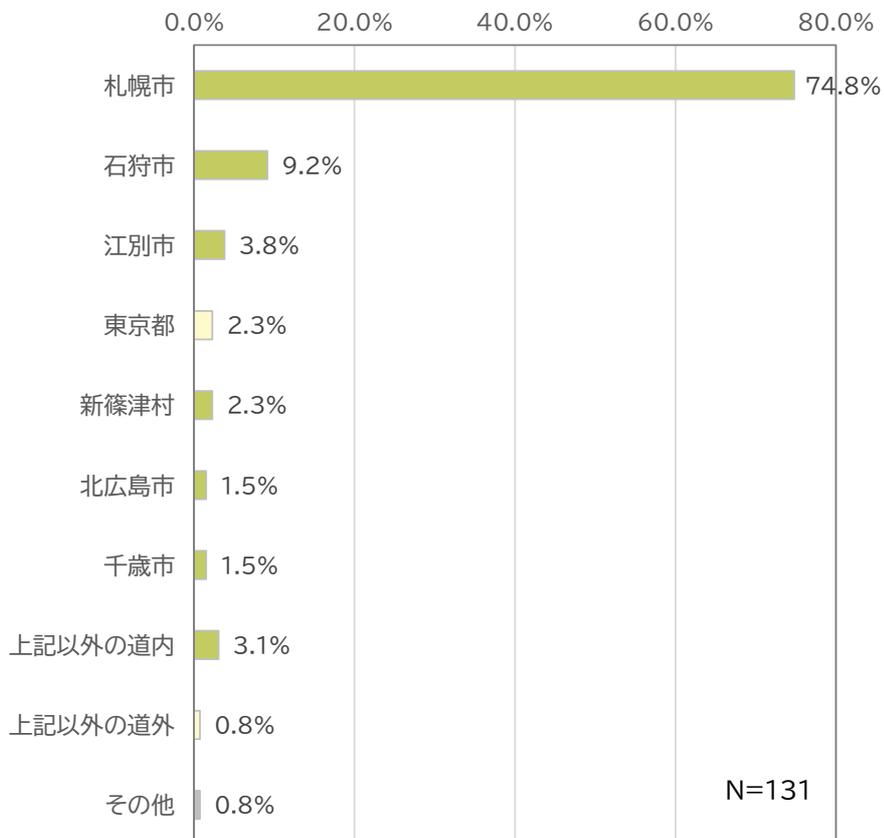
選択肢	回答数	割合
町内	138	45.1%
町外	150	49.0%
無回答	18	5.9%
合計	306	100.0%



N=306

町外の通学先は、「札幌市」が最も多く、74.8%、次いで「石狩市」が9.2%となっています。（自由記述）

「上記以外の道内」は、岩見沢市、小樽市、八雲町、岩内町、「上記以外の道外」は、千葉県、「その他」は、在宅となっています。

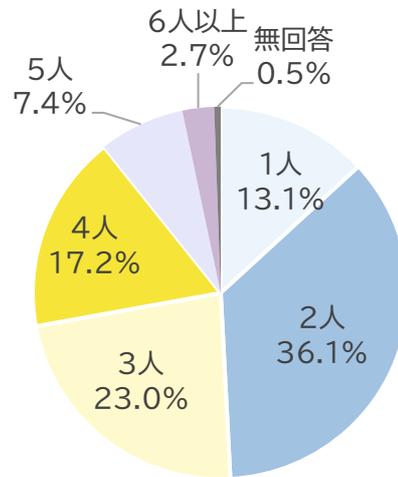


② 世帯(ご家族)について

i) 世帯人数

世帯人数は、「2人」が最も多く36.1%、次いで、「3人」が23.0%となっています。

選択肢	回答数	割合
1人	48	13.1%
2人	132	36.1%
3人	84	23.0%
4人	63	17.2%
5人	27	7.4%
6人以上	10	2.7%
無回答	2	0.5%
合計	366	100.0%



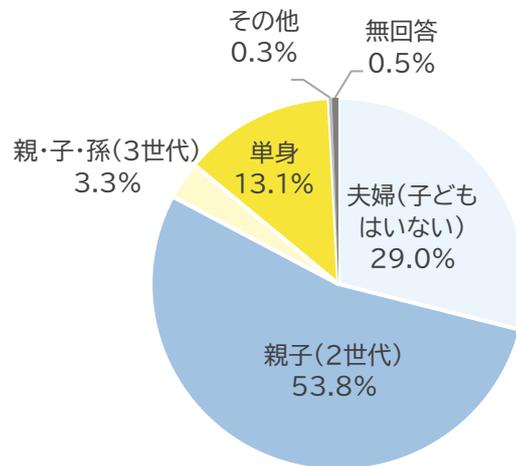
N=366

ii) 家族構成

家族構成は、「親子(2世代)」が最も多く、53.8%、次いで、「夫婦(子どもはいない)」が29.0%となっています。

「その他」の内容としては、兄弟などの回答がありました。

選択肢	回答数	割合
夫婦(子どもはいない)	106	29.0%
親子(2世代)	197	53.8%
親・子・孫(3世代)	12	3.3%
単身	48	13.1%
その他	1	0.3%
無回答	2	0.5%
合計	366	100.0%



N=366

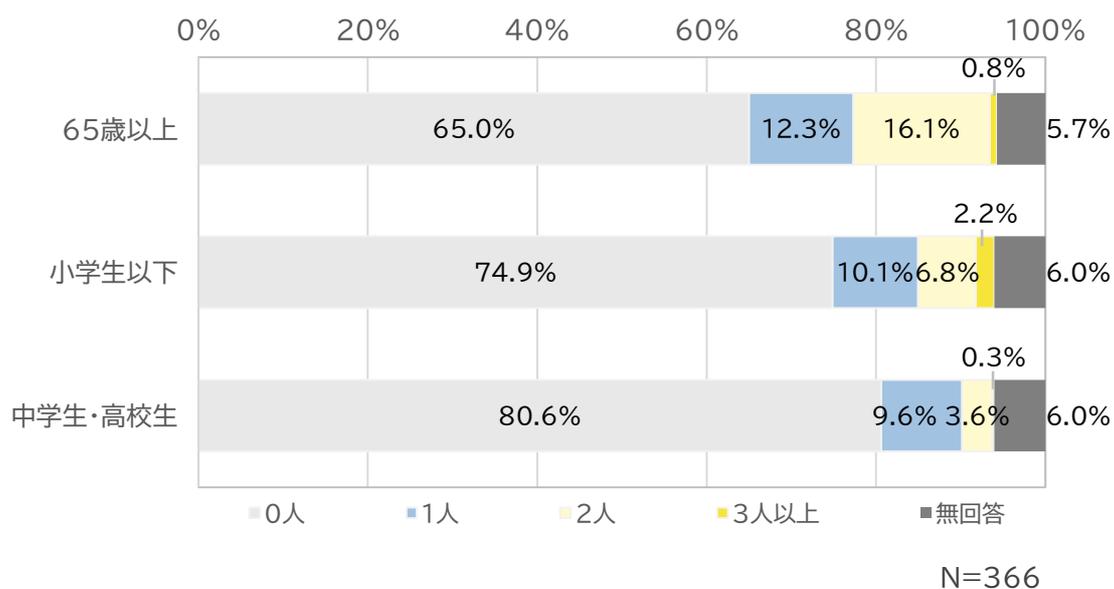
iii)同居する 65 歳以上の高齢者、小学生以下、中学生・高校生の人数

同居する 65 歳以上の高齢者の人数は、「0 人」が最も多く 65.0%、次いで「2 人」が 16.1%となっています。

小学生以下の人数は、「0 人」が最も多く 74.9%、次いで「1 人」が 10.1%となっています。

中学生・高校生の人数は、「0 人」が最も多く 80.6%、次いで「1 人」が 9.6%となっています。

選択肢	人数			割合		
	65 歳以上	小学生以下	中学生・高校生	65 歳以上	小学生以下	中学生・高校生
0 人	228	274	295	65.0%	74.9%	80.6%
1 人	45	37	35	12.3%	10.1%	9.6%
2 人	59	25	13	16.1%	6.8%	3.6%
3 人以上	3	8	1	0.8%	2.2%	0.3%
無回答	21	22	22	5.7%	6.0%	6.0%
合計	366	366	366	100.0%	100.0%	100.0%

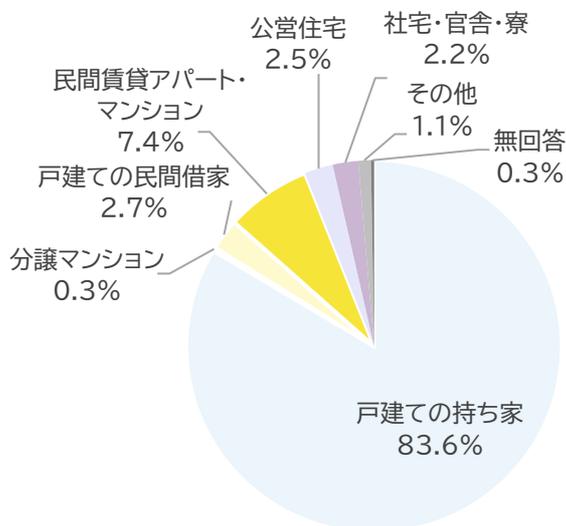


iv)住居形態

住居形態は、「戸建ての持ち家」が最も多く、83.6%、次いで「民間賃貸アパート・マンション」が7.4%となっています。

「その他」の内容としては、グループホームといった回答がありました。

選択肢	回答数	割合
戸建ての持ち家	306	83.6%
分譲マンション	1	0.3%
戸建ての民間借家	10	2.7%
民間賃貸アパート・マンション	27	7.4%
公営住宅	9	2.5%
社宅・官舎・寮	8	2.2%
その他	4	1.1%
無回答	1	0.3%
合計	366	100.0%



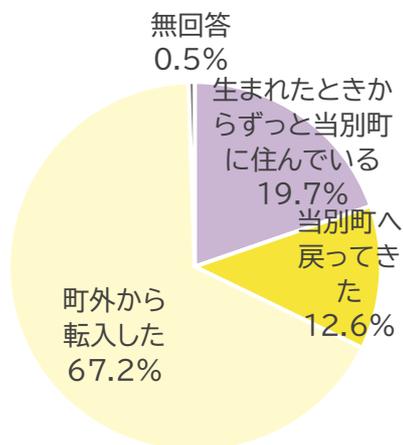
N=366

③ 転居(引っ越し)について

i)居住年数

居住経緯は、「町外から転入した」が最も多く、67.2%、次いで「生まれた時から当別町にずっと住んでいる」が19.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
生まれたときからずっと当別町に住んでいる	72	19.7%
当別町へ戻ってきた	46	12.6%
町外から転入した	246	67.2%
無回答	2	0.5%
合計	366	100.0%

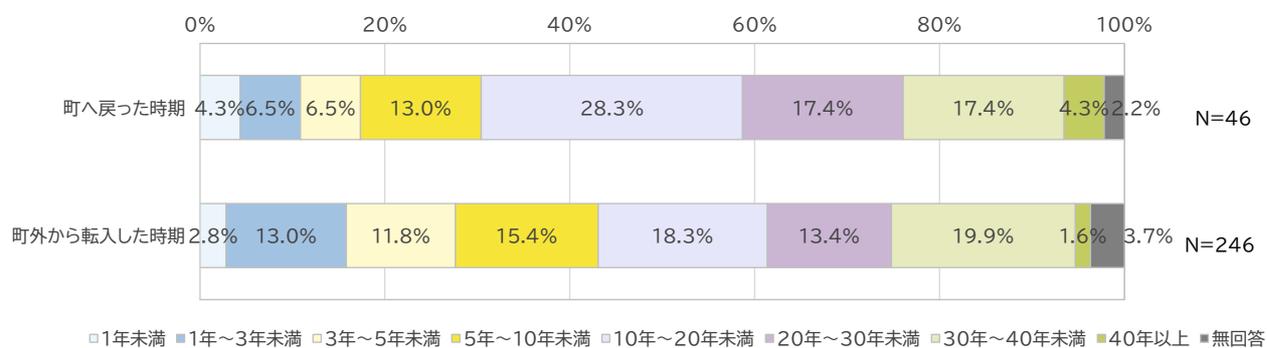


N=366

「当別町出身で戻ってきた」を選択した回答者は、「10年～20年未満」に戻ってきた人が最も多く、28.3%、次いで「20年～30年未満」および「30年～40年未満」に戻ってきた人が17.4%となっています。

「町外から転入してきた」を選択した回答者は、「30年～40年未満」に戻ってきた人が最も多く、19.9%、次いで「10年～20年未満」に戻ってきた人が18.3%となっています。

選択肢	「当別町出身で戻ってきた」		「町外から転入してきた」	
	回答数	割合	回答数	割合
1年未満	2	4.3%	7	2.8%
1年～3年未満	3	6.5%	32	13.0%
3年～5年未満	3	6.5%	29	11.8%
5年～10年未満	6	13.0%	38	15.4%
10年～20年未満	13	28.3%	45	18.3%
20年～30年未満	8	17.4%	33	13.4%
30年～40年未満	8	17.4%	49	19.9%
40年以上	2	4.3%	4	1.6%
無回答	1	2.2%	9	3.7%
合計	46	100.0%	246	100.0%



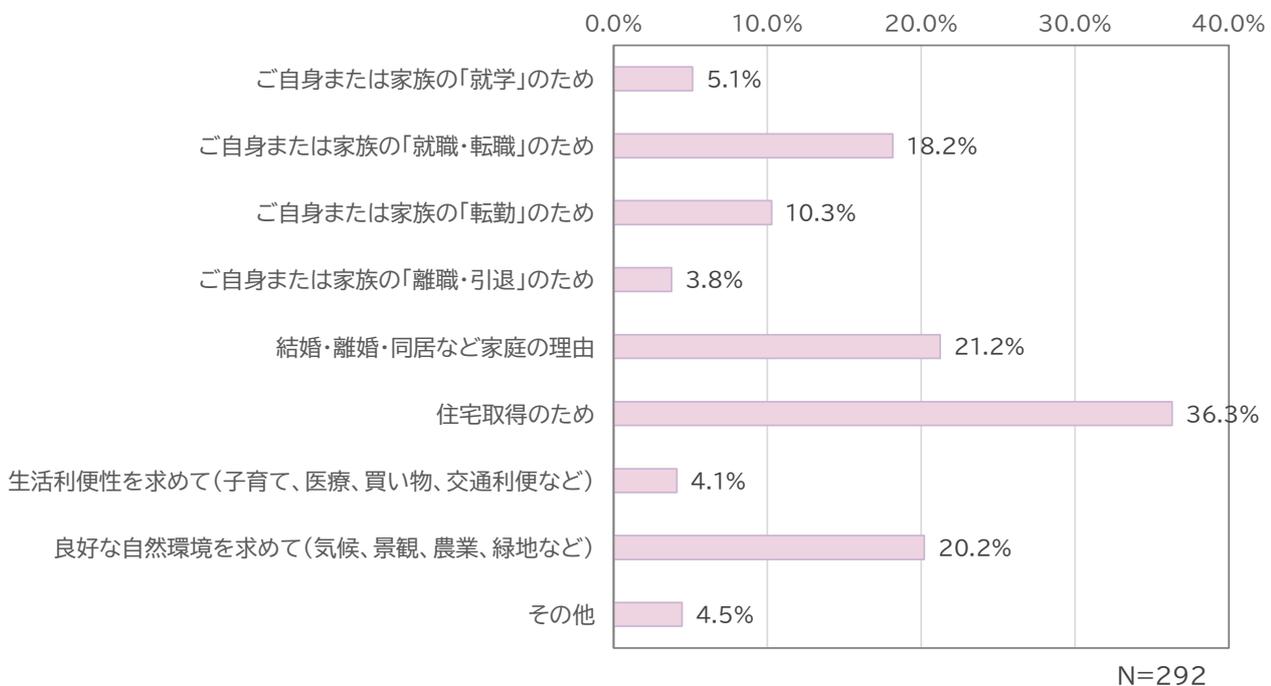
ii)当別町に住むきっかけ(複数回答可)

※「当別町出身で戻ってきた」または「町外から転入してきた」を選択した回答者のみ回答

当別町に住む理由は、「住居取得のため」が最も多く、36.3%、次いで「結婚・離婚・同居など家庭の理由」が21.2%となっています。

「その他」の内容としては、土地が広い・安いから、当別町に惹かれたから、物件が安いからなどの理由があげられました。

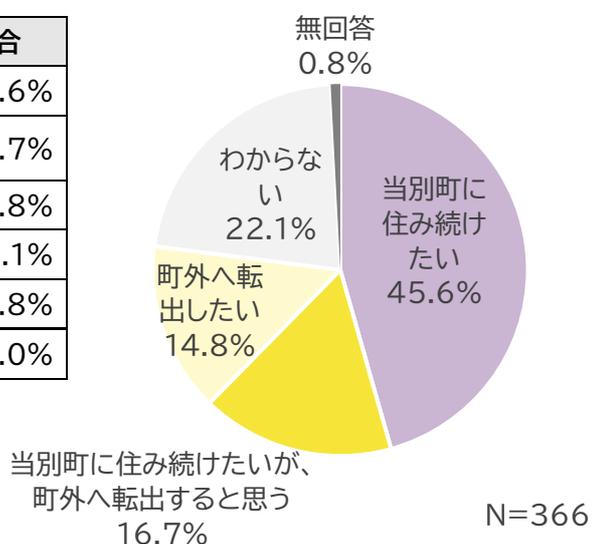
選択肢	回答数	回答率
ご自身または家族の「就学」のため	15	5.1%
ご自身または家族の「就職・転職」のため	53	18.2%
ご自身または家族の「転勤」のため	30	10.3%
ご自身または家族の「離職・引退」のため	11	3.8%
結婚・離婚・同居など家庭の理由	62	21.2%
住宅取得のため	106	36.3%
生活利便性を求めて(子育て、医療、買い物、交通利便など)	12	4.1%
良好な自然環境を求めて(気候、景観、農業、緑地など)	59	20.2%
その他	13	4.5%
有効回答者数	292	-
無回答	0	-



iii)今後の居留意向

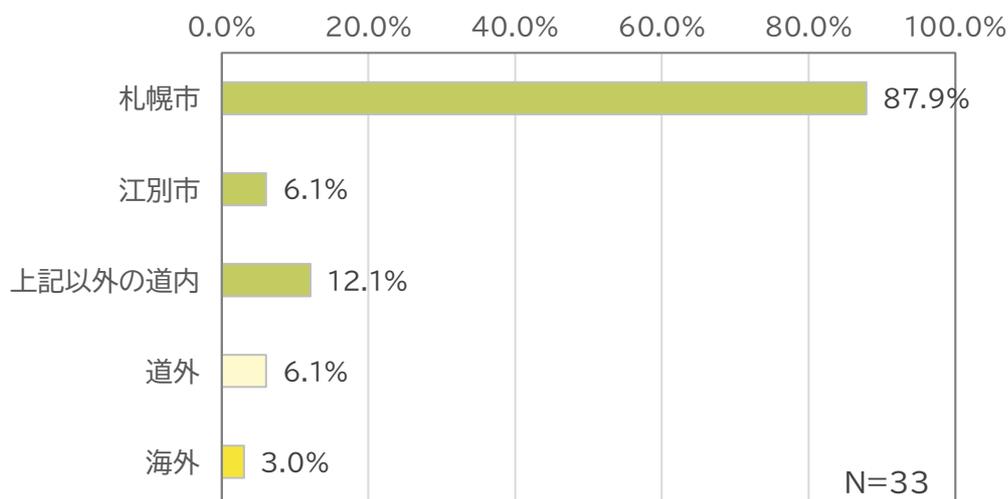
今後の居住以降について、「当別町に住み続けたい」が最も多く、45.6%、次いで「当別町に住み続けたいが、町外へ転出すると思う」が16.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
当別町に住み続けたい	167	45.6%
当別町に住み続けたいが、町外へ転出すると思う	61	16.7%
町外へ転出したい	54	14.8%
わからない	81	22.1%
無回答	3	0.8%
合計	366	100.0%



「町外へ転出したい」回答者の転出希望先は、「札幌市」が最も多く、87.9%、次いで「札幌市・江別市以外の道内」が12.1%となっています。（自由記述）

「上記以外の道内」は、恵庭市、北広島市、千歳市、苫小牧市、「道外」は、関東、大阪府といった回答がありました。



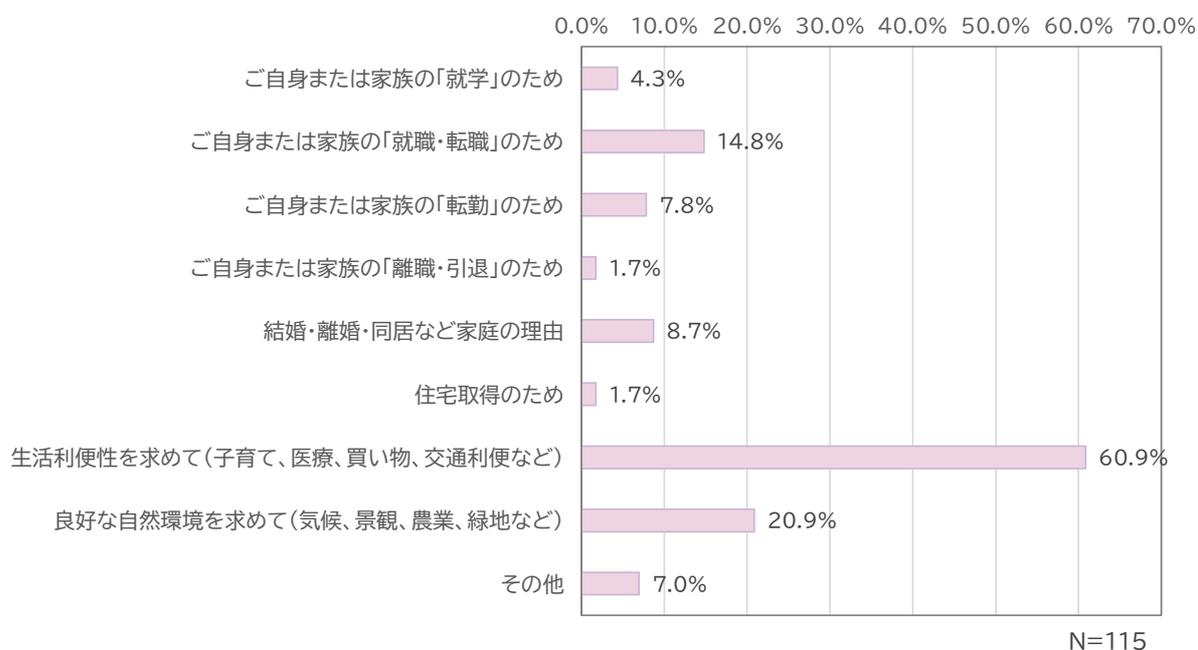
iv) 町外へ転出するまたは転出したい理由(複数回答可)

※「当別町に住み続けたいが、町外へ転出すると思う」または「町外へ転出したい」を選択した回答者のみ回答

町外へ転出するまたは転出したい理由は、「生活利便性を求めて(子育て、医療、買い物、交通利便など)」が最も多く、60.9%、次いで「良好な自然環境を求めて(気候、景観、農業、緑地など)」が20.9%となっています。

「その他」の内容としては、賃貸の選択肢が少ない、税金が高い、高齢になり一人暮らしが難しくなるといった理由が挙げられました。

選択肢	回答数	回答率
ご自身または家族の「就学」のため	5	4.3%
ご自身または家族の「就職・転職」のため	17	14.8%
ご自身または家族の「転勤」のため	9	7.8%
ご自身または家族の「離職・引退」のため	2	1.7%
結婚・離婚・同居など家庭の理由	10	8.7%
住宅取得のため	2	1.7%
生活利便性を求めて(子育て、医療、買い物、交通利便など)	70	60.9%
良好な自然環境を求めて(気候、景観、農業、緑地など)	24	20.9%
その他	8	7.0%
有効回答者数	115	-
無回答	0	-

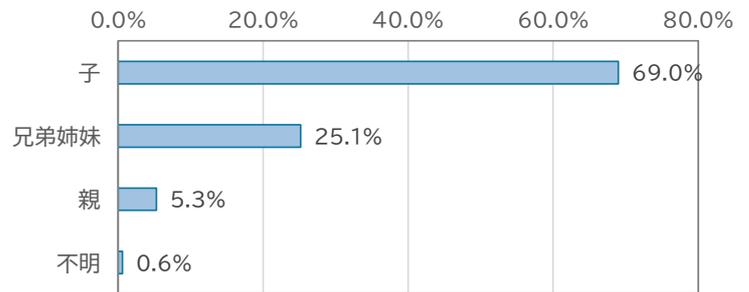


v) 町内で同居していた家族の町外への転出状況【続柄】（自由記述）

※町外へ転出した同居家族がいる回答者のみ回答

町外へ転出した家族は、「子」が最も多く、69.0%、次いで「兄弟姉妹」が25.1%となっています。

選択肢	回答数	回答率
子	118	69.0%
兄弟姉妹	43	25.1%
親	9	5.3%
不明	1	0.6%
有効回答数	171	100.0%



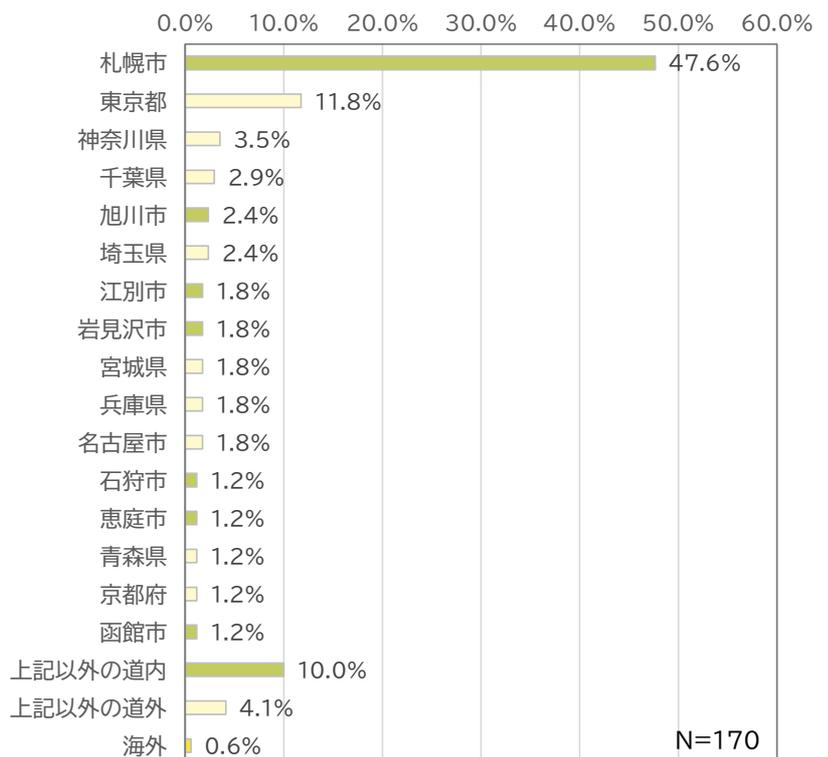
N=171

vi) 町内で同居していた家族の町外への転出状況【転出先】（自由記述）

同居していた家族の転出先は、「札幌市」が最も多く、47.6%、次いで「東京都」が11.8%となっています。

「上記以外の道内」は、奥尻町、北広島市、千歳市、苫小牧市、三笠市、小樽市、赤井川村、余市町、様似町、釧路市、中標津町、網走市、北見市、喜茂別町、音威子府村、「上記以外の道外」は、愛知県、岡山県、関東といった回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
札幌市	81	47.6%
東京都	20	11.8%
神奈川県	6	3.5%
千葉県	5	2.9%
旭川市	4	2.4%
埼玉県	4	2.4%
江別市	3	1.8%
岩見沢市	3	1.8%
宮城県	3	1.8%
兵庫県	3	1.8%
名古屋市	3	1.8%
石狩市	2	1.2%
恵庭市	2	1.2%
青森県	2	1.2%
京都府	2	1.2%
函館市	2	1.2%
上記以外の道内	17	10.0%
上記以外の道外	7	4.1%
海外	1	0.6%
有効回答数	162	100.0%



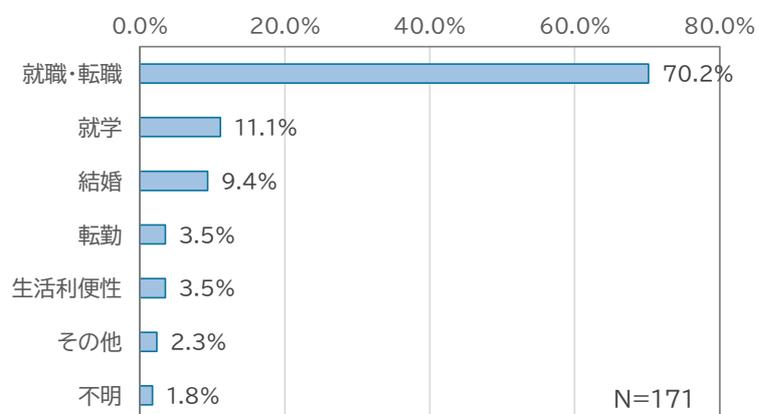
N=170

vii) 町内で同居していた家族の町外への転出状況【転出理由】（自由記述）

町内で同居していた家族の転出の理由としては、「就職・転職」が最も多く、70.2%、次いで「就学」が11.1%となっています。

「その他」の内容としては、一人暮らしのため、持ち家購入のためなどの回答がありました。

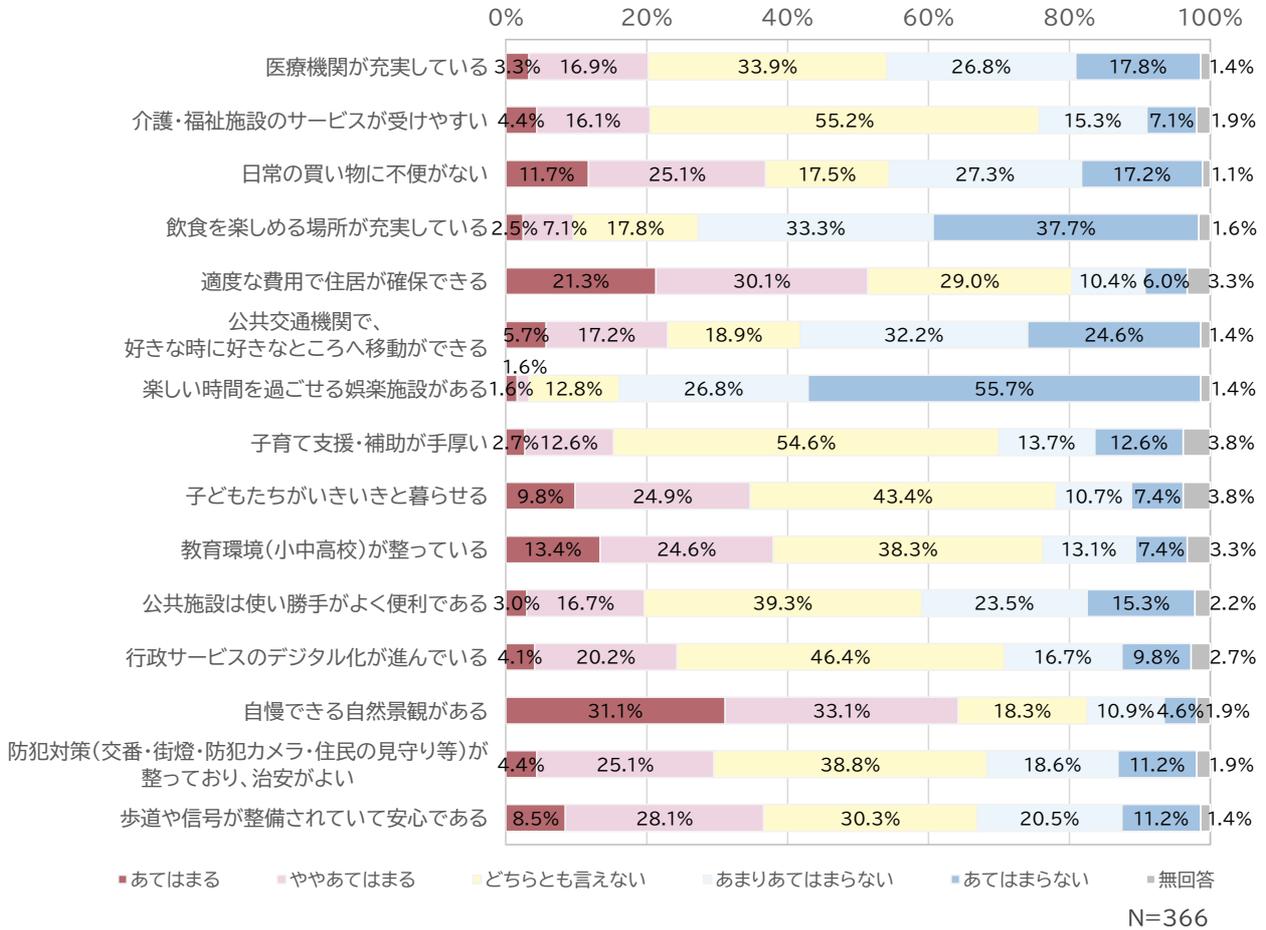
選択肢	回答数	回答率
就職・転職	120	70.2%
就学	19	11.1%
結婚	16	9.4%
転勤	6	3.5%
生活利便性	6	3.5%
その他	4	2.3%
不明	3	1.8%
有効回答数	171	100.0%



④ 当別町での暮らしについて

i) 当別町での暮らしについての評価

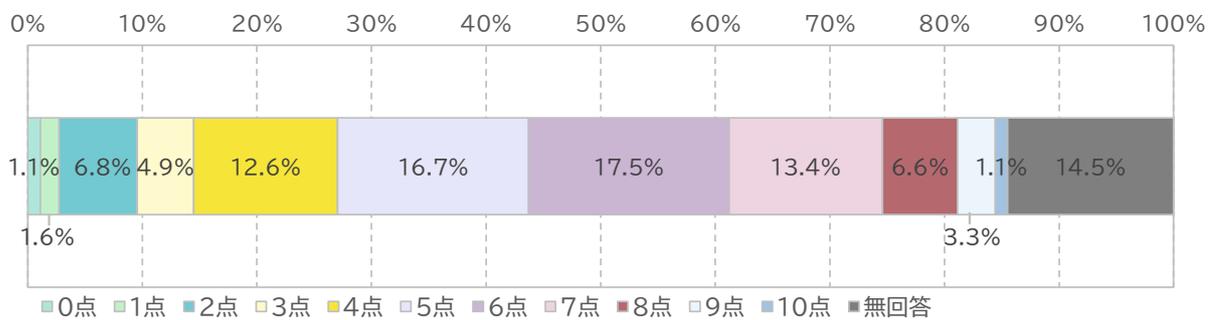
暮らしについて評価されている項目（「あてはまる」「ややあてはまる」の合計が高い）は、「自慢できる自然景観がある」が最も高く、64.2%、次いで「適度な費用で住居が確保できる」が51.4%となっています。



ii)当別町の暮らしについての満足度(0~10点の間で評価)

暮らしについての満足度は、「6点」が最も多く、17.5%、次いで「5点」が16.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
0点	4	1.1%
1点	6	1.6%
2点	25	6.8%
3点	18	4.9%
4点	46	12.6%
5点	61	16.7%
6点	64	17.5%
7点	49	13.4%
8点	24	6.6%
9点	12	3.3%
10点	4	1.1%
無回答	53	14.5%
合計	366	100.0%

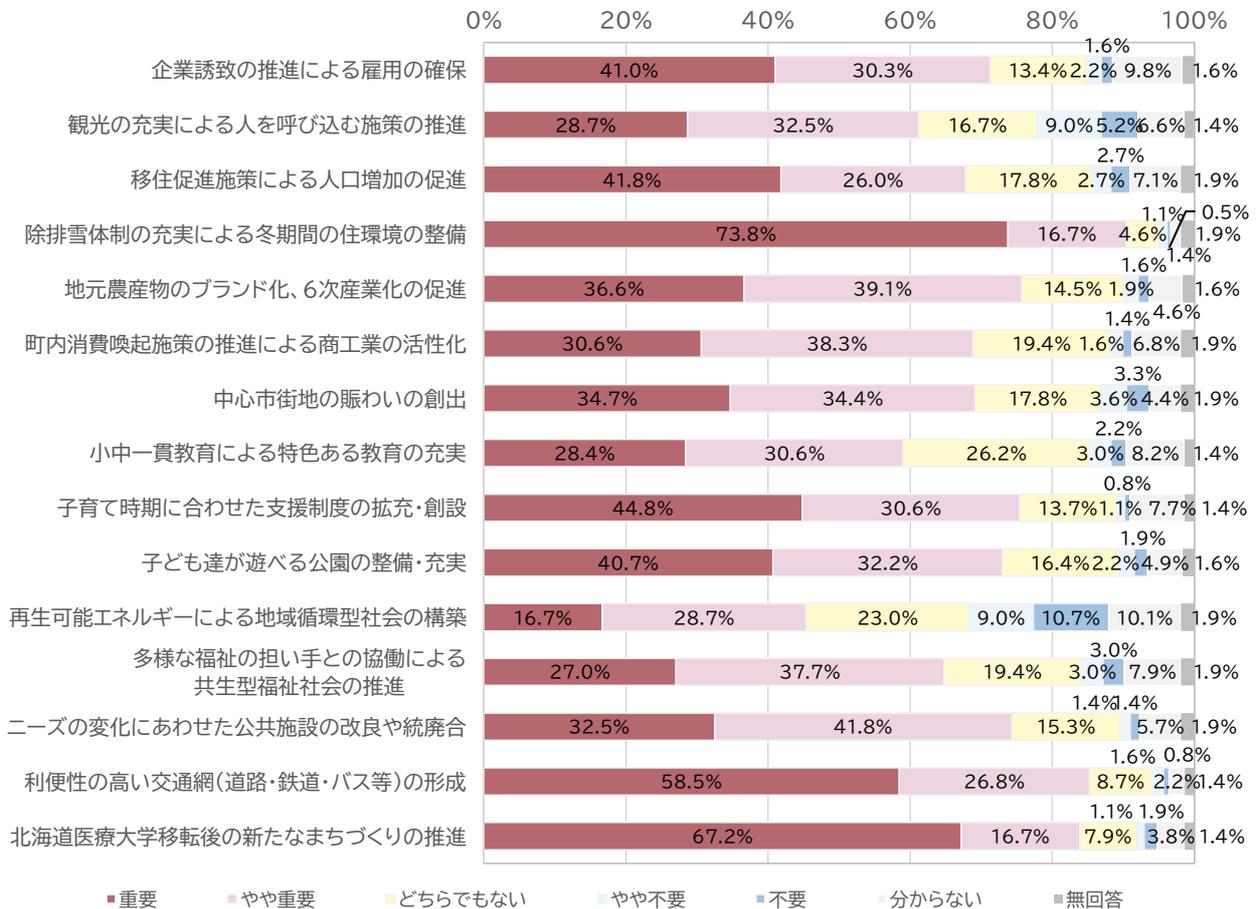


N=366

⑤ まちづくりの取り組み

i) まちづくりの取り組みの重要度

重要度が高い項目（「重要」「やや重要」の合計が高い）は、「除排雪体制の充実による冬期間の住環境の整備」が最も高く、90.5%、次いで「利便性の高い交通網（道路・鉄道・バス等）の形成」が85.3%となっています。



N=366

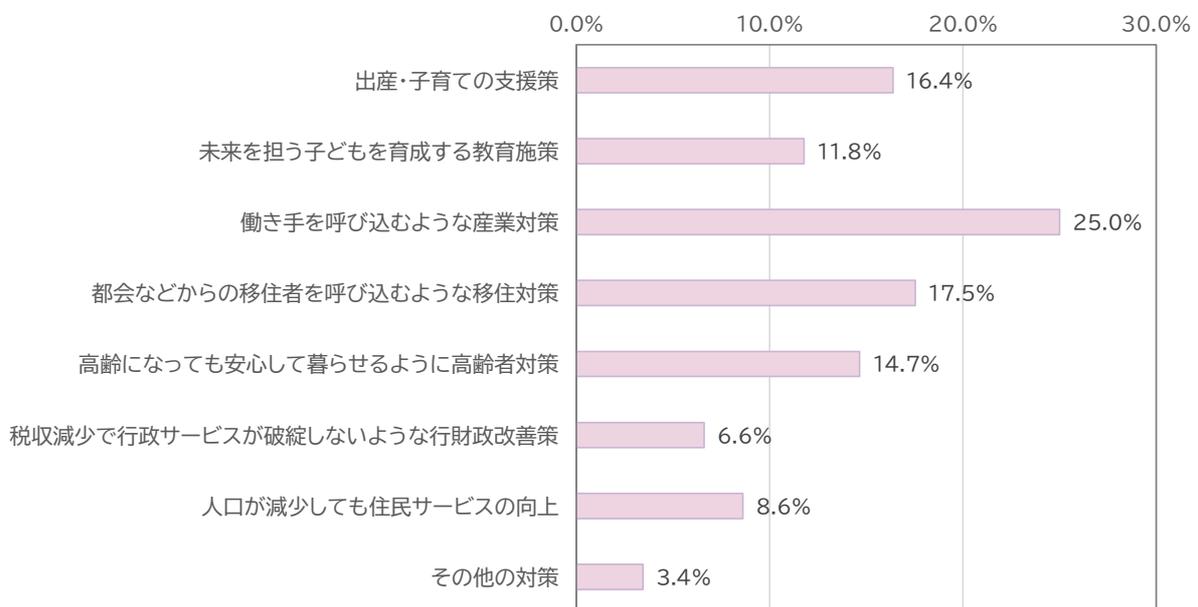
⑥ 将来人口について

i) 人口減少について行うべき対策

人口減少について行うべき対策は、「働き手を呼び込むような産業対策」が最も多く、25.0%、次いで「都会などからの移住者を呼び込むような移住対策」が17.5%となっています。

「その他」の内容としては、商業施設の誘致（2件）、除排雪の強化（2件）、ロイズタウン駅周辺の土地整備開発、JR本数増加による交通の強化などの回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
出産・子育ての支援策	57	16.4%
未来を担う子どもを育成する教育施策	41	11.8%
働き手を呼び込むような産業対策	87	25.0%
都会などからの移住者を呼び込むような移住対策	61	17.5%
高齢になっても安心して暮らせるように高齢者対策	51	14.7%
税収減少で行政サービスが破綻しないような行財政改善策	23	6.6%
人口が減少しても住民サービスの向上	30	8.6%
その他の対策	12	3.4%
有効回答者数	348	-
無回答	18	-



N=348

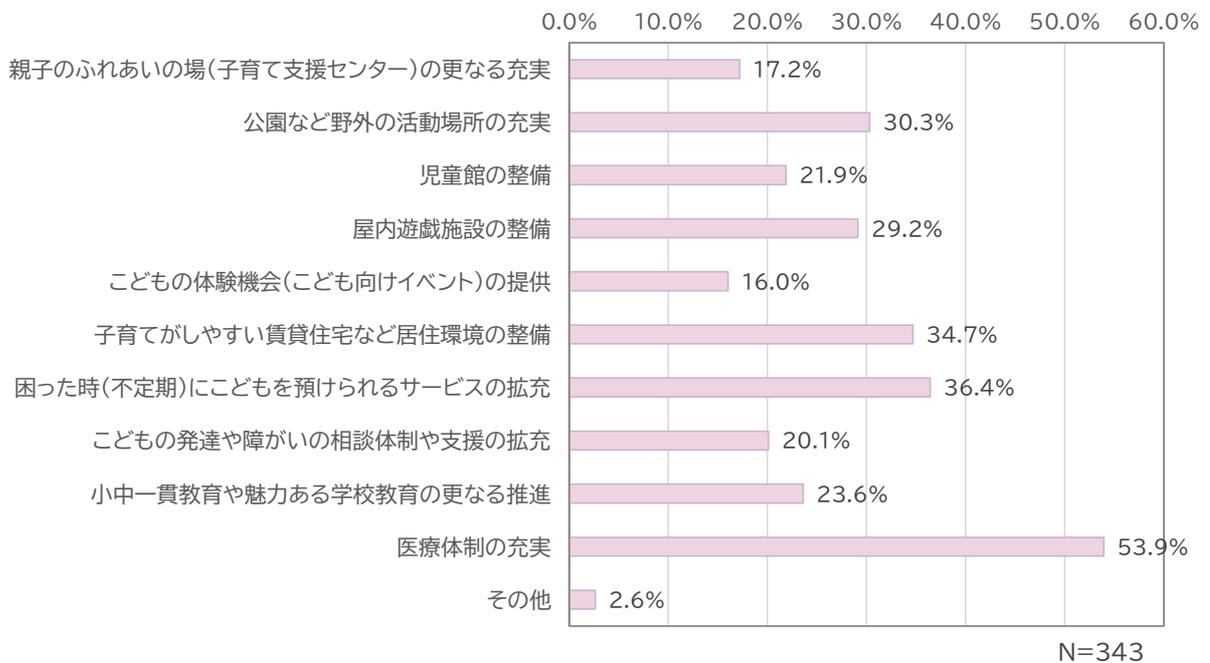
⑦ 「子育て支援施策」について

i) 子育て支援施策のうち町が積極的に取り組むべき施策(複数回答可)

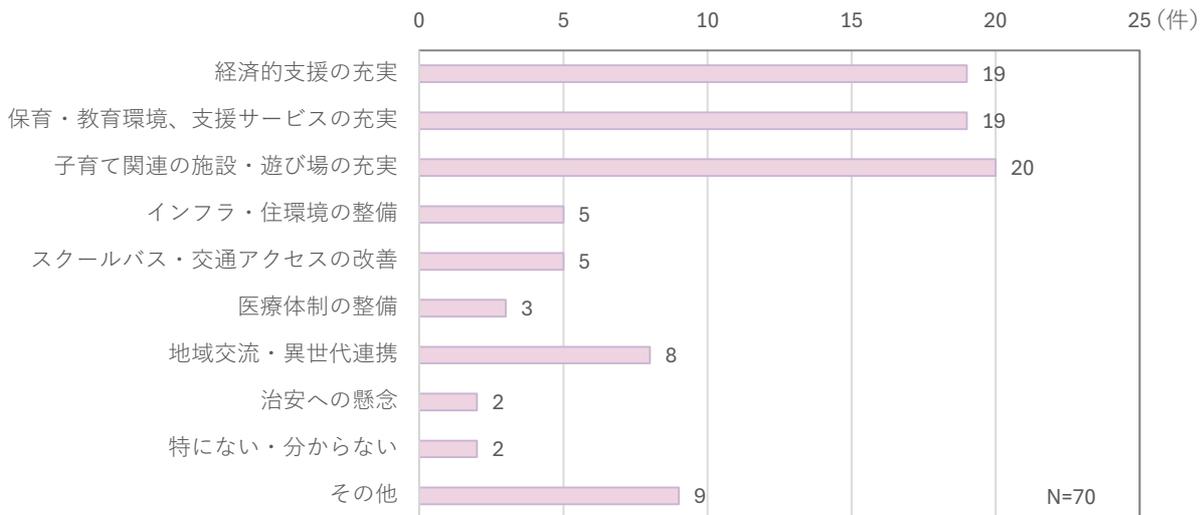
子育て支援施策のうち町が積極的に取り組むべき施策は、「医療体制の充実」が最も多く、53.9%、次いで「困った時(不定期)に子どもを預けられるサービスの拡充」が36.4%となっています。

「その他」の内容としては、支援金・出産費用の補助金(3件)、お米券の配布、スキー等高額な物を中古で利用できるような制度の充実などの回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
親子のふれあいの場(子育て支援センター)の更なる充実	59	17.2%
公園など野外の活動場所の充実	104	30.3%
児童館の整備	75	21.9%
屋内遊戯施設の整備	100	29.2%
こどもの体験機会(こども向けイベント)の提供	55	16.0%
子育てがしやすい賃貸住宅など居住環境の整備	119	34.7%
困った時(不定期)に子どもを預けられるサービスの拡充	125	36.4%
こどもの発達や障がいの相談体制や支援の拡充	69	20.1%
小中一貫教育や魅力ある学校教育の更なる推進	81	23.6%
医療体制の充実	185	53.9%
その他	9	2.6%
有効回答者数	343	-
無回答	23	-



自由記述を集計した結果、子育て関連の施設・遊び場の充実が最も多く、20件、次いで保育・教育環境、支援サービスの充実および経済支援の充実が19件と続きます。



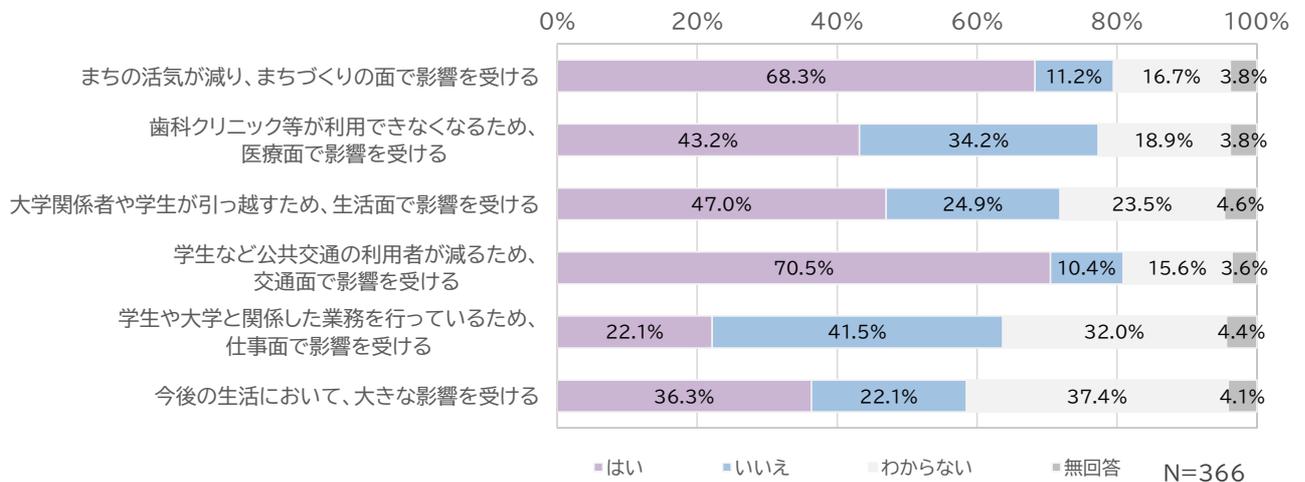
各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容
経済支援の充実	給食費の無償化（4件）、おむつ・育児用品などの助成（4件）、妊婦健診・出産費用の無償化や補助の充実（4件）、通学費の補助の充実（3件）、保育料の無償化や補助の充実（3件）、こども手当や補助金の支給（2件）、不妊治療支援の実施など
保育・教育環境、支援サービスの充実	幼稚園・保育園・学童等の充実（6件）、西当別小中学校の整備（5件）、子育て相談・サポート体制の強化（3件）、少人数学級など教育内容の充実（3件）、病児保育の充実（2件）、不登校児童への支援の充実など
子育て関連の施設・遊び場の充実	遊び場・子どもの居場所の充実（13件）、公園の整備や老朽化対策（4件）、図書館・学習スペースの充実（4件）など
インフラ・住環境の整備	除排雪体制の改善（2件）、住宅の整備（2件）、空きアパートの再利用の提案、街灯の整備など
スクールバス・交通アクセスの改善	スクールバス制度の改善・充実（4件）、JR以外の交通の便の悪さ
医療体制の整備	産婦人科の不足（3件）
地域交流・異世代連携	異世代交流の場づくり（3件）、地域住民とのふれあい・町内行事の活発化（3件）、子育て世帯の交流の場づくり（2件）
治安への懸念	外国人労働者との関係が不安（2件）
その他	子ども用品の買う場所の充実、働く世代への助成など

⑧ 「北海道医療大学の移転」について

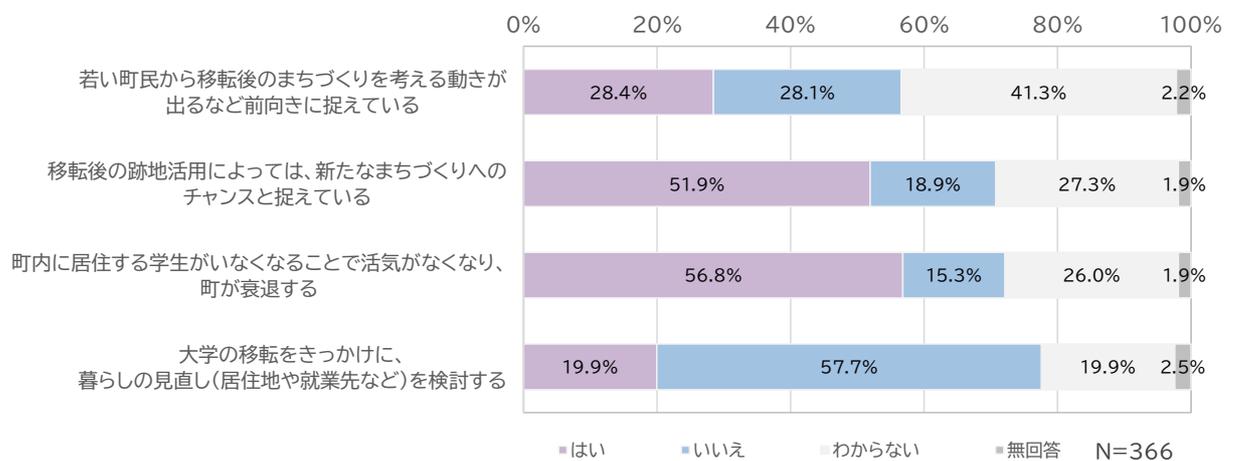
i) 北海道医療大学移転により想定される影響

北海道医療大学移転による影響が高いと想定される項目（「はい」と答えた人の割合が高い項目）は、「学生など公共交通の利用者が減るため、交通面で影響を受ける」が最も多く、70.5%、次いで「まちの活気が減り、まちづくりの面で影響を受ける」が68.3%となっています。



ii) 大学移転についての考え

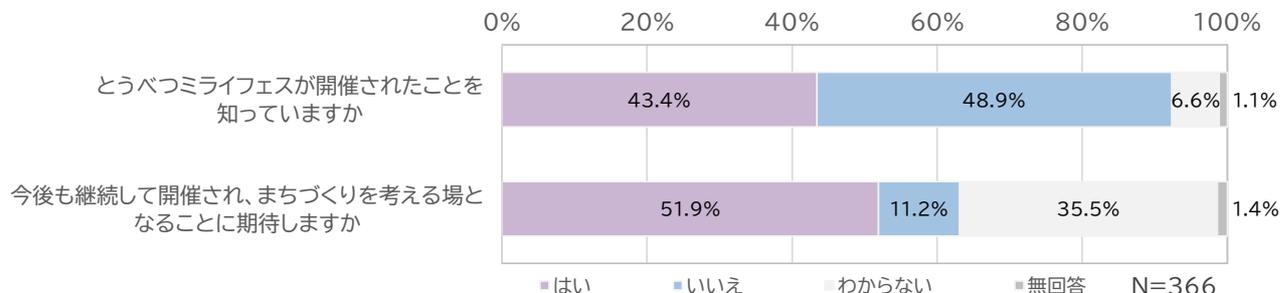
大学移転後の考えについて、「はい」と答えた人の割合が高い項目は、「町内に居住する学生がいなくなることで活気がなくなり、町が衰退する」が最も多く、56.8%、次いで「移転後の跡地活用によっては、新たなまちづくりへのチャンスと捉えている」が51.9%となっています。



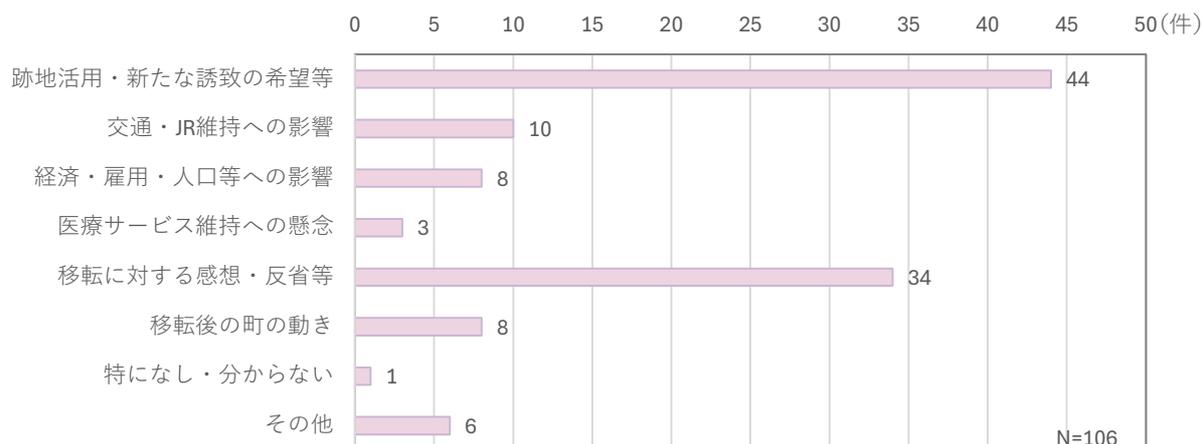
iii) Tobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)の開催の認知度と今後について

Tobetsu Mirai Fes (とうべつミライフェス) の開催認知度について、開催されたことを知っている回答者が 43.4%、知らなかった回答者が 48.9%となりました。

今後について、Tobetsu Mirai Fes がまちづくりを考える場となることに期待する回答者が 51.9%、期待しない回答者が 11.2%となりました。



自由記述を集計した結果、跡地活用・新たな誘致の希望等が最も多く 44 件、次いで移転に対する感想・反省等が 34 件、交通・JR 維持への影響が 10 件と続きます。

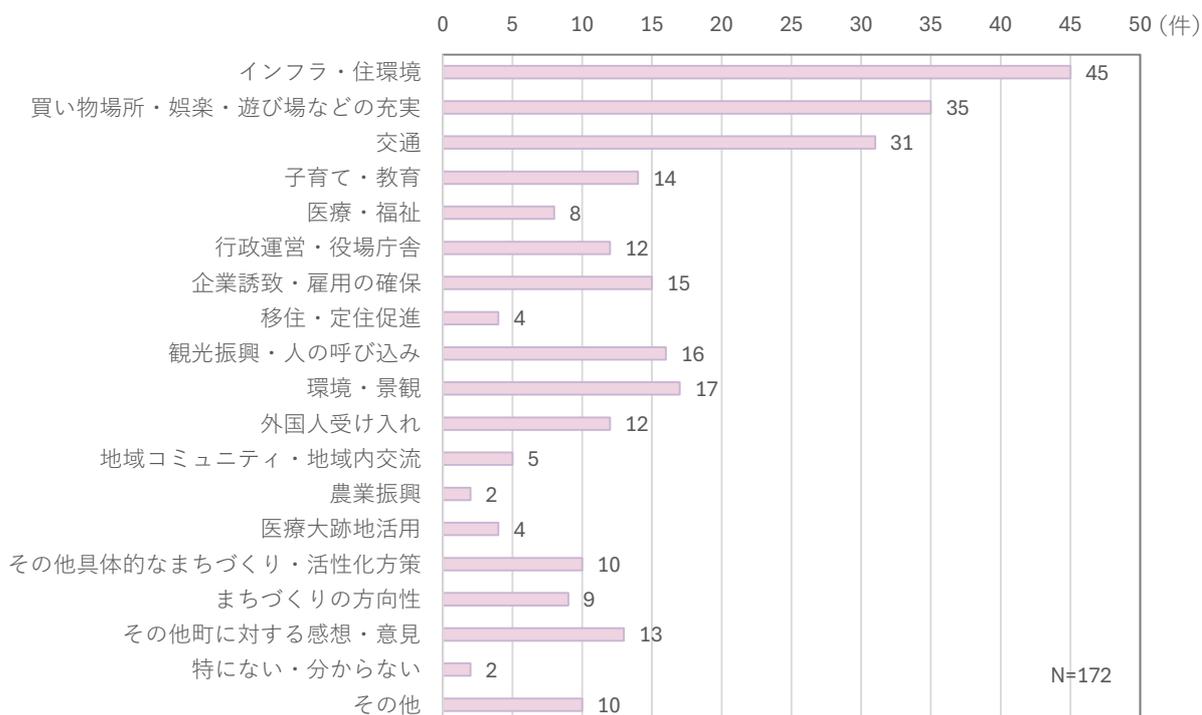


各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容 (まとめ)
跡地活用・新たな誘致等	有効活用してほしい (11 件)、企業・データセンター等の誘致 (10 件)、遊戯施設・スポーツ施設等の整備 (5 件)、ファイターズ 2 軍誘致 (4 件)、IKEA 等の商業施設の誘致 (4 件)、役場・図書館・福祉施設等の複合施設の整備 (3 件)、大学・病院誘致 (2 件)、自衛隊基地の誘致 (2 件)、宿泊施設の整備、観光施設の整備など
交通・JR 維持への影響	JR 存続・本数減少等の懸念 (8 件)、バス減便・公共交通機関への影響の懸念 (2 件)
経済・雇用・人口等への影響	学生減による人手不足の懸念 (5 件)、学生減による飲食店やアパート収入への影響の懸念 (2 件)、働く場所喪失の懸念
医療サービス維持への懸念	通院先喪失の不安 (2 件)、開業医の増加希望 (1 件)

移転に対する感想・反省等	仕方がない/残念 (15 件)、町の対応や魅力不足への反省 (10 件)、電車が空くなど、移転による利点 (4 件)、影響はない (3 件) など
移転後の町の動き	自立したまちづくりへの期待 (8 件)、大学との交渉継続、移転後の対応の計画的な進行など
その他	インフラに対する意見など

自由記述を集計した結果、インフラ・住環境が最も多く 45 件、次いで買い物場所・娯楽・遊び場などの充実が 35 件、交通が 31 件と続きます。



各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容
インフラ・住環境	除排雪体制の改善（16 件）、道路・歩道の整備（11 件）、街灯の整備（5 件）、町営住宅の整備・空き家対策（3 件）、水道料金の高さ（3 件）、公共施設の耐震性不足・災害対策、駐車場の整備、電気通信網の脆弱さなど
買い物場所・娯楽・遊び場などの充実	スーパー・生活用品店の不足（15 件）、飲食店・娯楽施設等の不足（11 件）、子どもの遊び場・室内施設の充実（6 件）、大型店等の不足（3 件）、ATM が少ない、図書館の状態が悪いなど
交通	冬季の JR 運休への対応・交通手段の確保（8 件）、ふれあいバスの本数・利便性向上や維持（7 件）、JR の本数の少なさ・運賃の高さ（4 件）、高齢者の交通手段の確保・免許返納後の割引等（3 件）、スクールバスの充実など
子育て・教育	子育て支援の充実（8 件）、子どもの遊び場・室内施設の不足（6 件）、行事や設備など教育環境の充実（2 件）など
医療・福祉	病院が少ない・町外に依存（3 件）、総合病院や入院機能のある病院の誘致（2 件）、高齢者向け医療・介護サービスの充実（2 件）など

行政運営・役場庁舎	行政対応について(7件)、役場庁舎の建て替えをすべき(2件)、デジタル化・オンライン化の推進(2件)、ふるさと納税の推進(2件)
企業誘致・雇用の確保	IKEAの誘致(5件)、雇用の場の確保(5件)、ファイターズ2軍誘致、農産物加工業者の誘致、事業所創設への支援の充実、食料基地の誘致等
移住・定住促進	若者・子育て世代の移住促進(3件)、移住支援制度の充実(2件)
観光振興・人の呼び込み	宿泊施設・キャンプ場の整備(5件)、ロイズ工場・道の駅周辺の活用・連携(4件)、北欧文化の活用(3件)、イベント・祭りの開催(2件)、地元農産物の活用(3件)、国道337号沿いの活用(2件)、ふくろう湖の活用、新たな観光スポットの整備など
環境・景観	自然環境の魅力・保全(8件)、再生可能エネルギー導入への懸念(6件)、花壇や桜並木の整備等の景観整備(5件)
外国人受け入れ	治安・マナーへの不安(11件)など
地域コミュニティ・地域内交流	地域イベント・交流の活性化(2件)、町民の閉鎖性への懸念(2件)、町内会の高齢化
農業振興	離農対策・農地活用(2件)
医療大跡地活用	多世代が楽しめる複合施設の整備、庁舎や学校・商業施設等の複合施設、宿泊施設の整備、癒される空間の整備
その他具体的なまちづくり・活性化方策	商店街・駅前での活性化(3件)、情報発信・PR強化(3件)、北欧の活用(2件)、ペットと暮らしやすいまちづくり(2件)、園芸の活用など
まちづくりの方向性	子どもたちのためのまちづくりの推進(2件)、若者と連携したまちづくり(2件)、高齢者のためのまちづくり、地産地消のまちづくり、必要以上に大きい施設は不要など
その他町に対する感想や意見	太美地区の整備の遅れ(3件)、町独自の魅力がない・認知度が低い(3件)、活気がない(2件)、人が優しい、アクセスが良く手軽な田舎暮らしができるのは強みなど

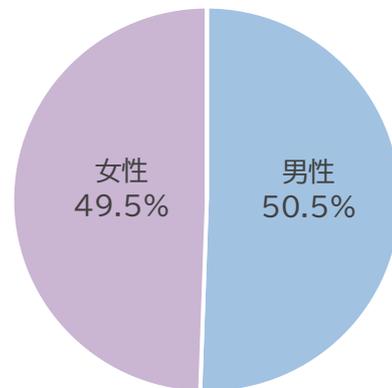
(2) 高校生アンケート調査

① 回答者属性

i) 性別

回答者の性別は、「男性」が 50.5%、「女性」が 49.5%となっています。

選択肢	回答数	割合
男性	46	50.5%
女性	45	49.5%
合計	91	100.0%

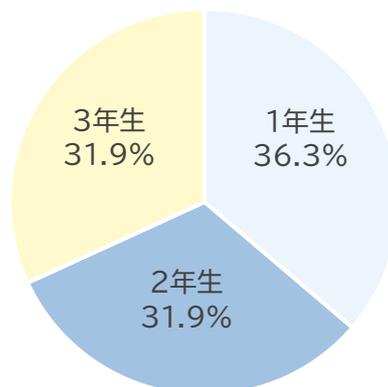


ii) 学年

N=91

回答者の学年は、「1年生」が 36.3%、「2年生」および「3年生」が 31.9%となっています。

選択肢	回答数	割合
1年生	33	36.3%
2年生	29	31.9%
3年生	29	31.9%
合計	91	100.0%

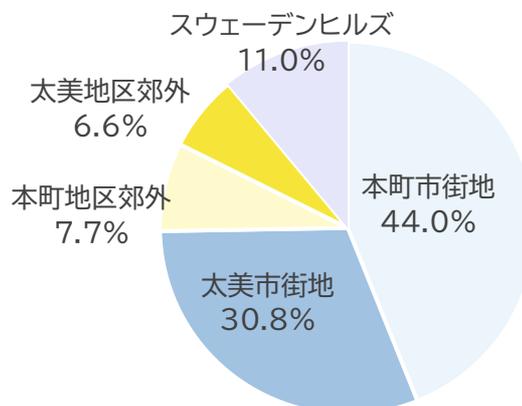


N=91

iii) 住所

住所は、「本町市街地」が 44.0%と最も多く、次いで「太美市街地」が 30.8%となっています。

選択肢	回答数	割合
本町市街地	40	44.0%
太美市街地	28	30.8%
本町地区郊外	7	7.7%
太美地区郊外	6	6.6%
スウェーデンヒルズ	10	11.0%
合計	91	100.0%

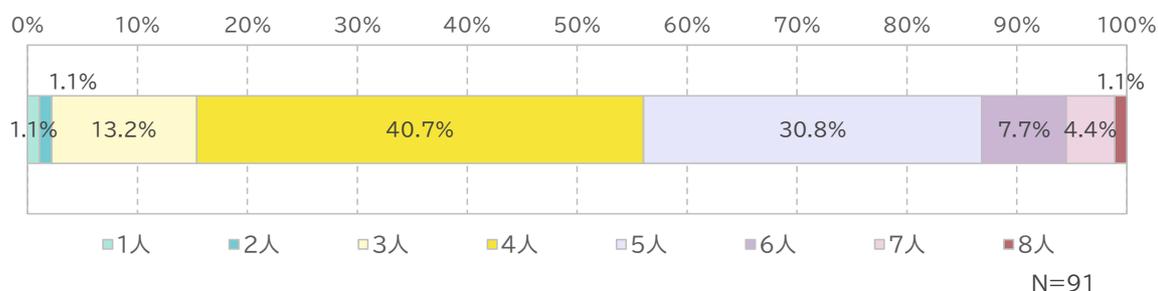


N=91

iv) 家族人数

家族人数は、「4人」が最も多く40.7%、次いで、「5人」が30.8%となっています。

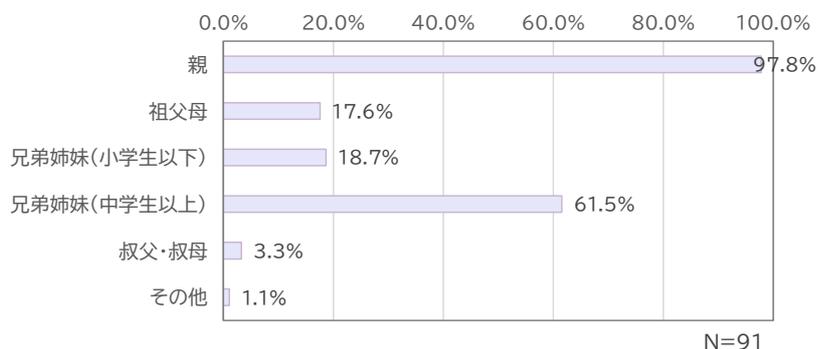
選択肢	回答数	割合
1人	1	1.1%
2人	1	1.1%
3人	12	13.2%
4人	37	40.7%
5人	28	30.8%
6人	7	7.7%
7人	4	4.4%
8人	1	1.1%
合計	91	100.0%



v) 同居家族の続柄(複数回答可)

同居家族の続柄は、「親」が最も多く97.8%、次いで、「兄弟姉妹(中学生以上)」が61.5%となっています。

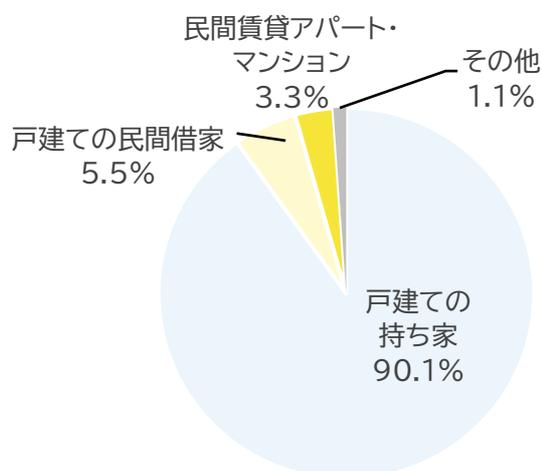
選択肢	回答数	回答率
親	89	97.8%
祖父母	16	17.6%
兄弟姉妹(小学生以下)	17	18.7%
兄弟姉妹(中学生以上)	56	61.5%
叔父・叔母	3	3.3%
その他	1	1.1%
有効回答者数	91	-



vi) 住居形態

住居形態は、「戸建ての持ち家」が最も多く、90.1%、次いで「戸建ての民間借家」が5.5%となっています。

選択肢	回答数	割合
戸建ての持ち家	82	90.1%
分譲マンション	0	0.0%
戸建ての民間借家	5	5.5%
民間賃貸アパート・マンション	3	3.3%
公営住宅	0	0.0%
社宅・官舎・寮	0	0.0%
その他	1	1.1%
合計	91	100.0%

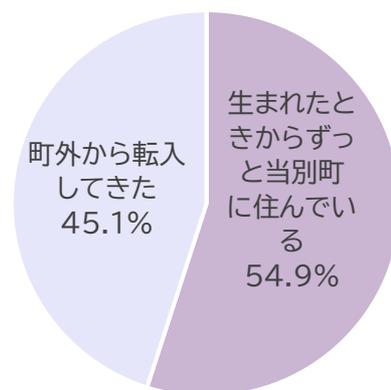


N=91

vii) 居住年数

居住経緯は、「生まれた時から当別町にずっと住んでいる」が54.9%、「町外から転入してきた」が45.1%となっています。

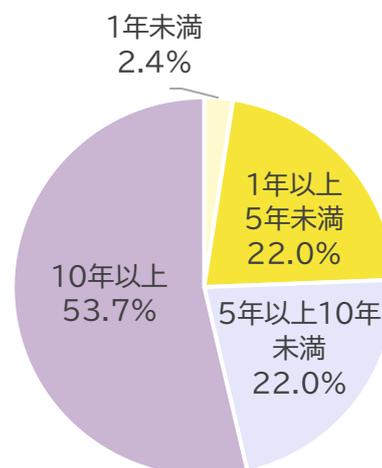
選択肢	回答数	割合
生まれたときからずっと当別町に住んでいる	50	54.9%
町外から転入してきた	41	45.1%
合計	91	100.0%



N=91

「町外から転入してきた」回答者について、「10年以上前」に転入してきた人が最も多く、53.7%、次いで「1年以上5年未満」「5年以上10年未満」が22.0%となっています。

選択肢	回答数	割合
1年未満	1	2.4%
1年以上5年未満	9	22.0%
5年以上10年未満	9	22.0%
10年以上	22	53.7%
合計	41	100.0%



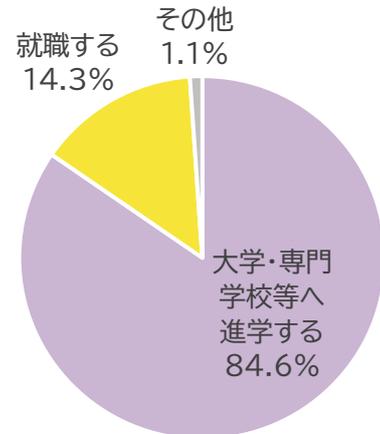
N=41

② 「高校卒業後の進路」について

i) 高校卒業後の進路

高校卒業後の進路は、「大学・専門学校等へ進学する」が最も多く、84.6%、次いで「就職する」が14.3%となっています。

選択肢	回答数	割合
大学・専門学校等へ進学する	77	84.6%
就職する	13	14.3%
その他	1	1.1%
合計	91	100.0%



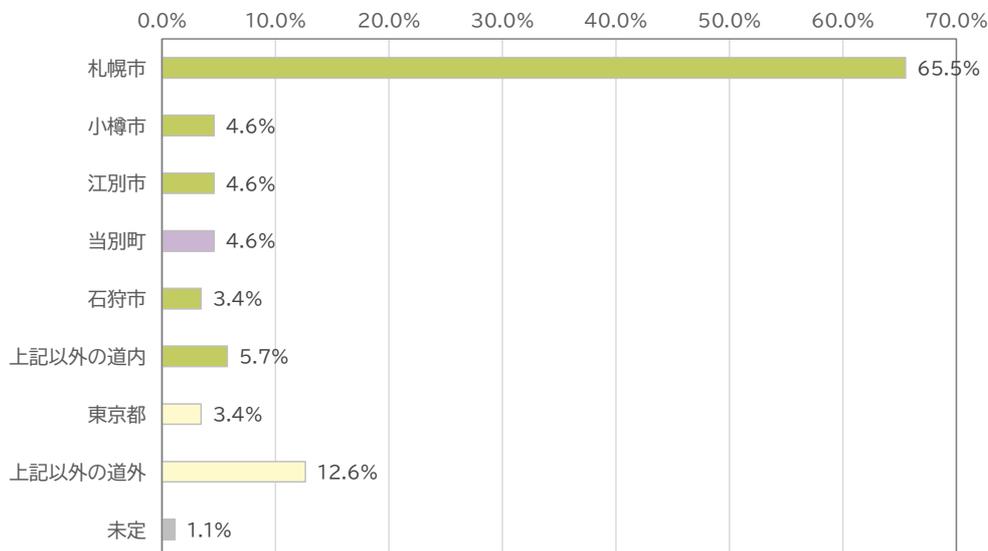
ii) 進学先・就職先の市町村名(自由記述・複数回答可)

N=91

進学先・就職先の市町村は、「札幌市」が最も多く 65.5%、次いで「上記以外の道外」が12.6%となっています。

「上記以外の道内」は、北広島市, 千歳市, 旭川市、「上記以外の道外」では、青森県, 岩手県, 秋田県, 長野県, 埼玉県, 神奈川県, 熊本県といった回答がありました。

選択肢	回答数	割合
札幌市	57	65.5%
小樽市	4	4.6%
江別市	4	4.6%
当別町	4	4.6%
石狩市	3	3.4%
上記以外の道内	5	5.7%
東京都	3	3.4%
上記以外の道外	11	12.6%
未定	1	1.1%
有効回答者数	91	-



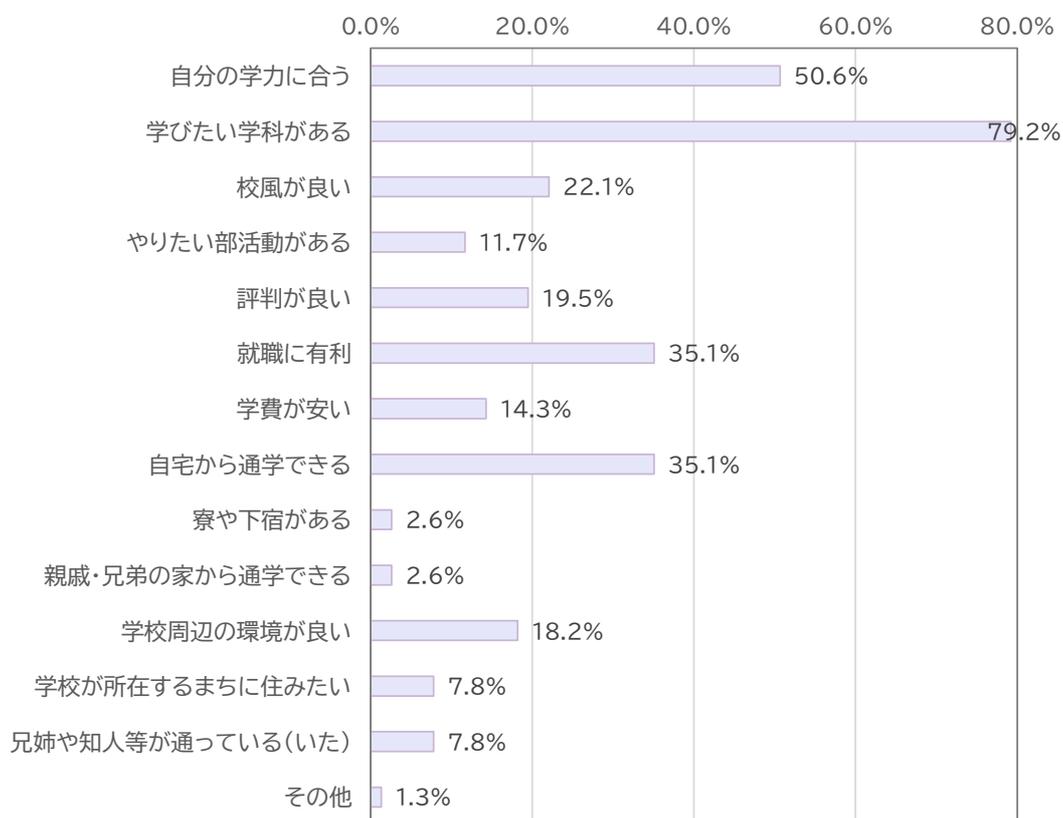
iii)進学先を選ぶポイント(複数回答可)

※「大学・専門学校等へ進学する」を選択した回答者のみ回答

進学先を選ぶポイントは、「学びたい学科がある」が最も多く、79.2%、次いで「自分の学力に合う」が50.6%となっています。

「その他」の内容としては、「単位取得に苦勞せず、資格取得に便利」といった回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
自分の学力に合う	39	50.6%
学びたい学科がある	61	79.2%
校風が良い	17	22.1%
やりたい部活動がある	9	11.7%
評判が良い	15	19.5%
就職に有利	27	35.1%
学費が安い	11	14.3%
自宅から通学できる	27	35.1%
寮や下宿がある	2	2.6%
親戚・兄弟の家から通学できる	2	2.6%
学校周辺の環境が良い	14	18.2%
学校が所在するまちに住みたい	6	7.8%
兄弟や知人等が通っている(いた)	6	7.8%
その他	1	1.3%
有効回答者数	77	-



N=77

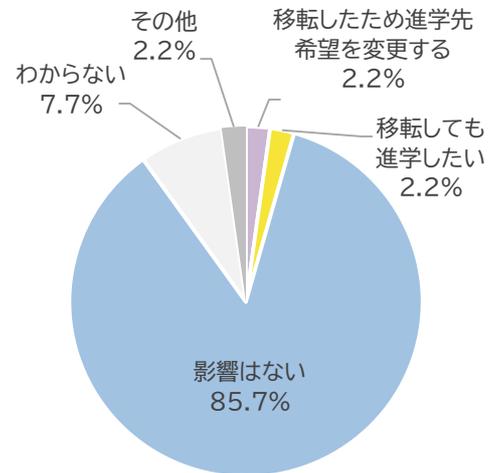
③ 「北海道医療大学の移転」について

i) 北海道医療大学の移転による進路への影響

北海道医療大学移転による進路への影響は、「もともと北海道医療大学に進学するつもりはなく、影響はない」が最も多く、85.7%、次いで「わからない」が7.7%となりました。

「その他」の内容としては、JRの本数の減少や駅がなくなった場合に影響が出る（2件）といった回答がありました。

選択肢	回答数	割合
移転したため進学先希望を変更する	2	2.2%
移転しても進学したい	2	2.2%
影響はない	78	85.7%
わからない	7	7.7%
その他	2	2.2%
合計	91	100.0%

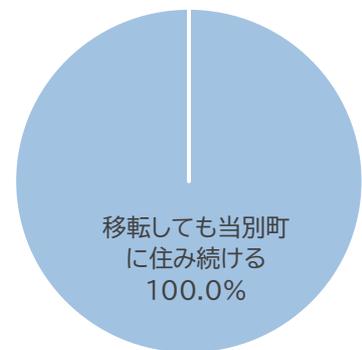


N=91

ii) 北海道医療大学に進学したいと考える人の移転予定

※ 「移転したため進学先希望を変更する」、「移転しても進学したい」を選択した回答者のみ回答
「移転しても当別町に住み続ける」が100%となっています。

選択肢	回答数	割合
予定を変更し他市町村で一人暮らしをする	0	0.0%
予定どおり他市町村で一人暮らしをする	0	0.0%
移転しても当別町に住み続ける	4	100.0%
わからない	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	4	100.0%



N=4

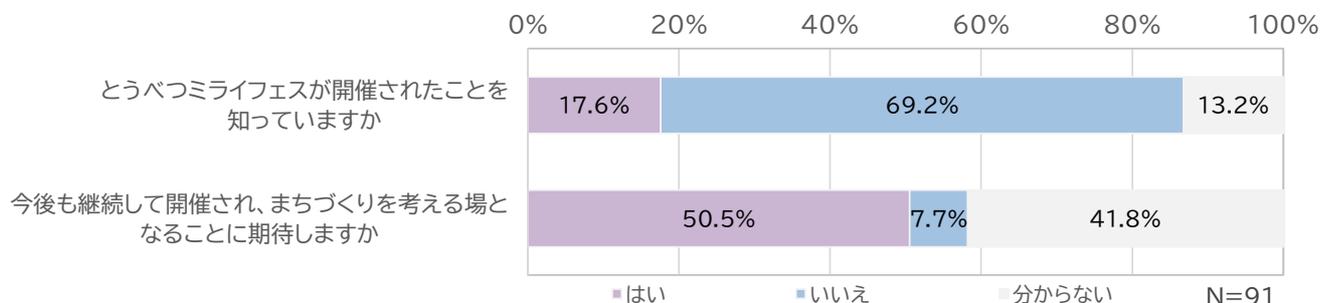
iii) 北海道医療大学に進学したいと考える人の移転先

当別町外で住みたいと考えている回答者はいなかったため、この設問に対する回答はありません。

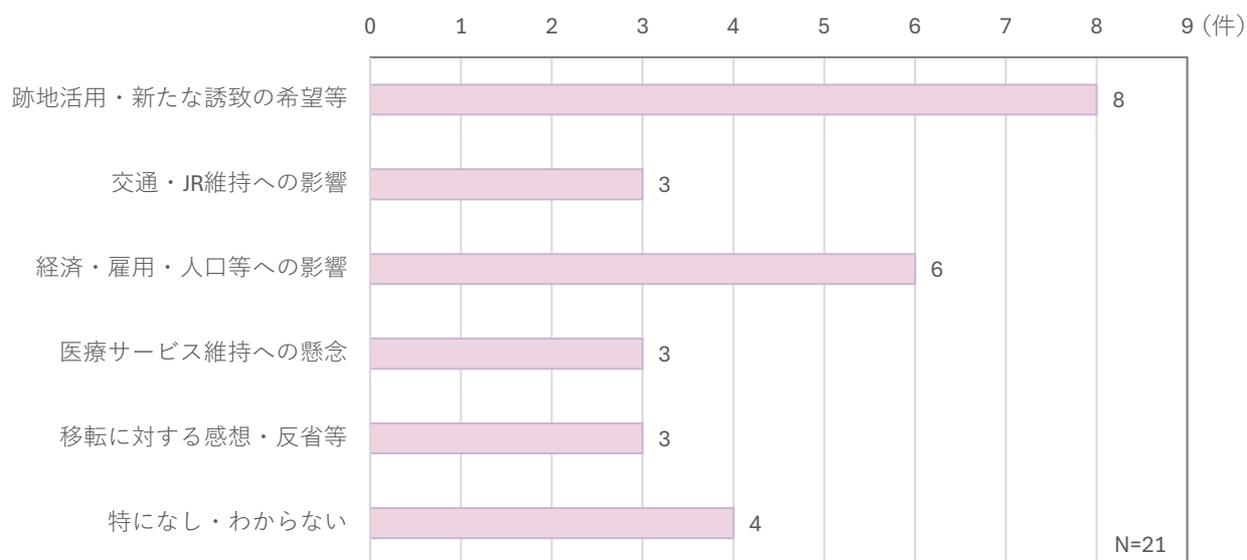
iv) Tobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)の開催の認知度と今後について

Tobetsu Mirai Fes (とうべつミライフェス) の開催認知度について、開催されたことを知っている回答者が 17.6%、知らなかった回答者が 69.2%となりました。

今後について、Tobetsu Mirai Fes がまちづくりを考える場となることに期待する回答者が 50.5%、期待しない回答者が 7.7%となりました。



自由記述を集計した結果、跡地活用・新たな誘致等に関する意見が最も多く 8 件、次いで経済・雇用・人口等への影響に関する意見が 6 件、特になし・分からないが 4 件と続きます。



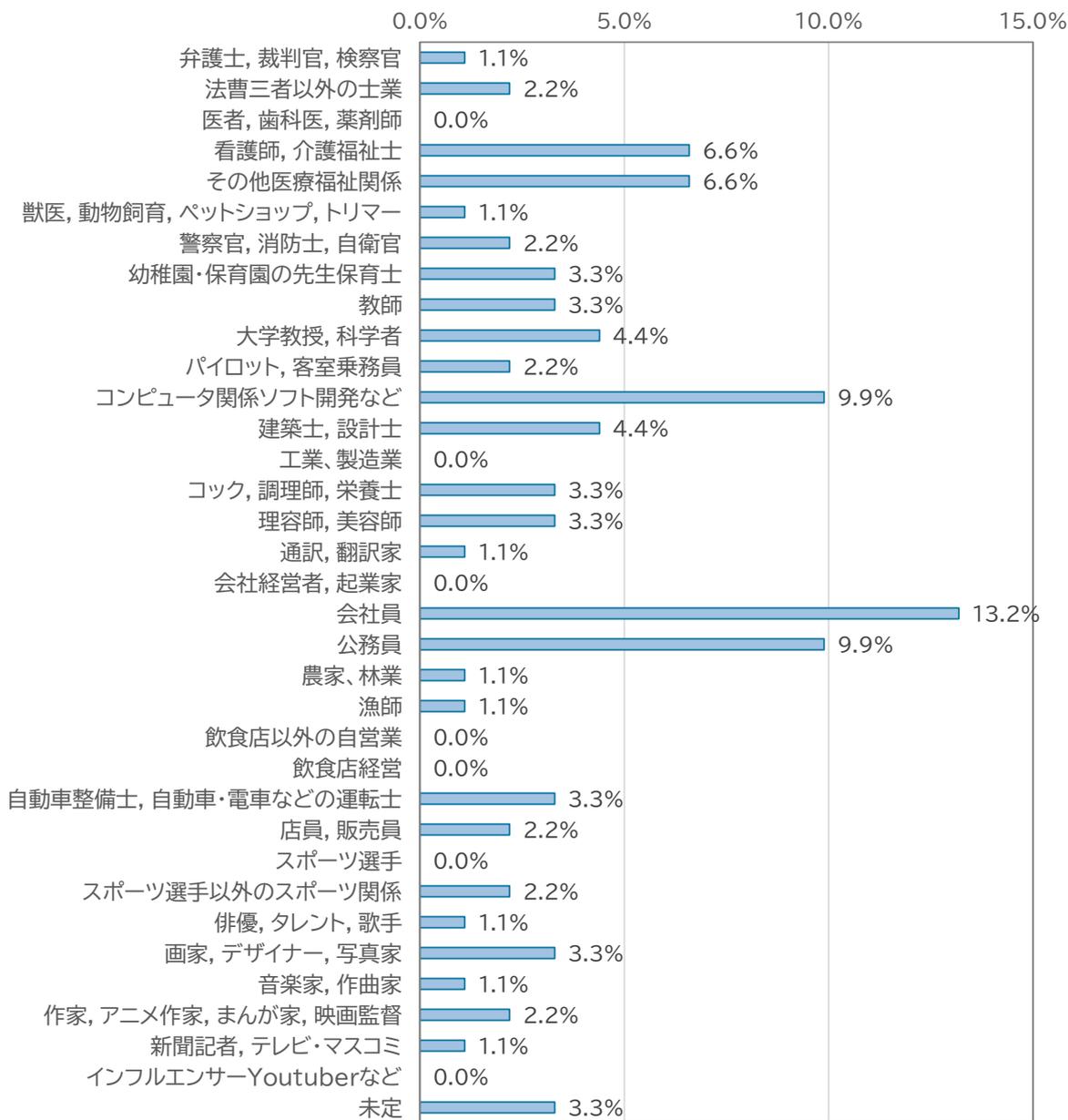
各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容
跡地活用・新たな誘致の希望等	有効活用してほしい (3 件)、他大学の誘致 (2 件)、どのように活用するのかの疑問
交通・JR 維持への影響	JR 存続・本数減少等の懸念 (3 件)
経済・雇用・人口等への影響	人口減少の懸念 (4 件)、雇用への影響、お祭りへの影響
医療サービス維持への懸念	歯科診療継続への不安 (2 件)、病院のみでも残してほしい
移転に対する感想・反省等	引き留めてほしい、町の対応や魅力不足への反省など

④ 「就職」について

i) 希望する職業

希望する職業は、「会社員」が最も多く、13.2%、次いで「コンピューター関係のソフト開発など」「公務員」が9.9%となりました。

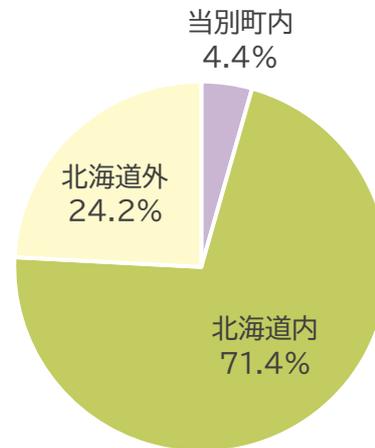


N=91

ii)希望する就業場所

希望する就業場所は、「北海道内」が最も多く、71.4%、次いで「北海道外」が24.2%となりました。

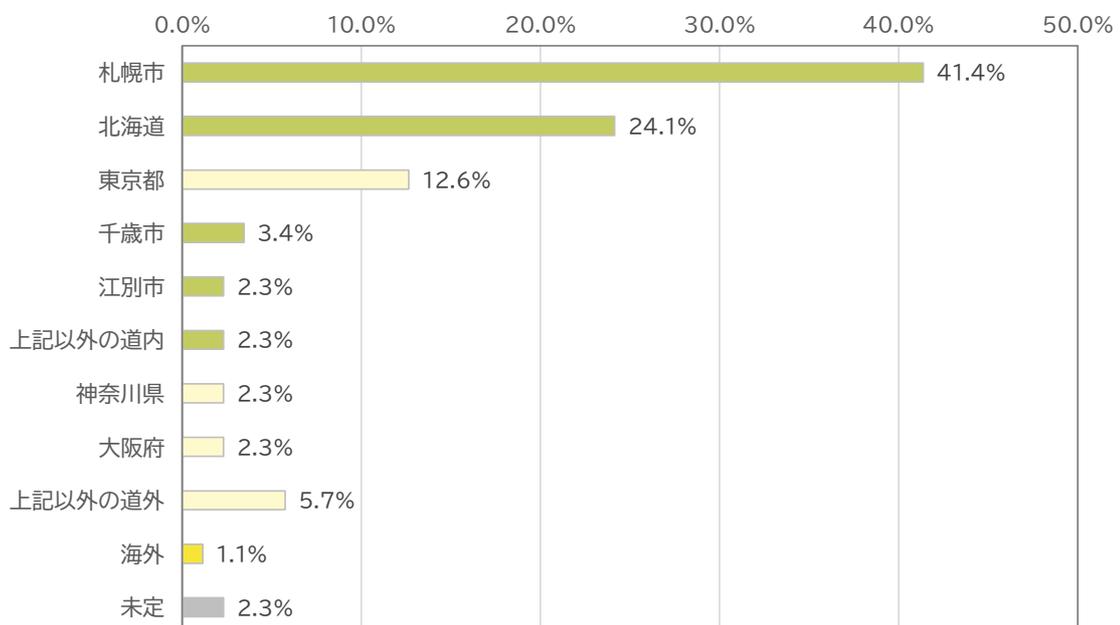
選択肢	回答数	割合
当別町内	4	4.4%
北海道内	65	71.4%
北海道外	22	24.2%
合計	91	100.0%



N=91

「北海道内」および「北海道外」の具体的な市町村および都府県は、「札幌市」が最も多く41.4%、次いで「北海道（具体的な市町村名の記述無し）」が24.1%となっています。（自由記述）

「上記以外の道内」は石狩市、函館市、「上記以外の道外」は、埼玉県、千葉県、長野県、京都府、熊本県といった回答がありました。

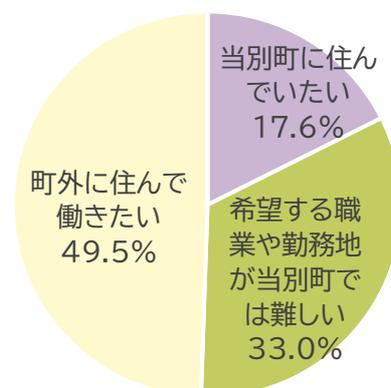


N=87

iii)就職後の当別町での居留意向

就職後の当別町での居留意向は、「町外に住んで働きたい」が最も多く、49.5%、次いで「当別町に住んでいたいけれど希望する職業や勤務地が当別町では難しい」が33.0%となっています。

選択肢	回答数	割合
当別町に住んでいたい	16	17.6%
希望する職業や勤務地が当別町では難しい	30	33.0%
町外に住んで働きたい	45	49.5%
合計	91	100.0%



iv)就職後、「当別町に住みたい」理由(複数回答可)

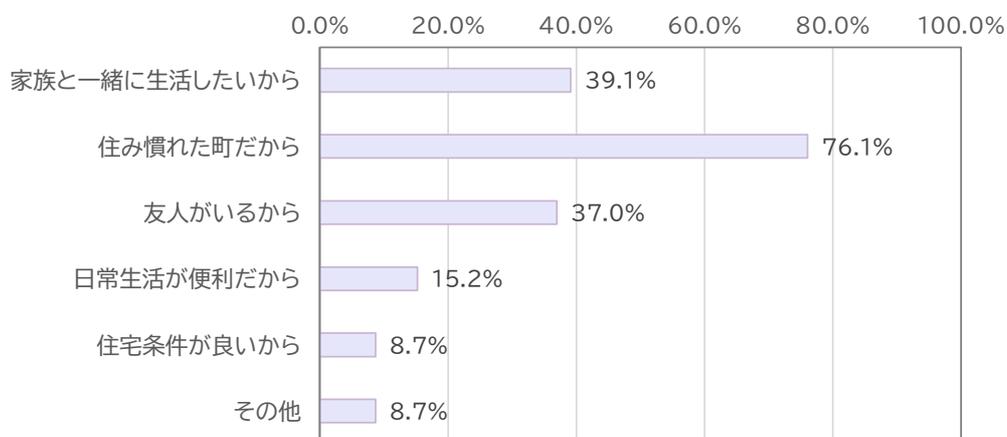
N=91

※「当別町に住んでいたい」、「希望する職業や勤務地が当別町では難しい」を選択した回答者のみ回答

当別町に住みたい理由としては、「住み慣れた町だから」が最も多く、76.1%、次いで「家族と一緒に生活したいから」が39.1%となっています。

「その他」の内容としては、「当別町が好きだから」2件、「彼女がいるから」などの回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
家族と一緒に生活したいから	18	39.1%
住み慣れた町だから	35	76.1%
友人がいるから	17	37.0%
日常生活が便利だから	7	15.2%
住宅条件が良いから	4	8.7%
その他	4	8.7%
有効回答者数	46	-



N=46

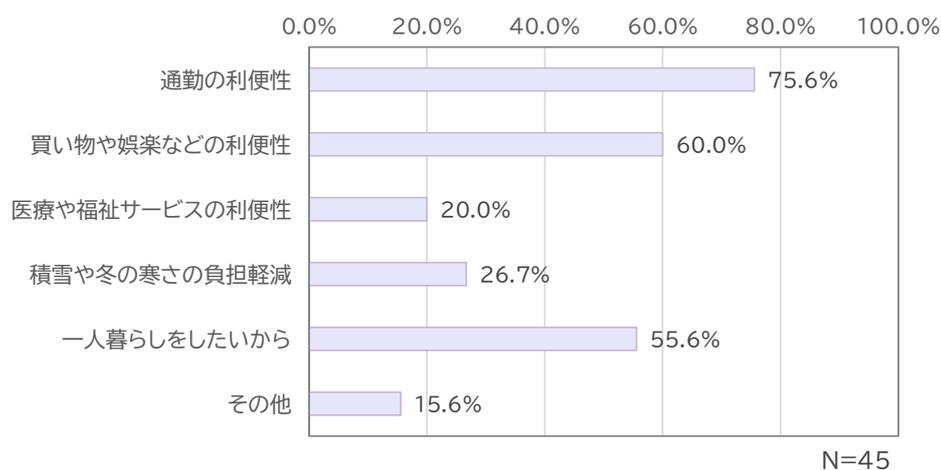
v)就職後「当別町外に住みたい」理由(複数回答可)

※「町外に住んで働きたい」を選択した回答者のみ回答

当別町外に住みたい理由としては、「通勤の利便性」が最も多く、75.6%、次いで「買い物や娯楽などの利便性」が60.0%となっています。

「その他」の内容としては、「当別町に将来性や利便性といった魅力を感じないため」が3件、「希望する就職先のため」が2件、「都会がよい」といった意見が寄せられました。

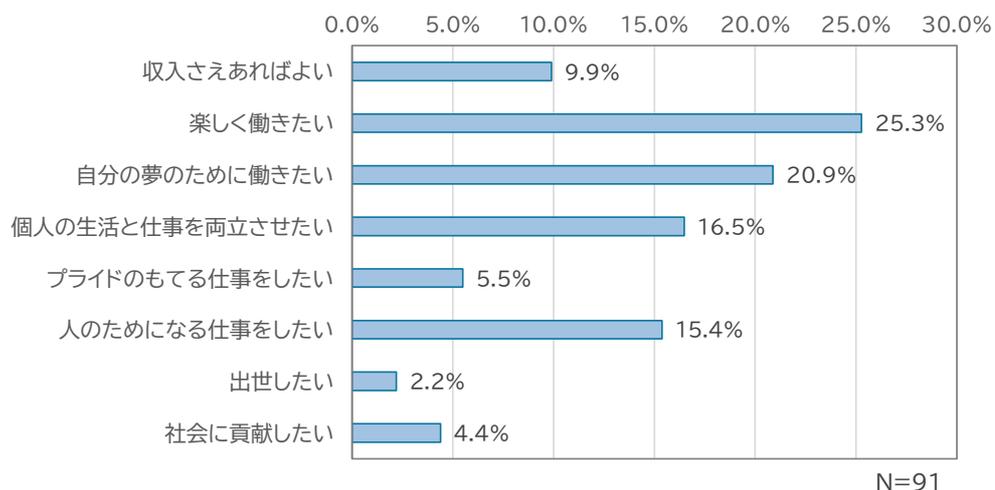
選択肢	回答数	回答率
通勤の利便性	34	75.6%
買い物や娯楽などの利便性	27	60.0%
医療や福祉サービスの利便性	9	20.0%
積雪や冬の寒さの負担軽減	12	26.7%
一人暮らしをしたいから	25	55.6%
その他	7	15.6%
有効回答者数	45	-



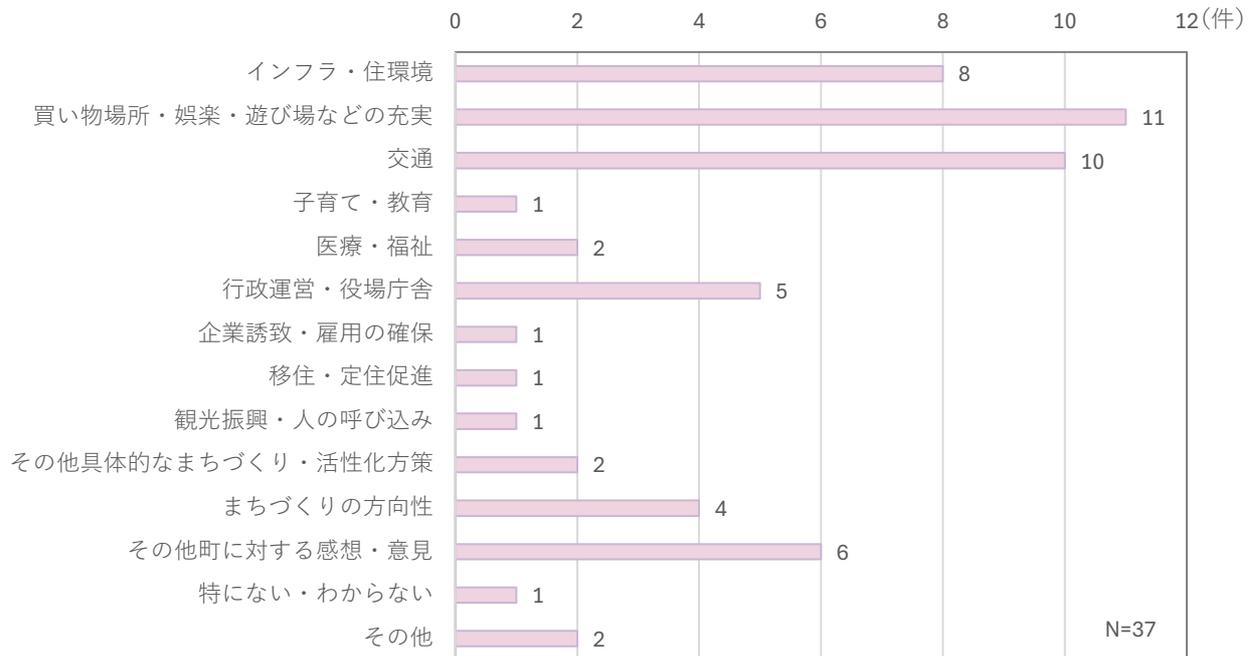
vi) 仕事や就職に対する考え方

仕事や就職に対する考え方は、「楽しく働きたい」が最も多く、25.3%、次いで「自分の夢のために働きたい」が20.9%となっています。

選択肢	回答数	割合
収入さえあればよい	9	9.9%
楽しく働きたい	23	25.3%
自分の夢のために働きたい	19	20.9%
個人の生活と仕事を両立させたい	15	16.5%
プライドのもてる仕事をしたい	5	5.5%
人のためになる仕事をしたい	14	15.4%
出世したい	2	2.2%
社会に貢献したい	4	4.4%
合計	91	100.0%



自由記述を集計した結果、買い物場所・娯楽・遊び場などの充実が最も多く 11 件、交通が 10 件、インフラ・住環境が 8 件と続きます。



各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容
インフラ・住環境	道路・エレベーター等太美駅周辺の整備 (4 件)、道路・歩道の整備 (3 件)、街灯の整備 (1 件)
買い物場所・娯楽・遊び場などの充実	大型店・お店等の不足 (4 件)、飲食店・娯楽施設・集まる場所等の不足 (4 件)、学習スペースの不足 (3 件)、飲食店の種類の増加希望など
交通	JR の本数の少なさ (3 件)、バスの少なさ (3 件)、定期代の助成の不足 (2 件)、医療大学移転後の JR の存続への懸念、札幌へのアクセス改善など
子育て・教育	公園など子どもが遊べる場の充実
医療・福祉	病院が欲しいなど
行政運営・役場庁舎	行政運営についての意見 (2 件)、行政対応についての意見、新庁舎整備でなく人口増加に財源を充てると良いなど
企業誘致・雇用の確保	IKEA の誘致
移住・定住促進	気候や住宅価格等により、人口流入する可能性が高いことを見据えた取組が必要
観光振興・人の呼び込み	大型公園や植物園の整備
その他具体的なまちづくり・活性化方策	情報発信・PR の強化、当別駅前・太美駅前の開発

まちづくりの方向性	コンパクトシティの推進、自然豊かで多くの人で賑わうまちづくりの推進、広い世代が暮らしやすい町など
その他町に対する感想や意見	人が優しい・つながりが強い(3件)、町が好き、空き地が減っていて悲しい、太美地区の整備の遅れなど

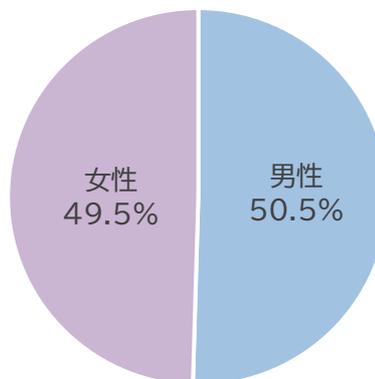
(3) 中学生アンケート調査

① 回答者属性

i) 性別

回答者の性別は、「男性」が 50.5%、「女性」が 49.5%となっています。

選択肢	回答数	割合
男性	110	50.5%
女性	108	49.5%
合計	218	100.0%

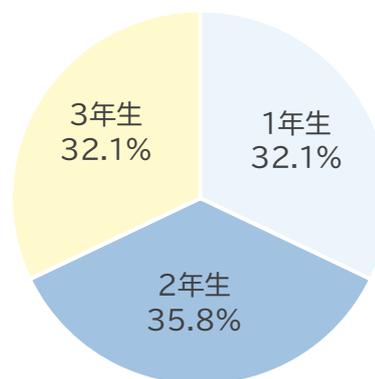


N=218

ii) 学年

回答者の学年は、「1年生」が 32.1%、「2年生」が 35.8%、「3年生」が 32.1%となっています。

選択肢	回答数	割合
1年生	70	32.1%
2年生	78	35.8%
3年生	70	32.1%
合計	218	100.0%

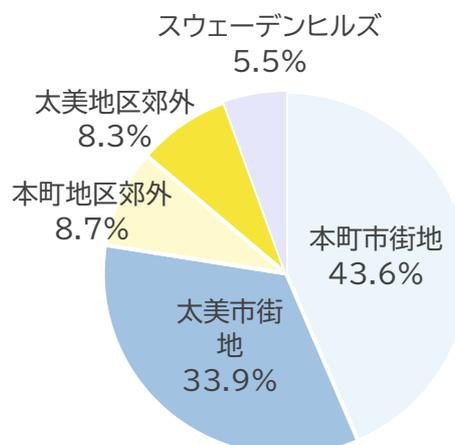


N=218

iii) 住所

住所は、「本町市街地」が 43.6%と最も多く、次いで「太美市街地」が 33.9%となっています。

選択肢	回答数	割合
本町市街地	95	43.6%
太美市街地	74	33.9%
本町地区郊外	19	8.7%
太美地区郊外	18	8.3%
スウェーデンヒルズ	12	5.5%
合計	218	100.0%

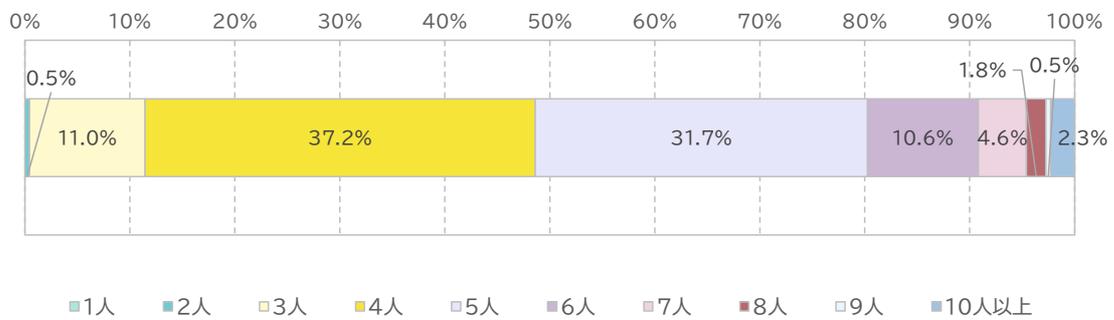


N=218

iv) 家族人数

家族人数は、「4人」が最も多く 37.2%、次いで、「5人」が 31.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
1人	0	0.0%
2人	1	0.5%
3人	24	11.0%
4人	81	37.2%
5人	69	31.7%
6人	23	10.6%
7人	10	4.6%
8人	4	1.8%
9人	1	0.5%
10人以上	5	2.3%
合計	218	100.0%



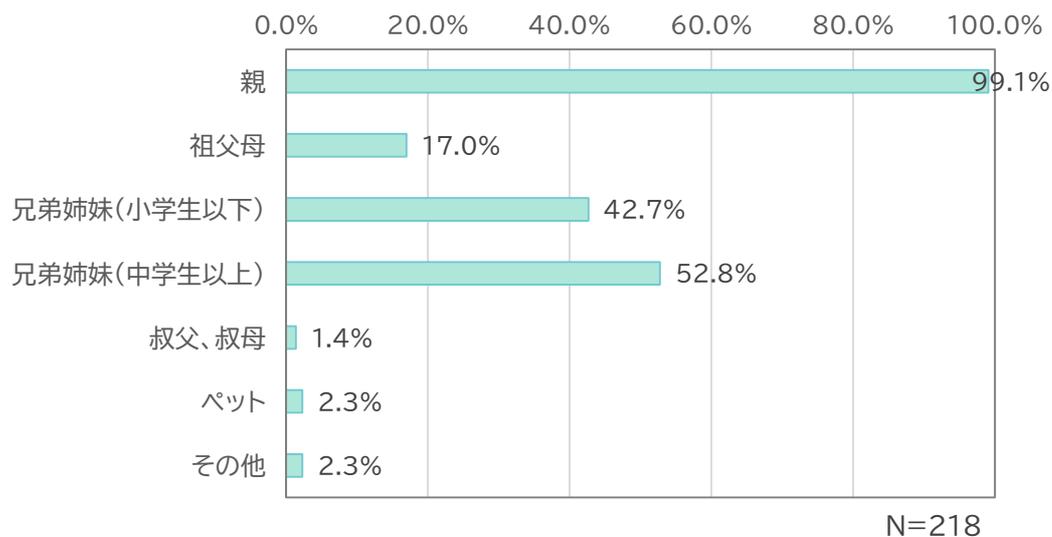
N=218

v)同居家族の続柄(複数回答可)

同居家族の続柄は、「親」が最も多く 99.1%、次いで、「兄弟姉妹(中学生以上)」が 52.8%となっています。

「その他」の内容としては、「従兄弟」2件、「兄弟の家族」といった回答がありました。

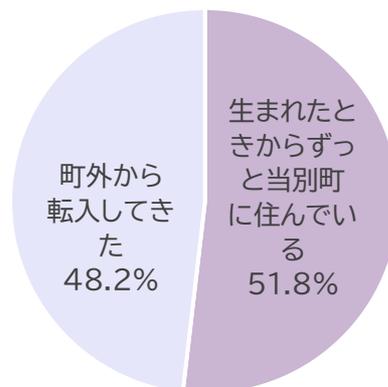
選択肢	回答数	回答率
親	216	99.1%
祖父母	37	17.0%
兄弟姉妹(小学生以下)	93	42.7%
兄弟姉妹(中学生以上)	115	52.8%
叔父、叔母	3	1.4%
ペット	5	2.3%
その他	5	2.3%
有効回答者数	218	-
無回答	0	-



vi)居住年数

居住経緯は、「生まれた時から当別町にずっと住んでいる」が51.8%、「町外から転入してきた」が48.2%となっています。

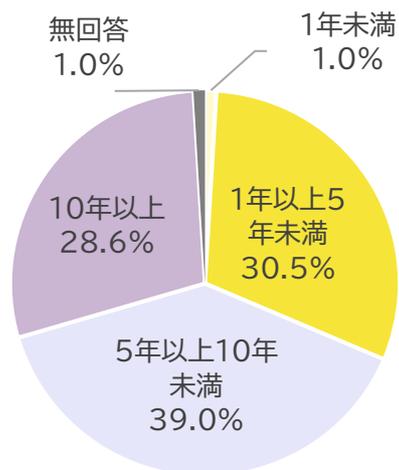
選択肢	回答数	割合
生まれたときからずっと当別町に住んでいる	113	51.8%
町外から転入してきた	105	48.2%
合計	218	100.0%



N=218

「町外から転入してきた」回答者について、「5年以上10年未満」に転入してきた人が最も多く、39.0%、次いで「1年以上5年未満」が30.5%となっています。

選択肢	回答数	割合
1年未満	1	1.0%
1年以上5年未満	32	30.5%
5年以上10年未満	41	39.0%
10年以上	30	28.6%
無回答	1	1.0%
合計	105	100.0%



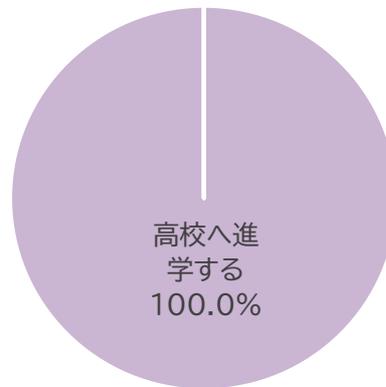
N=105

② 「中学卒業後の進路」について

i) 中学卒業後の進路

中学卒業後の進路は、「高校へ進学する」が 100%となっています。

選択肢	回答数	割合
高校へ進学する	218	100.0%
就職する	0	0.0%
その他	0	0.0%
合計	218	100.0%

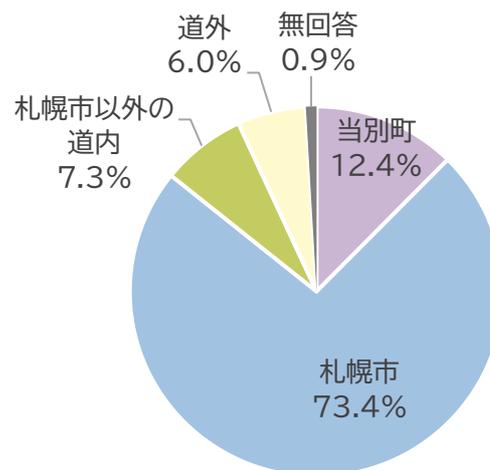


N=218

ii) 進学先の市町村

進学先の市町村は、「札幌市」が最も多く 73.4%、次いで「当別町」が 12.4%となっています。

選択肢	回答数	割合
当別町	27	12.4%
札幌市	160	73.4%
札幌市以外の道内	16	7.3%
道外	13	6.0%
無回答	2	0.9%
合計	218	100.0%



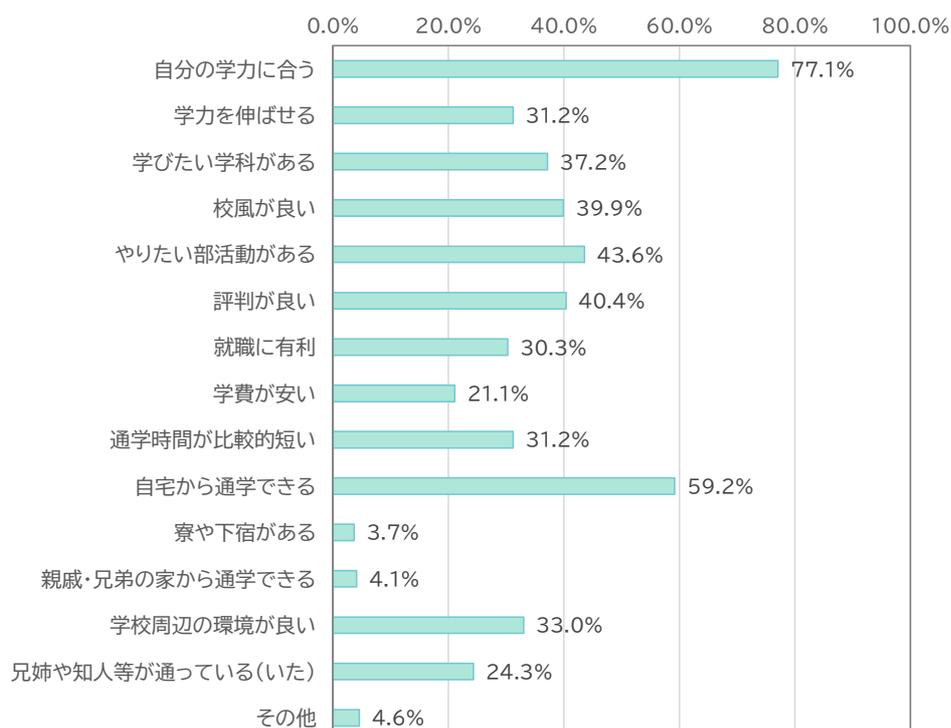
N=218

iii)進学先を選ぶポイント(複数回答可)

進学先を選ぶポイントは、「自分の学力に合う」が最も多く、77.1%、次いで「自宅から通学できる」が59.2%となっています

「その他」の内容として、進学に有利、親や知り合いの影響(2件)、留学ができる、友人と同じ学校などの回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
自分の学力に合う	168	77.1%
学力を伸ばせる	68	31.2%
学びたい学科がある	81	37.2%
校風が良い	87	39.9%
やりたい部活動がある	95	43.6%
評判が良い	88	40.4%
就職に有利	66	30.3%
学費が安い	46	21.1%
通学時間が比較的短い	68	31.2%
自宅から通学できる	129	59.2%
寮や下宿がある	8	3.7%
親戚・兄弟の家から通学できる	9	4.1%
学校周辺の環境が良い	72	33.0%
兄弟や知人等が通っている(いた)	53	24.3%
その他	10	4.6%
有効回答者数	218	-
無回答	0	-



N=218

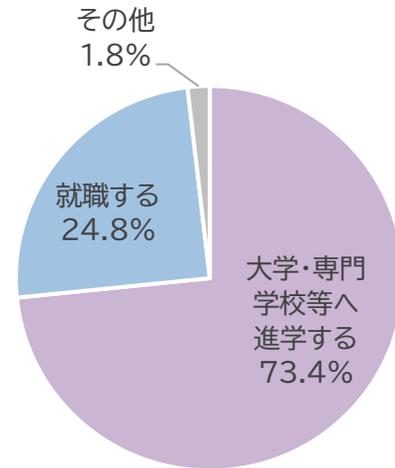
③ 「高校卒業後の進路」について

i) 高校卒業後の進路

高校卒業後の進路は、「大学・専門学校等へ進学する」が最も多く、73.4%、次いで「就職する」が24.8%となっています。

「その他」の内容として、未定（3件）などの回答がありました。

選択肢	回答数	割合
大学・専門学校等へ進学する	160	73.4%
就職する	54	24.8%
その他	4	1.8%
合計	218	100.0%

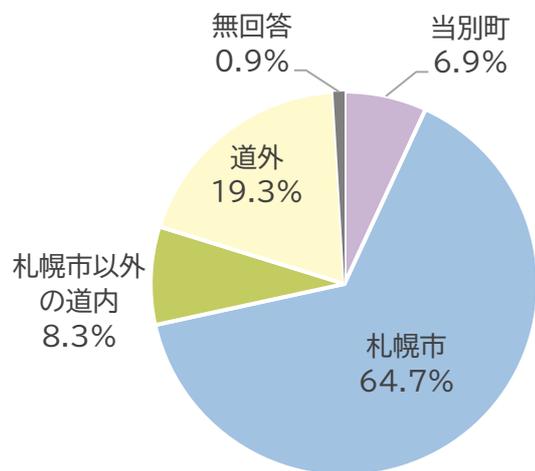


N=218

ii) 進学先・就職先の市町村名

進学先・就職先の市町村は、「札幌市」が最も多く64.7%、次いで「道外」が19.3%となっています。

選択肢	回答数	割合
当別町	15	6.9%
札幌市	141	64.7%
札幌市以外の道内	18	8.3%
道外	42	19.3%
無回答	2	0.9%
合計	218	100.0%



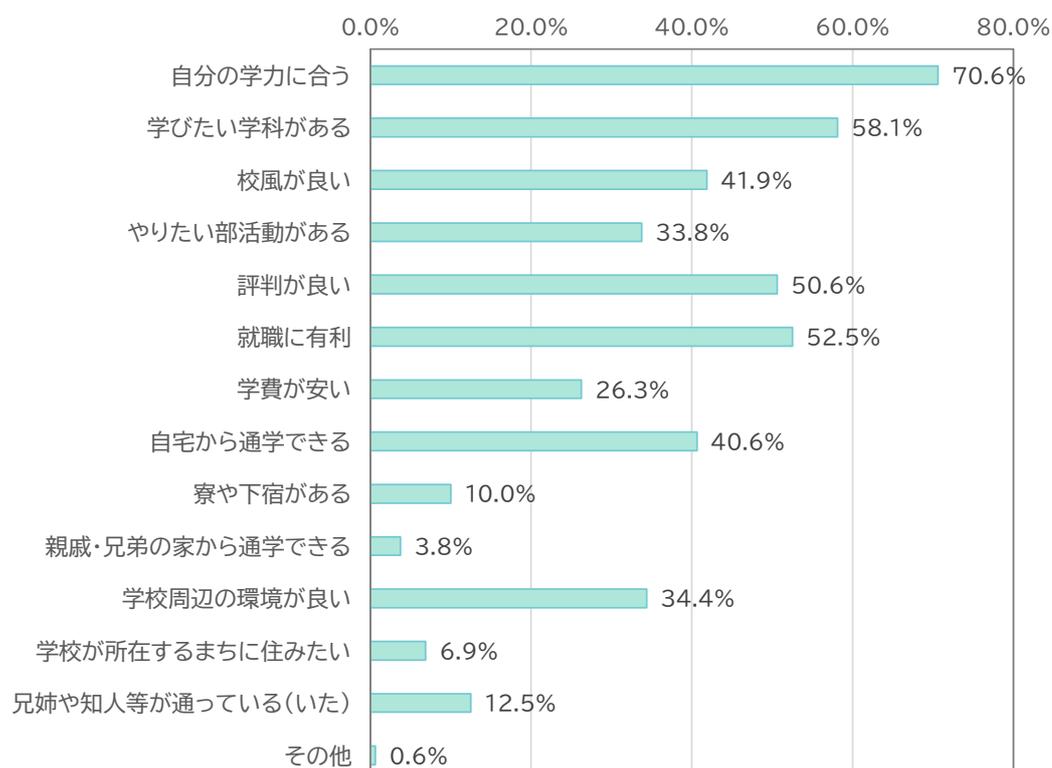
N=218

iii)進学先を選ぶポイント(複数回答可)

※「大学・専門学校等へ進学する」を選択した回答者を対象

進学先を選ぶポイントについて、「自分の学力に合う」が最も多く、70.6%、次いで「学びたい学科がある」が58.1%となっています

選択肢	回答数	回答率
自分の学力に合う	113	70.6%
学びたい学科がある	93	58.1%
校風が良い	67	41.9%
やりたい部活動がある	54	33.8%
評判が良い	81	50.6%
就職に有利	84	52.5%
学費が安い	42	26.3%
自宅から通学できる	65	40.6%
寮や下宿がある	16	10.0%
親戚・兄弟の家から通学できる	6	3.8%
学校周辺の環境が良い	55	34.4%
学校が所在するまちに住みたい	11	6.9%
兄弟や知人等が通っている(いた)	20	12.5%
その他	1	0.6%
有効回答者数	160	-
無回答	0	-



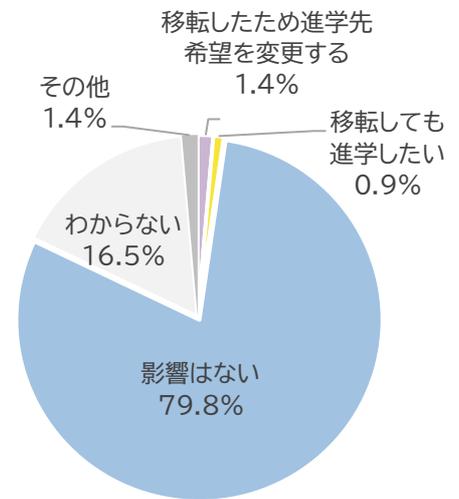
N=160

③ 「北海道医療大学の移転」について

i) 北海道医療大学の移転による進路への影響

北海道医療大学移転による進路への影響は、「もともと北海道医療大学に進学するつもりはなく、影響はない」が最も多く、79.8%、次いで「わからない」が16.5%となりました。

選択肢	回答数	割合
移転したため進学先希望を変更する	3	1.4%
移転しても進学したい	2	0.9%
影響はない	174	79.8%
わからない	36	16.5%
その他	3	1.4%
合計	218	100.0%

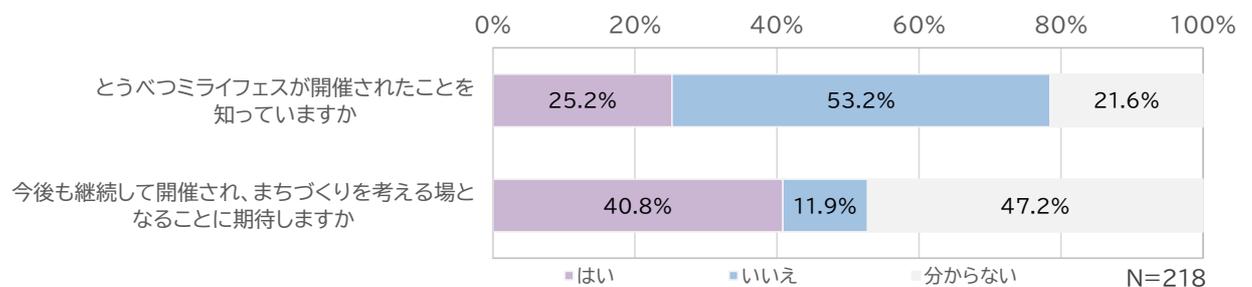


N=218

ii) Tobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)の開催の認知度と今後について

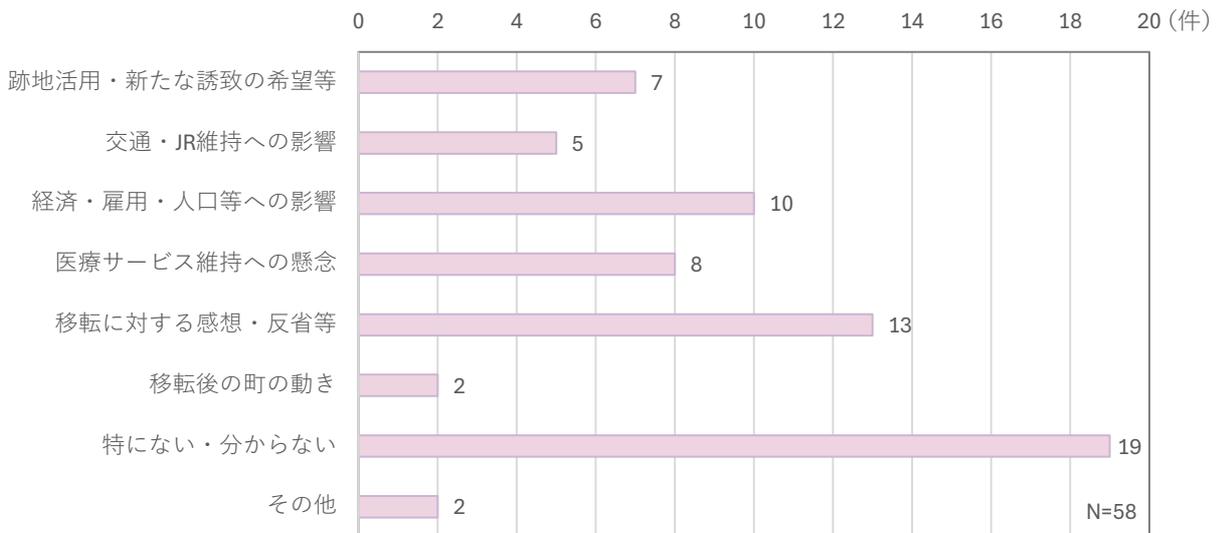
Tobetsu Mirai Fes(とうべつミライフェス)の開催認知度について、開催されたことを知っている回答者が25.2%、知らなかった回答者が53.2%となりました。

今後について、Tobetsu Mirai Fesがまちづくりを考える場となることに期待する回答者が40.8%、期待しない回答者が11.9%となりました。



N=218

自由記述を集計した結果、特にない・分からないが最も多く 19 件、次いで移転に対する感想・反省等が 13 件、経済・雇用・人口等への影響が 10 件と続きます。



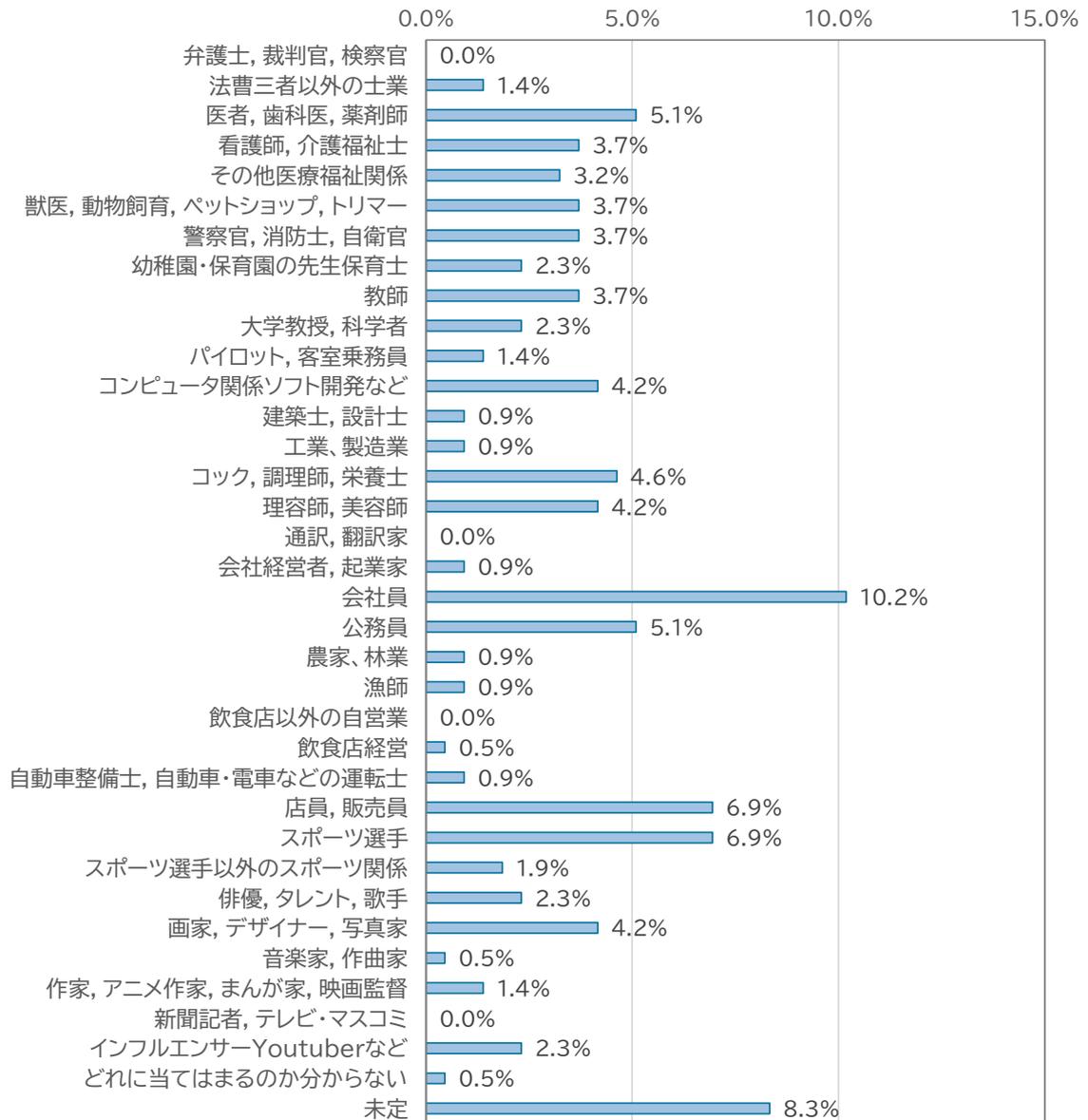
各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容
跡地活用・新たな誘致の希望等	有効活用してほしい (4 件)、ショッピングモールや遊べる施設の整備 (2 件)、どのように活用するのかの疑問
交通・JR 維持への影響	JR の利用者数減少等への懸念 (4 件)、ダイヤ改善案
経済・雇用・人口等への影響	人口減少・若者流出への懸念 (8 件)、活気・経済への悪影響への懸念 (4 件)
医療サービス維持への懸念	歯科診療継続への不安 (5 件)、大きな病院がなくなることへの不安 (3 件)
移転に対する感想・反省等	移転しないでほしい (5 件)、悲しい/さみしい (2 件)、仕方ない、いくつかの学科を残してほしい、移転場所への疑問など
移転後の町の動き	電車の利用者や若い世代の積極的な受け入れ、今後への期待
その他	水道料金に対する意見など

④ 「就職」について

i) 希望する職業

希望する職業は、「会社員」が最も多く、10.2%、次いで「未定」が8.3%となりました。

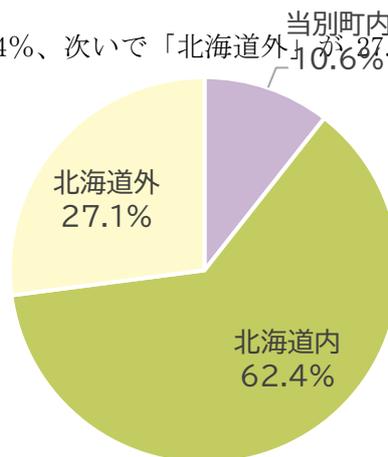


N=216

ii)希望する就業場所

希望する就業場所は、「北海道内」が最も多く、62.4%、次いで「北海道外」が27.1%となりました。

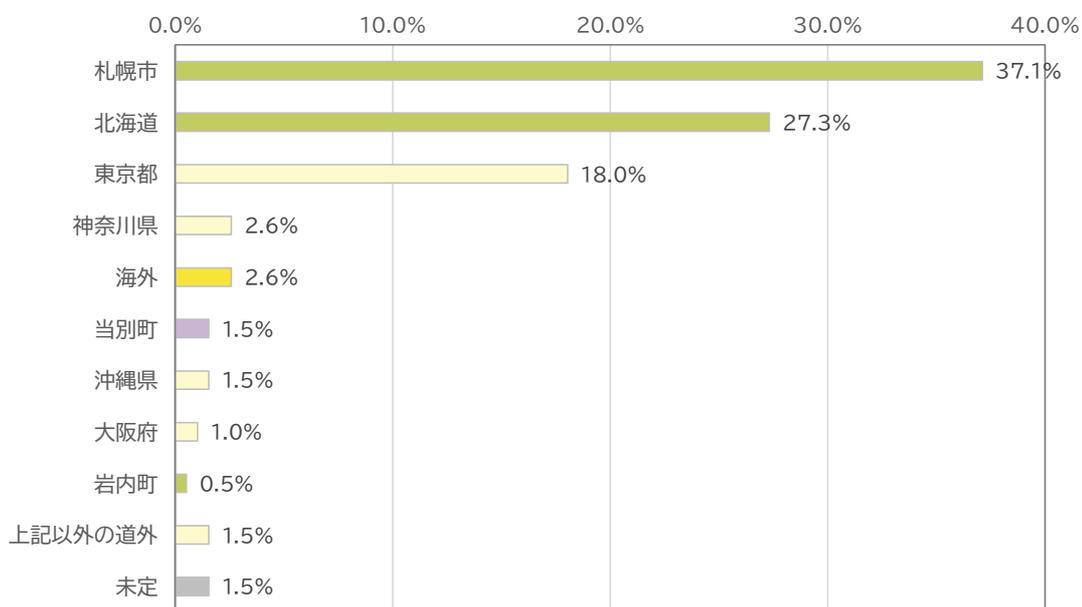
選択肢	回答数	割合
当別町内	23	10.6%
北海道内	136	62.4%
北海道外	59	27.1%
合計	218	100.0%



N=218

「北海道内」および「北海道外」の具体的な市町村および都府県は、「札幌市」が最も多く37.1%、次いで「北海道（具体的な市町村名の記述無し）」が27.3%となっています。（自由記述）

「上記以外の道外」は、国内、仙台市、静岡県といった回答がありました。

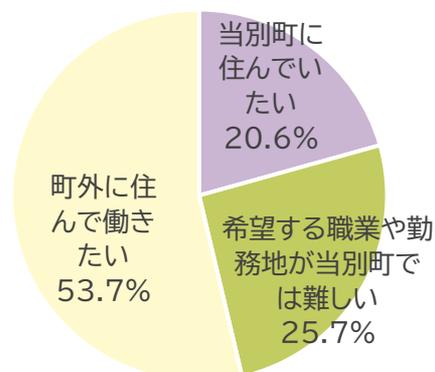


N=194

iii) 就職後の当別町での居留意向

就職後の当別町での居留意向は、「町外に住んで働きたい」が最も多く、53.7%、次いで「当別町に住んでいたいけれど希望する職業や勤務地が当別町では難しい」が25.7%となっています。

選択肢	回答数	割合
当別町に住んでいたい	45	20.6%
希望する職業や勤務地が当別町では難しい	56	25.7%
町外に住んで働きたい	117	53.7%
合計	218	100.0%



N=218

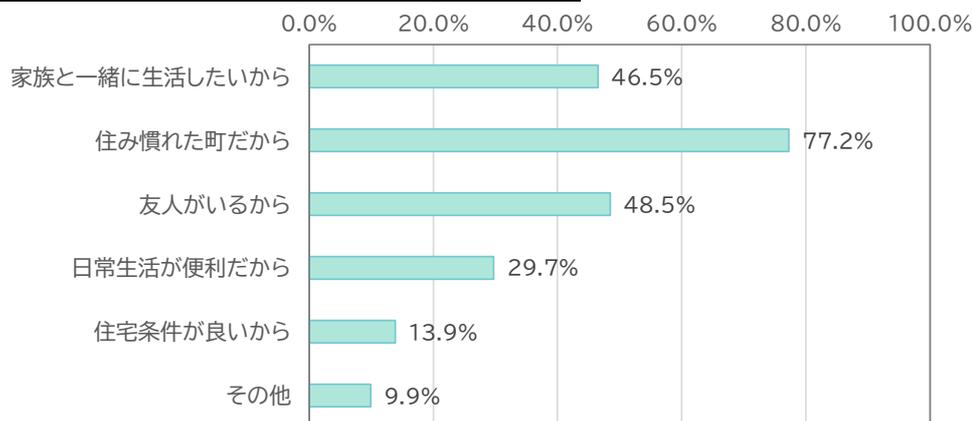
iv) 就職後、「当別町に住みたい」方の理由(複数回答可)

※「当別町に住んでいたい」、「希望する職業や勤務地が当別町では難しい」を選択した回答者のみ回答

当別町に住みたい理由としては、「住み慣れた町だから」が最も多く、77.2%、次いで「友人がいるから」が48.5%となっています。

「その他」の内容としては、「自然が魅力的で良い」3件、「閑静で環境が良い」2件、「自身の生活の都合が良い」2件、「治安が良い」、「札幌市へのアクセスが良い」などの回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
家族と一緒に生活したいから	47	46.5%
住み慣れた町だから	78	77.2%
友人がいるから	49	48.5%
日常生活が便利だから	30	29.7%
住宅条件が良いから	14	13.9%
その他	10	9.9%
有効回答者数	101	-
無回答	0	-



N=101

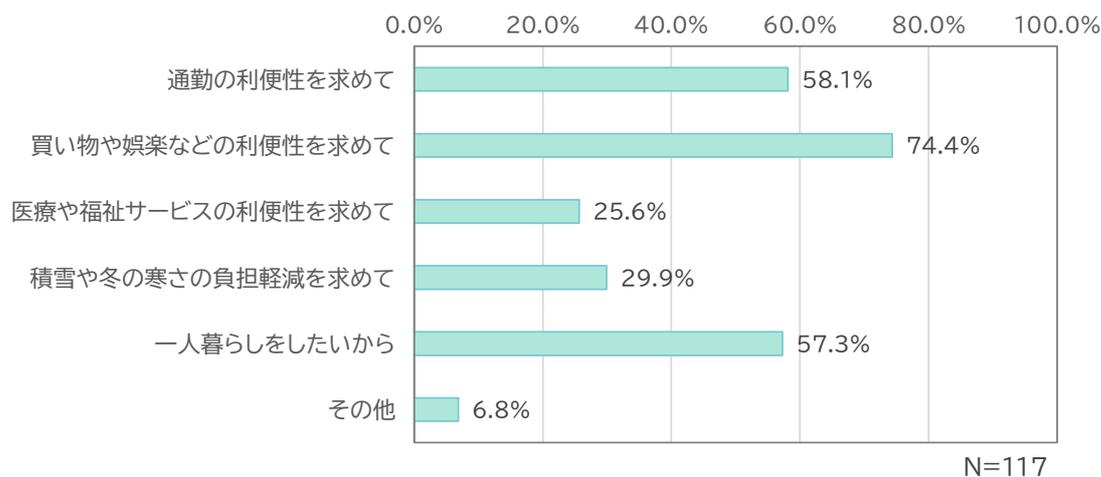
v)就職後「当別町外に住みたい」方の理由(複数回答可)

※「町外に住んで働きたい」を選択した回答者のみ回答

当別町外に住みたい理由としては、「買い物や娯楽などの利便性を求めて」が最も多く、74.4%、次いで「通勤の利便性を求めて」が58.1%となっています。

「その他」の内容としては、「都会が良い」が3件、「自然豊かな場所がいいから」、「友人やいところが町外にいるから」といった回答がありました。

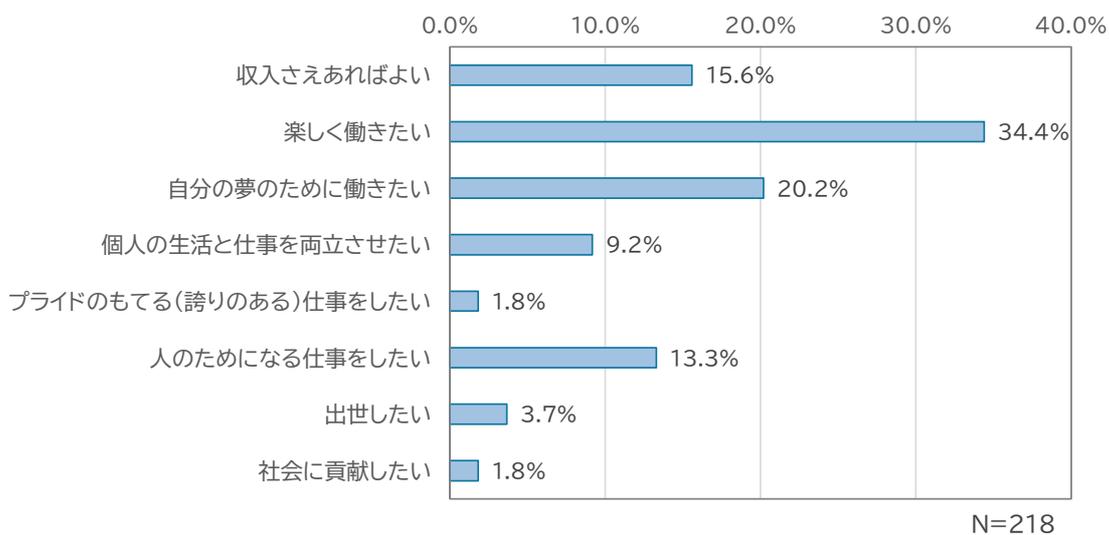
選択肢	回答数	回答率
通勤の利便性を求めて	68	58.1%
買い物や娯楽などの利便性	87	74.4%
医療や福祉サービスの利便性	30	25.6%
積雪や冬の寒さの負担軽減	35	29.9%
一人暮らしをしたいから	67	57.3%
その他	8	6.8%
有効回答者数	117	-
無回答	0	-



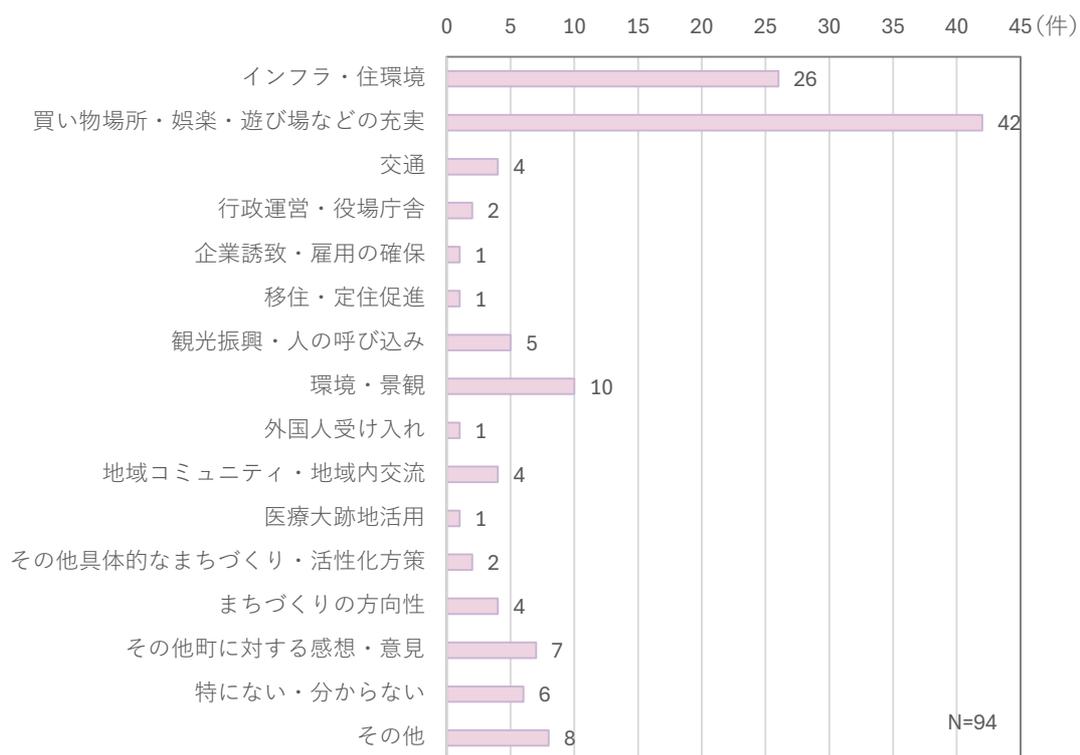
vi)仕事や就職に対する考え方

仕事や就職に対する考え方は、「楽しく働きたい」が最も多く、34.4%、次いで「自分の夢のために働きたい」が20.2%となっています。

選択肢	回答数	割合
収入さえあればよい	34	15.6%
楽しく働きたい	75	34.4%
自分の夢のために働きたい	44	20.2%
個人の生活と仕事を両立させたい	20	9.2%
プライドのもてる(誇りのある)仕事をしたい	4	1.8%
人のためになる仕事をしたい	29	13.3%
出世したい	8	3.7%
社会に貢献したい	4	1.8%
合計	218	100.0%



自由記述を集計した結果、買い物場所・娯楽・遊び場などの充実が最も多く 42 件、次いでインフラ・住環境が 26 件、環境・景観が 10 件と続きます。



各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容
インフラ・住環境	道路・歩道の整備 (12 件)、街灯の整備 (7 件)、除排雪体制の改善 (5 件)、未広団地の老朽化など
買い物場所・娯楽・遊び場などの充実	大型店・ショッピングモール・お店等の不足 (18 件)、飲食店・娯楽施設・集まる場所等の不足 (17 件)、公園・遊具・スポーツ施設の整備・充実 (10 件)、学習スペースの充実、買い物場所の偏りなど
交通	JR の本数の少なさ・運賃の高さ (2 件)、ふれあいバスの本数・便増加、スクールバスの充実
行政運営・役場庁舎	頼りがいがある、財政の使い方の考慮の不足
企業誘致・雇用の確保	国道 337 号沿いへの誘致
移住・定住促進	ロイズタウン駅周辺の宅地造成
観光振興・人の呼び込み	ロイズタウン駅周辺の活性化 (2 件)、新しい観光名所の創設 (2 件)、特産品の増加
環境・景観	自然環境の魅力・保全 (5 件)、虫・野生動物対策 (3 件) など
外国人受け入れ	お互い助け合えればよい
地域コミュニティ・地域内交流	イベントの開催数増加 (2 件)、地域の店の出店増加など
医療大跡地活用	アミューズメント施設の建設
その他具体的なまちづくり・活性化方策	情報発信・PR 強化、動物と触れ合う場の増加
まちづくりの方向性	自然豊かなまちづくり、コンパクトシティ、建物を増やしすぎない、全員が幸せに暮らせるまちづくり
その他町に対する感想や意見	住みやすい・治安が良い (2 件)、人が優しい・つながりが強い (2 件)、美味しい食べ物が多い、高齢者に優しいなど
その他	図書館の蔵書の増加など

(4) 事業者アンケート調査

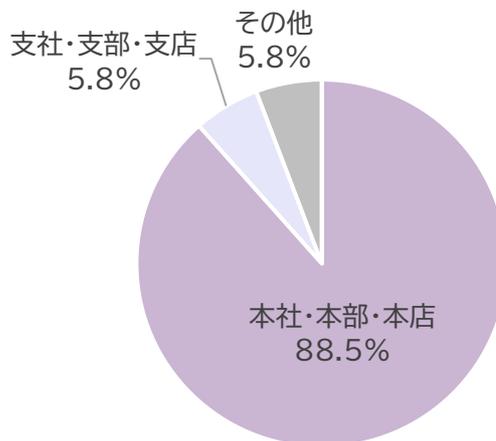
① 事業所概要

i) 事業所区分

事業所区分は、「本社・本部・本店」が 88.5%、「支社・支部・支店」「その他」が 5.8%となっています。

「その他」の内容としては、「事業所」、「クリニック」、「生産工場」といった回答がありました。

選択肢	回答数	割合
本社・本部・本店	46	88.5%
支社・支部・支店	3	5.8%
その他	3	5.8%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%

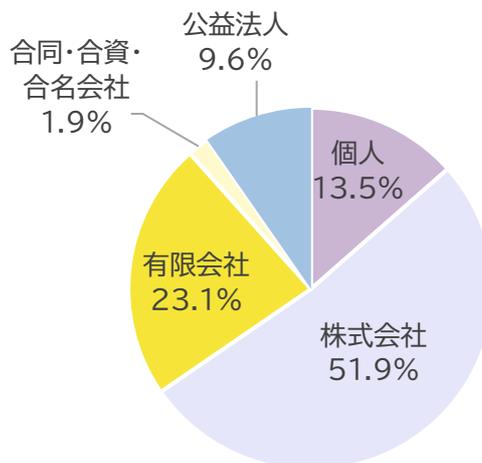


N=52

ii) 組織形態

組織形態は、「株式会社」が最も多く 51.9%、次いで「有限会社」が 23.1%となっています。

選択肢	回答数	割合
個人	7	13.5%
株式会社	27	51.9%
有限会社	12	23.1%
合同・合資・合名会社	1	1.9%
公益法人	5	9.6%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%

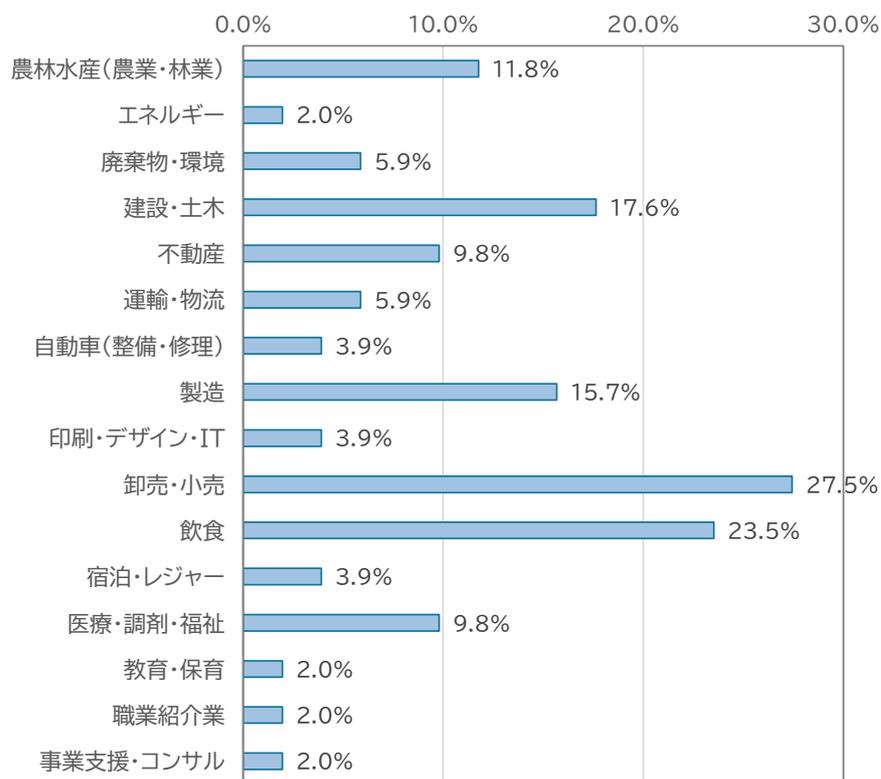


N=52

iii) 主な事業内容(複数回答可)

主な事業内容は、「卸売・小売」が最も多く 27.5%、次いで「飲食」が 23.5%となっています。

選択肢	回答数	割合
農林水産(農業・林業)	6	11.8%
エネルギー	1	2.0%
廃棄物・環境	3	5.9%
建設・土木	9	17.6%
不動産	5	9.8%
運輸・物流	3	5.9%
自動車(整備・修理)	2	3.9%
製造	8	15.7%
印刷・デザイン・IT	2	3.9%
卸売・小売	14	27.5%
飲食	12	23.5%
宿泊・レジャー	2	3.9%
医療・調剤・福祉	5	9.8%
教育・保育	1	2.0%
職業紹介業	1	2.0%
事業支援・コンサル	1	2.0%
有効回答者数	51	-
無回答	1	-

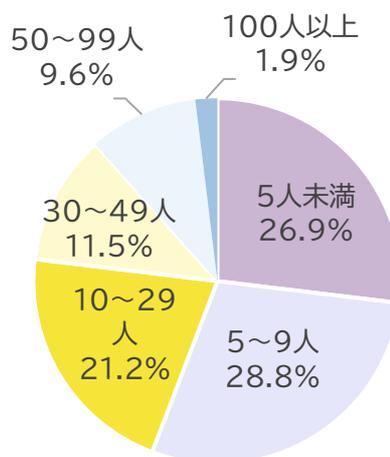


N=51

iv)従業員数

従業員数は、「5～9人」が最も多く28.8%、次いで「5人未満」が26.9%となっています。

選択肢	回答数	割合
5人未満	14	26.9%
5～9人	15	28.8%
10～29人	11	21.2%
30～49人	6	11.5%
50～99人	5	9.6%
100人以上	1	1.9%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%

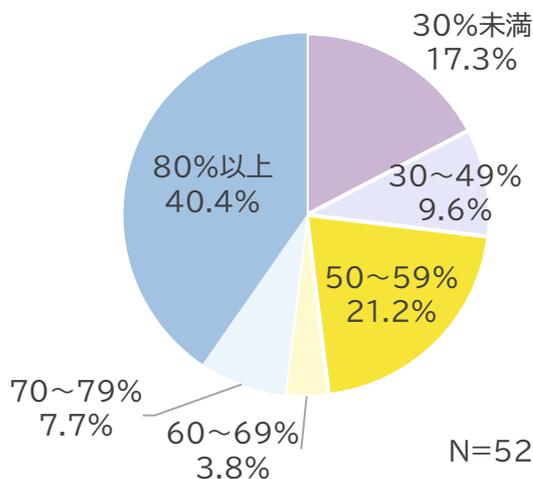


N=52

v)従業員の町内居住割合

従業員の町内居住割合は、「80%以上」が最も多く40.4%、次いで「50～59%」が21.2%となっています。

選択肢	回答数	割合
30%未満	9	17.3%
30～49%	5	9.6%
50～59%	11	21.2%
60～69%	2	3.8%
70～79%	4	7.7%
80%以上	21	40.4%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%



N=52

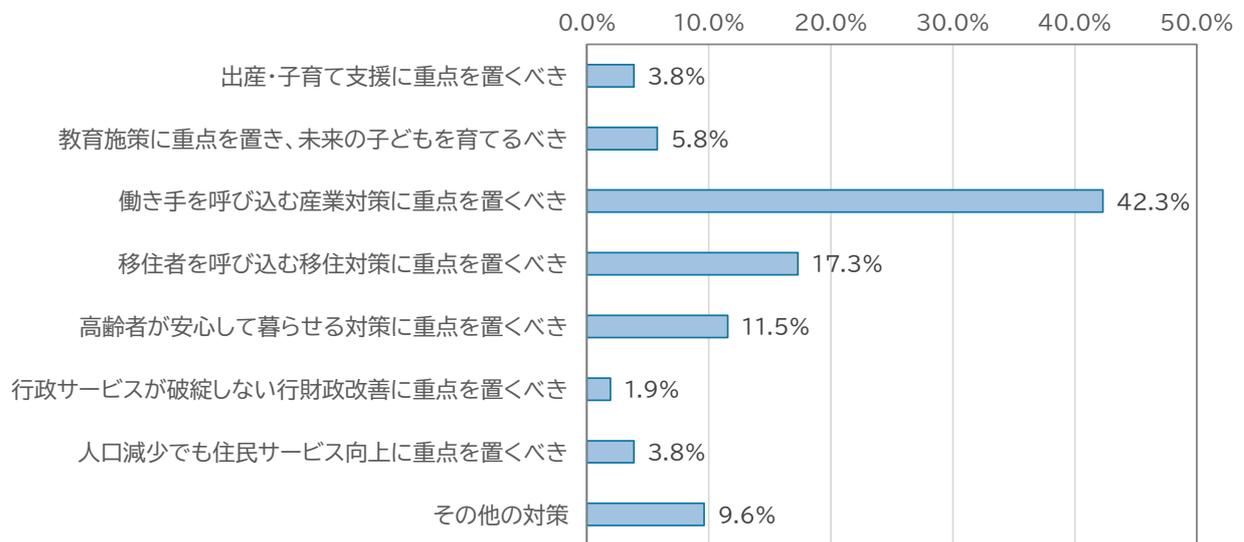
② 将来人口ビジョンと当別町のまちづくり

i) 人口減少の見直しに対して行うべき対策

人口減少の見直しに対して行うべき対策は、「働き手を呼び込む産業対策に重点を置くべき」が最も多く 42.3%、次いで「移住者を呼び込む移住対策に重点を置くべき」が 17.3%となっています。

「その他の対策」としては、「人材の育成や企業誘致」2件、「関係人口増加と新しい取組への挑戦」、「環境にやさしいまちづくり」、「クーポン事業など目に見える形での取組」といった回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
出産・子育て支援に重点を置くべき	2	3.8%
教育施策に重点を置き、未来の子どもを育てるべき	3	5.8%
働き手を呼び込む産業対策に重点を置くべき	22	42.3%
移住者を呼び込む移住対策に重点を置くべき	9	17.3%
高齢者が安心して暮らせる対策に重点を置くべき	6	11.5%
行政サービスが破綻しない行財政改善に重点を置くべき	1	1.9%
人口減少でも住民サービス向上に重点を置くべき	2	3.8%
その他の対策	5	9.6%
無回答	2	3.8%
合計	52	100.0%



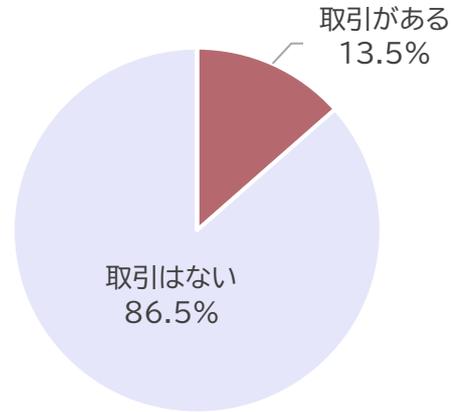
N=52

③ 「北海道医療大学の移転」について

i) 北海道医療大学との取引の有無

北海道医療大学との取引の有無は、「取引はない」が 86.5%、「取引がある」が 13.5%となっています。

選択肢	回答数	割合
取引がある	7	13.5%
取引はない	45	86.5%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%



N=52

ii) 売上に占める北海道医療大学の割合

※北海道医療大学と取引があると回答した事業者のみ回答

売上に占める北海道医療大学の割合は、「0.1%未満」「0.5～1%未満」が 2 社 (28.6%)、「0.1～0.3%未満」「1～3%未満」「3%以上」が 1 社 (14.3%) となっています。

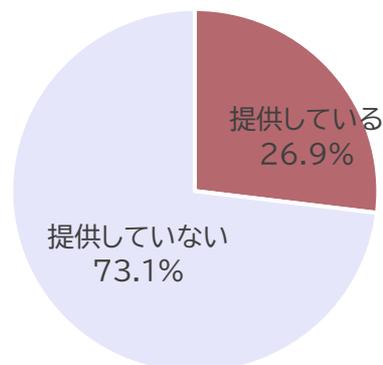
選択肢	回答数	割合
0.1%未満	2	28.6%
0.1～0.3%未満	1	14.3%
0.3～0.5%未満	0	0.0%
0.5～1%未満	2	28.6%
1～3%未満	1	14.3%
3%以上	1	14.3%
無回答	0	0.0%
合計	7	100.0%

業種	割合
自動車修理業	0.001%
建設資材販売・住宅リフォーム工事	0.002%
北海道産亜麻を利用した主に食品の製造小売	0.1%
自動車整備工場	0.5%
港湾土木、浚渫工事 道路、河川維持工事 除雪	0.7%
石油燃料販売	1%
医薬品販売、調剤、不動産管理	50%

iii)北海道医療大学の学生や関係者へのサービス等の提供有無

北海道医療大学の学生や関係者へのサービス等の提供有無は、「提供している」が26.9%、「提供していない」が73.1%となっています。

選択肢	回答数	割合
提供している	14	26.9%
提供していない	38	73.1%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%



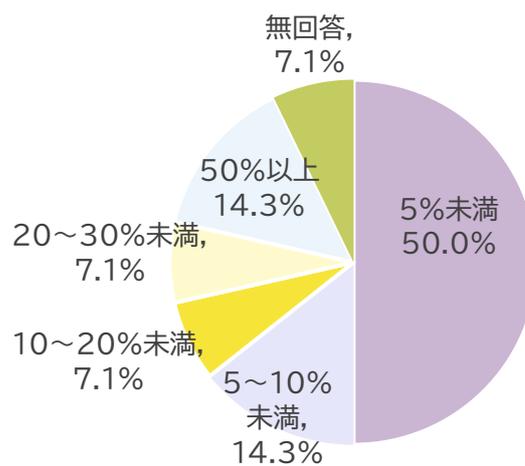
N=52

iv)売上に占める学生や関係者の割合

※北海道医療大学の学生や関係者へのサービス等を提供していると回答した事業者のみ回答

売上に占める学生や関係者の割合は、「5%未満」が7社(50.0%)、「5~10%未満」「50%以上」が2社(14.3%)、「10~20%未満」「20~30%未満」が1社(7.1%)となっています。

選択肢	回答数	割合
5%未満	7	50.0%
5~10%未満	2	14.3%
10~20%未満	1	7.1%
20~30%未満	1	7.1%
30~40%未満	0	0.0%
40~50%未満	0	0.0%
50%以上	2	14.3%
無回答	1	7.1%
合計	14	100.0%



N=14

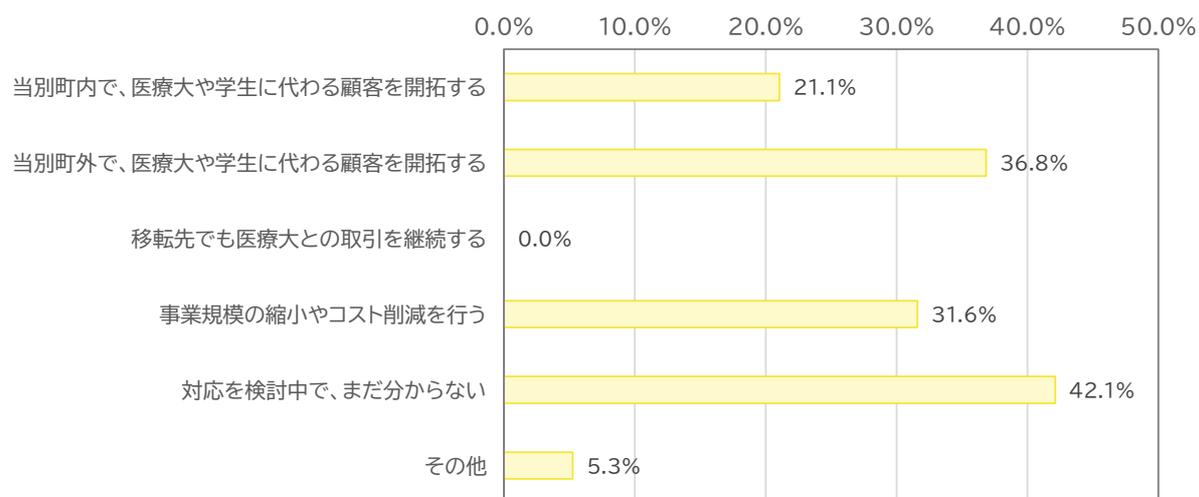
v)大学移転による影響への対処(複数回答可)

※医療大との取引がある、または学生等へサービス提供している事業者のみ回答

大学移転による影響への対処は、「対応を検討中で、まだ分からない」が 42.1%、次いで「当別町外で、医療大や学生に代わる顧客を開拓する」が 36.8%となっています。

「その他」の内容としては、特に影響がない（間接的な影響はわからない）といった回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
当別町内で、医療大や学生に代わる顧客を開拓する	4	21.1%
当別町外で、医療大や学生に代わる顧客を開拓する	7	36.8%
移転先でも医療大との取引を継続する	0	0.0%
事業規模の縮小やコスト削減を行う	6	31.6%
対応を検討中で、まだ分からない	8	42.1%
その他	1	5.3%
有効回答者数	19	-
無回答	1	-

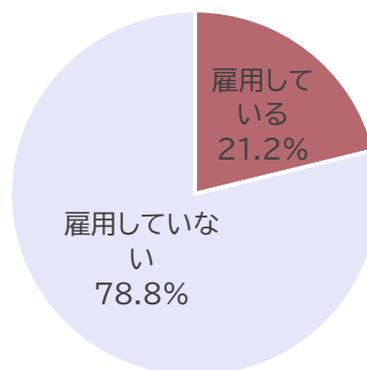


N=19

vi)北海道医療大学の学生アルバイト雇用有無

北海道医療大学の学生アルバイト雇用有無は、「雇用している」が 21.2%、「雇用していない」が 78.8%となっています。

選択肢	回答数	割合
雇用している	11	21.2%
雇用していない	41	78.8%
無回答	0	0.0%
合計	52	100.0%



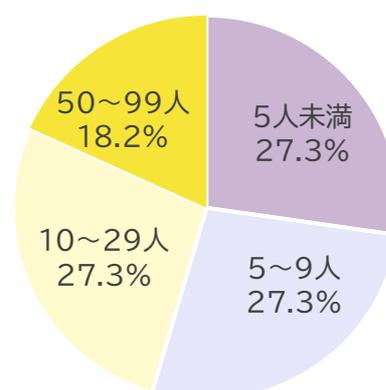
vii)アルバイトスタッフの人数

N=52

※「雇用している」と回答した事業者のみ回答

アルバイトスタッフの人数は、「5人未満」「5～9人」「10～29人」が3社(27.3%)、「50～99人」が2社(18.2)%となっています。

選択肢	回答数	割合
5人未満	3	27.3%
5～9人	3	27.3%
10～29人	3	27.3%
30～49人	0	0.0%
50～99人	2	18.2%
100人以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	11	100.0%



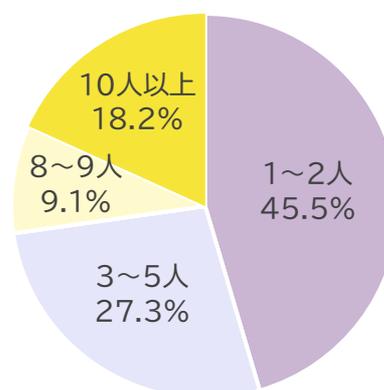
N=11

viii)アルバイトスタッフのうち北海道医療大学の学生数

※「雇用している」と回答した事業者のみ回答

北海道医療大学生のアルバイトスタッフの人数は、「1～2人」が5社(45.5%)、「3～5人」が3社(27.3%)、「8～9人」が1社(9.1%)、10人以上が2社(18.2%)となっています。

選択肢	回答数	割合
0人	0	0.0%
1～2人	5	45.5%
3～5人	3	27.3%
6～7人	0	0.0%
8～9人	1	9.1%
10人以上	2	18.2%
無回答	0	0.0%
合計	11	100.0%



ix)北海道医療大学移転による影響への対処(複数回答可)

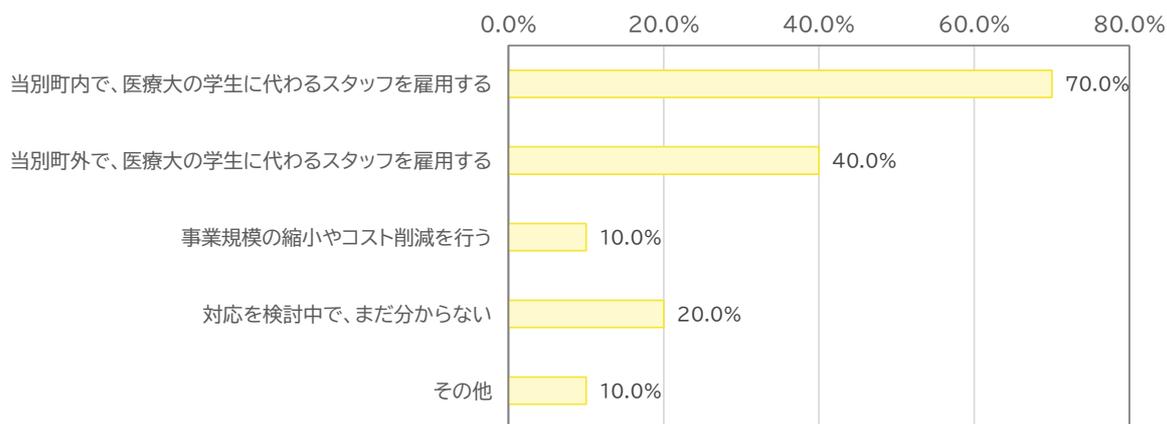
N=11

※北海道医療大学の学生を雇用している事業者のみ回答

北海道医療大学移転による影響への対処方法は、「当別町内で、医療大の学生に代わるスタッフを雇用する」が最も多く70.0%、次いで「当別町外で、医療大の学生に代わるスタッフを雇用する」が40.0%となっています。

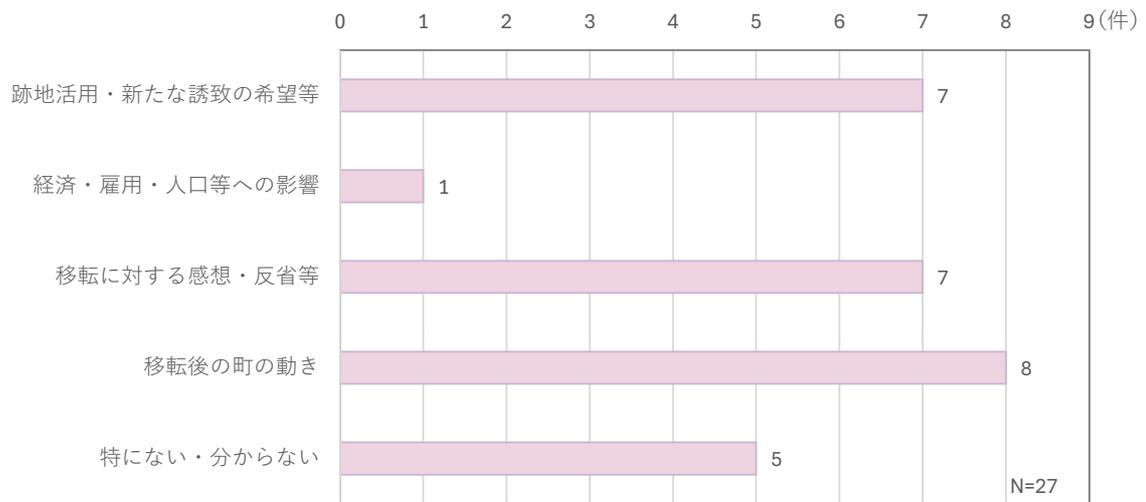
「その他」の内容としては、「学生からファミリー向けへのアパートの転換促進」といった回答がありました。

選択肢	回答数	回答率
当別町内で、医療大の学生に代わるスタッフを雇用する	7	70.0%
当別町外で、医療大の学生に代わるスタッフを雇用する	4	40.0%
事業規模の縮小やコスト削減を行う	1	10.0%
対応を検討中で、まだ分からない	2	20.0%
その他	1	10.0%
有効回答者数	10	-
無回答	1	-



N=10

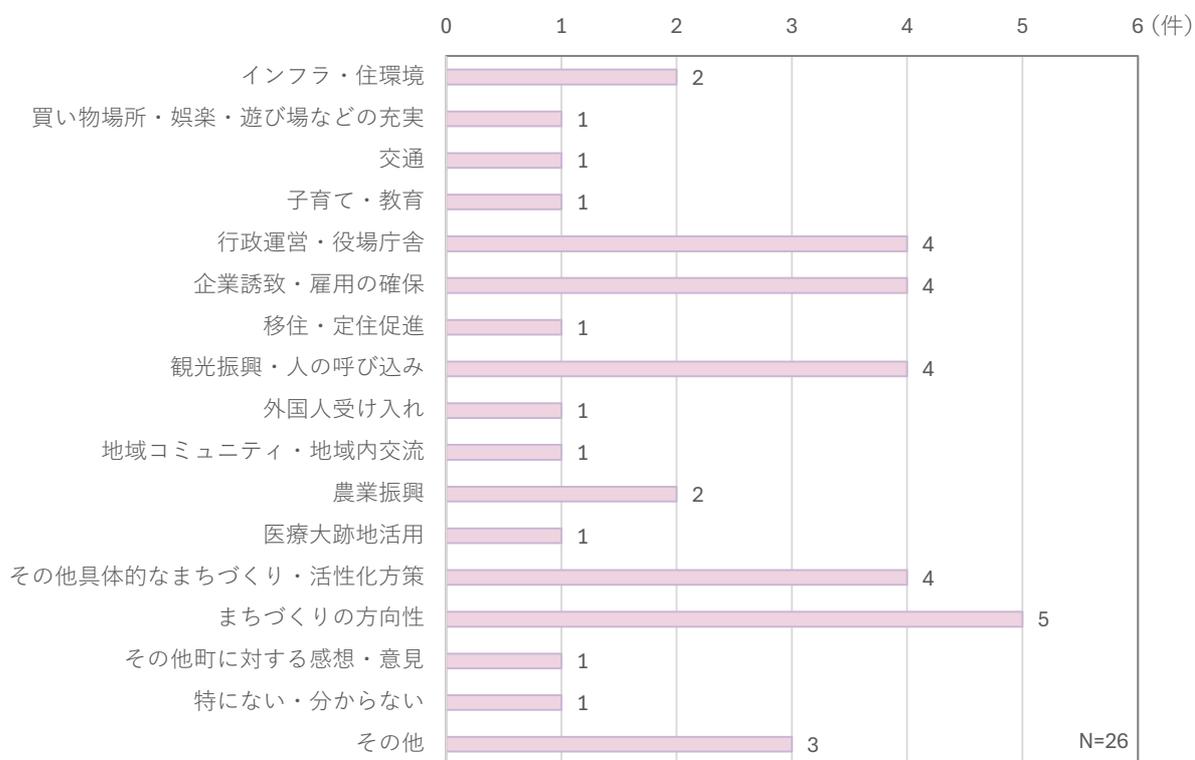
自由記述を集計した結果、移転後の町の動きが最も多く8件、次いで跡地活用・新たな誘致の希望等が7件、移転に対する感想・反省等が7件と続きます。



各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容（まとめ）
跡地活用・新たな誘致等	跡地活用のポテンシャル・情報発信の必要性（2件）、ラピダス関連の企業誘致、大学が所有している森を活かした企業の誘致、ファイターズ2軍誘致、どのように活用するのかの疑問など
経済・雇用・人口等への影響	受注先の契約解除等の影響が出始めている
医療サービス維持への懸念	通院先喪失の不安（2件）、開業医の増加希望（1件）
移転に対する感想・反省等	仕方がない/残念（3件）、移転は不透明（2件）、残ってほしい、町の対応への反省など
移転後の町の動き	町の動きや考えの発信が必要（2件）、町に有利な展開となるよう大学と交渉すべき、自立したまちづくりへの期待、社会状況等に留意して対応を考えるべき、挑戦する姿勢を見せるなど
その他	飲食店を減らさない対策をしなければ町外への移転も考える

自由記述を集計した結果、まちづくりの方向性が最も多く 5 件、次いで行政運営・役場庁舎、企業誘致・雇用の確保、観光振興・人の呼び込み、その他具体的なまちづくり・活性化方策が 4 件と続きます。



各項目の主な意見内容は以下の通りです。

項目	主な意見内容（まとめ）
インフラ・住環境に関する意見	暴風雪対策の不備、末広団地の跡地活用
買い物場所・娯楽・遊び場などの充実に関する意見	夜の飲み屋街の活性化
交通に関する意見	通勤・通学時間帯のアクセス改善
子育て・教育に関する意見	子育て支援策の実施
行政運営・役場庁舎に関する意見	行政運営についての意見（2件）、役場の移転についてなど
企業誘致・雇用の確保に関する意見	企業誘致への資本の集中、ファイターズ2軍誘致、北海道バレー構想に沿った企業誘致、雇用対策など
移住・定住促進に関する意見	子育て支援策の実施
観光振興・人の呼び込みに関する意見	人を呼ぶイベントや施設の増設、ビアガーデン等の実施など
外国人受け入れに関する意見	外国人による土地買収の制約
地域コミュニティ・地域内交流に関する意見	冬のイベントの実施
農業振興に関する意見	町独自の特徴を出した農業振興と商品化等による活性化、若手の育成が重要
医療大跡地活用に関する意見	北海道バレー構想に沿った企業誘致
その他具体的なまちづくり・活性化方策に関する意見	商店街の活性化、米・野菜の自給率を上昇させる、町の設備・人・食材や商品での活性化、外食をする日課を作るなど
まちづくりの方向性に対する意見	交通アクセスや自然等の優位性を活かしたまちづくり（2件）、町民の意見・アイデアを集めたまちづくり（2件）、町民から愛されるあまちづくり、若い力を活かした挑戦するまちづくり
その他町に対する感想や意見	人が素敵でつながりが強い